



家庭用蓄電システム トライブリッド蓄電システム®

V2Hシステム

: ES-PL1

このたびは、ニチコン トライブリッド蓄電システムをお買い上げいただきまして
まことにありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みいただいたうえで、正しくお使いください。
また、保証書とともに大切に保管してください。

※ 本書だけでは本製品のすべての操作を行うことはできません。
必ずパワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書もあわせてご利用ください。

V2H システム取扱説明書

安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ずお守りください。
- お読みになられた後も、ご利用される方がいつでも参照できるところに必ず保管してください。

ここに示した事項は、△警告 △注意に区分しています。

	警告	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡、または重傷を負う可能性が想定される事項。
	注意	取り扱いを誤った場合、使用者が重傷を負う危険が想定される事項、および物的損害のみの発生が想定される事項。

絵表示については次のような意味があります。

	* 必ずアース線を接続 安全アース端子付きの機器の場合、使用者に必ずアース線を接続して接地をとるように指示する表示		* 感電注意 特定の条件において、感電の可能性を注意する通告
	* 一般的な禁止 特定しない一般的な禁止の通告		* 分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止の通告
	* 一般的な指示 特定しない一般的な使用者の行為を指示する表示		* 高温注意 特定条件においてやけどに対する注意を促す通告

△ 警告

	取付工事・修理・移動・再設置・破棄はお買い上げの販売会社に依頼する 適切な施工・処置がなされない場合、感電や火災のおそれがあります。		本製品には、灯油やガスを用いた暖房機器、電熱機器など、火災を引き起こす可能性のあるものは接続しない 災害時に火災の原因になることがあります。やむなく接続している場合は、停電時に自動で給電しない設定にし、安全を確認しながらご利用ください。
	付属品やオプション品などを含め、本製品を分解・改造しない 感電や傷害を負うおそれがあります。		本製品には、途中で電源が切れると困る家電製品は接続しない 夜間や曇りなどで太陽光発電電力または蓄電池ユニットの電力が不足すると蓄電システムは停止し、家電製品の電源が切れますので、パソコンなどのデータが破損するおそれがあります。また、不安定な電源なので生命にかかわる機器（医療機器など）には絶対に使用しないでください。
	子供を近づけない 感電・やけど・火災のおそれがあります。		蹴ったりして強い衝撃を与えない 変形により短絡し、発熱・発火・破裂・火災のおそれがあります。
	災害などにより本蓄電システムが浸水、水没、変形、破損、転倒などした場合、本蓄電システムに近づかない 感電、有害ガスの発生、発熱、発煙、発火、蓄電池からの電解液が漏れるなどの危険がありますので、「V2H システムを停止させる場合」（53 ページ）に従って蓄電システムを停止させ、すみやかにお買い上げの販売会社にご連絡ください。		放熱口などに物（金属、紙、水など）を差し込んだり中に入れたりしない 火災・感電・故障の原因となります。
	コンセントに金属、紙、水などを差し込んだり、中に入れたりしない 火災・感電・故障のおそれがあります。		本製品のフロントパネルなど機器を開けない 内部に電圧の高い部分があります。感電のおそれがあります。

**お子様に操作させない**

感電、やけど、火災のおそれがあります。



付属品やオプション品などを含め、本製品の上に乗ったり、座ったり、ぶらさがったり、物を置かない
機器が変形・脱落し、けが・感電・故障のおそれがあります。



自動切替開閉器や蓄電システム用ブレーカ等の端子台に触れない

感電のおそれがあります。



V2H スタンドの「高温部火傷注意」と記載されたラベルが貼ってある天面とその周囲には触れない
やけどのおそれがあります。



本製品の近くに可燃性ガスや引火物を置かない (60 cm 以内)

電気部品のスパークで漏れたガスや引火物などに引火するおそれがあります。



煙が出る、変なにおいがする場合は、本製品には近づかず、専用アプリや室内リモコンで本システムの運転を停止し、蓄電システム用ブレーカを「OFF」にする

そのまま使用すると、火災の原因となります。すみやかに買い上げの販売会社にご連絡ください。



植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器 (ICD) を使用している方は、充電中、給電中の本製品に近づかない

機器本体からの電磁波が、ペースメーカおよび ICD の動作に一時的な影響を与える場合があります。



充電ケーブルを踏む、上に物を置く、ひきずるなどしない

ケーブルが損傷し、火災や感電のおそれがあります。



充電コネクタを車両に接続する場合は、ぬれないようにする

感電・故障のおそれがあります。



充電コネクタをぬれた手で触らない

感電のおそれがあります。



充電コネクタの金属接点に触れない

高い電圧が加わり感電のおそれがあります。

⚠ 注意

本製品では、負荷によって使用できないものがある
ポンプやモーターなど起動時に大きな電力を必要とするものは使用しないでください。



シンナー、ベンジン、アルコールなどの薬品を含んだ布でふかない

製品の変色原因となります。



本製品の放熱口を塞いだり放熱口付近に荷物を置いたりしない

温度上昇により蓄電システムが自動停止する可能性があります。



ご利用中に室内リモコンの電源スイッチを OFF にしない

蓄電池が充電されないため使用できなくなり、電池交換 (有償) となる可能性があります。



室内リモコンをぬれた手でさわると、ぬれた布でふくなどしない

感電の原因となることがあります。



本製品の近くで殺虫剤などの可燃性ガスを使用しない

引火し、やけど・火災の原因となることがあります。



取扱説明書を熟読する

ご使用される前には取扱説明書や製品の注意書きをよくお読みになり、正しくご使用ください。



本システムの近くでテレビやラジオ、無線などを使用しない

テレビの画面が乱れる、ラジオ、無線に雑音が入ることがあります。受信している電波が弱い場所では、電磁障害を受けるおそれがあります。



本システムや太陽光発電パネルの配線などから発生する電氣的雑音が、近隣のアマチュア無線通信やラジオなどの受信に影響を与えることがあります。



点検コードが連続的に表示されている状態のまま放置しない

蓄電池が充電されないため使用できなくなり、電池交換 (有償) となる可能性があります。



ソフトウェアの更新が専用アプリや室内リモコンの画面に表示されたら、必ずすぐに更新する

ソフトウェアの更新にはインターネットへの接続が必要です。



落雪などで本製品の放熱口が塞がらないよう設置状況により防雪・雪囲いなどの処置を行う

温度上昇により蓄電システムが自動停止する可能性があります。



日差しの強い日や氷点下の日、充電コネクタおよび本体を素手でさわらない

やけどや凍傷の原因となります。



製品に殺虫剤・除草剤をかけない

製品の変色、破損の原因となることがあります。



車両に接続しない場合、充放電コネクタは V2H ポッドに正しく格納する
破損のおそれがあります。



動物の排泄物等が付着することがないように、日常点検を行う
錆などの腐食が促進され、製品倒壊の原因となることがあります。



植物などが本体の放熱口から内部に侵入しないように、日常点検を行う
温度上昇により本体の自動停止、または破損の可能性あります。



製品に植栽などの土がかからないようにする
錆などの腐食が促進され、製品倒壊の原因となることがあります。



廃棄処理・リサイクルについて
使用後、すみやかに廃棄してください。廃棄する場合は、お買い上げの販売会社にお問い合わせください。
廃棄費用はお客様負担となります。

本書について

本書は、V2H システムの内容を記述します。

必ずパワーコンディショナ同梱のパワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書もあわせて参照してください。

本書で用いる用語は以下のとおりです。

外付け太陽光発電 : 本システムのパワーコンディショナに直接接続していない太陽光発電※¹

太陽光発電 : 本システムの太陽光発電と外付け太陽光発電を合わせた、住宅に設置された太陽光発電

PV : 太陽光発電パネルもしくはそれを含む太陽光発電システムを指す略称

車両 : 電気自動車やプラグインハイブリッド自動車など、駆動用に蓄電池を備えた自動車

V2H システム : 車両の大容量蓄電池から電力を取りだし、家庭の電力として使用することができるシステムで、V2H スタンド・V2H ポッドの総称

系統 : 電力会社から購入する商用電力

自動運転モード : 設定された時間帯の中で、家庭内への電力供給および車両や蓄電池※⁴ への充電を自動で行う動作

手動運転モード : 時間帯に関係なく、設定された時点で行う動作

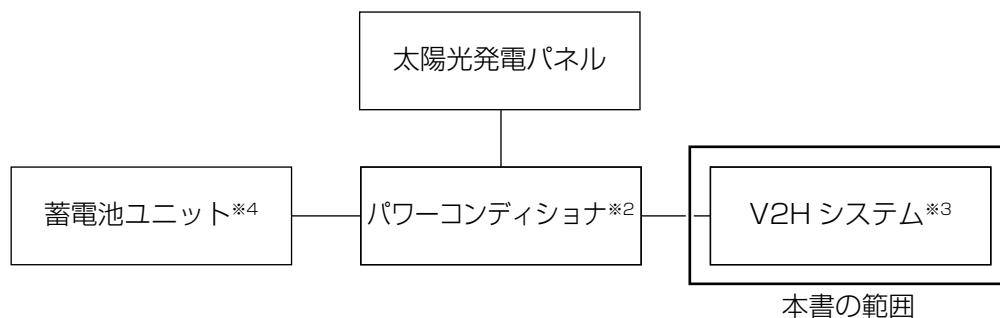
充電 : 太陽光発電または系統の電力を車両や蓄電池※⁴ に蓄える動作

放電 : 車両や蓄電池※⁴ に蓄えている電力を供給する動作

給電 : 太陽光発電や車両、蓄電池※⁴ に蓄えられた電力をご家庭に供給する動作

専用アプリ : 本システムを操作するための専用アプリケーション

プッシュ通知 : 本システムの動作に関する情報をスマートフォンで受信する機能



※ 1: 外付け太陽光発電は、蓄電システムとは別の太陽光パワーコンディショナが必要です。

※ 2: パワーコンディショナは、ニチコン社製 [ES-T5/ES-T5CK/ES-T6/ES-T6CK] に限ります。詳しくは、パワーコンディショナ同梱のパワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書をご参照ください。

※ 3: V2H システム以外の項目は、パワーコンディショナ同梱のパワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書をご参照ください。

※ 4: 蓄電池ユニットを併設していない場合は、蓄電池の充放電動作は行いません。

もくじ

安全上のご注意	2
本書について	4
電気の「家産家消」、もしもの「災害対策」	8
構成例	9
取り扱い上のお願い	10
設置場所について	10
最低離隔距離について	10
V2H スタンド	10
V2H ポッド	10
外形寸法図 / 各部名称	11
V2H システム (ES-PL1)	11
蓄電システムの専用アプリについて	13
専用アプリ / 室内リモコンの表示や画面構成について	13
車両との接続方法	16
V2H ポッドの操作パネルで車両と接続する場合	16
専用アプリ・室内リモコンで車両と接続する場合	17
車両との切断方法	18
V2H ポッドの操作パネルで車両と切断する場合	18
専用アプリ・室内リモコンで車両と切断する場合	19
通常時の使い方	20
V2H システムの各運転モードについて (連系時)	20
自動運転モード	21
手動運転モード	23
放電中の動作について	24
V2H システムの運転モードを選ぶ (連系時)	25
V2H ポッドの操作パネルで V2H システムの運転モードを選ぶ場合	25
専用アプリ、室内リモコンで V2H システムの運転モードを選ぶ場合	26
V2H システムの充放電時刻を変更する	27
運転モードの各種設定を設定する	28
V2H システムの各種設定について	31
V2H システムの各種設定を設定する	34
蓄電池ユニットの各種設定について【蓄電池ユニット併設時のみ】	35

各グラフについて【専用アプリのみ】	36
グラフを表示する【専用アプリのみ】	37
機器情報について	38
停電時の使い方（自立運転）	39
V2H システムの各運転モードについて（停電時）	39
自動運転モード（停電時）	39
手動運転モード（停電時）	40
V2H システムの運転モードを選ぶ（停電時）	41
停電時に車両を利用した起動方法	42
車両の電源ソケットを利用した起動方法	42
充放電コネクタを利用した起動方法	44
停電時に自動で家電製品をご利用になりたい場合	45
復電時の操作	45
こんなときは	46
ブザー音や異音について	46
動作がおかしいと感じたとき	46
ブレーカが頻繁に落ちる場合	46
契約電力を変更する場合	46
停電時に家電製品が使用できない場合	46
室内リモコンの画面が表示されない場合	46
100%まで充電できない場合	46
太陽光発電電力が充電できない場合	47
夏季に充放電・発電動作が停止した場合	47
車両が充放電できない場合	47
蓄電池ユニットが充放電できない場合（蓄電池ユニット併設時）	47
充放電の動作切り替え時に数秒時間がかかる場合	47
定格で充電できない場合	47
コネクタロック・解除を繰り返す場合	47
車両が満充電後、すぐに放電できない場合	48
停電時に放電できない場合	48
停電時に車両の蓄電池残量が下限値を下回った場合	48
充放電コネクタが取り出せなくなった場合	48
充放電コネクタを落としてしまった場合	48
充放電コネクタが濡れてしまった場合	48
充放電コネクタが凍結してしまった場合	48
その他ご使用に関する操作方法等	49
充放電コネクタを緊急離脱する場合	49
停電時、安全を確認してから家電製品をご利用になりたい場合	50
長期不在の場合	52
V2H システムを停止させる場合	53
V2H システムを起動させる場合	55
V2H システムを廃棄する場合	56
風水害または地震などの対応	56

点検コード (BExxx、BFxxx、Blxxx) が表示されたとき	57
点検コードのメッセージと処置	57
蓄電池のメンテナンスモードについて	58
車両に接続する際の注意点	59
日産自動車株式会社の車両 (EV) に接続する際の注意点	60
三菱自動車株式会社の車両 (EV) に接続する際の注意点	60
メルセデス・ベンツ日本合同会社の車両 (EV/PHEV) に接続する際の 注意点.....	60
保証とアフターサービス.....	61
保証について	61
アフターサービスについて	61
補助金に関するご注意	61
購入時に補助金の交付を受けた方	61
遠隔出力制御ルールに関するご注意	62
本製品の機能比較一覧	63
仕様	64
V2H システム	64
V2H システムの使用温度範囲について	64
増設設置の可能期間	65

電気の「家産家消^{※1}」、もしもの「災害対策」

本製品は、住宅の屋根などに設置した太陽光パネルと蓄電池、さらに V2H システムと車両を併用して、暮らしに必要な電気を供給する「トライブリッド蓄電システム[®]」^{※2}です。

多彩な太陽光発電と連携。蓄電池・V2H システム・太陽光のパワーコンディショナを一体化

パワーコンディショナ内に蓄電池の制御だけでなく、太陽光発電用のパワーコンディショナ機能を内蔵しており、幅広いメーカーの太陽光発電パネルを直接接続できます。

また、太陽光発電パネルで発電した直流電力を、直接蓄電池ユニットおよび車両の充電に利用できるため^{※3}、効率のよい電力利用が可能です。また、余剰分が発生した場合は交流変換し、電力会社に売電することもできます。

いつもの生活では「節約」！

昼間の太陽光発電を蓄電池に貯めて、夜間や天気が悪い日などに活用することで、エネルギーの自給自足に貢献します。（グリーンモード）

割安な深夜電力時間帯に系統から充電し、発電していない時間帯は放電、発電している時間帯は余剰電力を売電します。（売電モード）

日常のご使用には、ご家庭の環境やお好みに合わせた運転モードを選ぶことができます。

昼間の太陽光発電電力を夜間、車両に簡単移動する「エレムーブTM」^{※4}

昼間、車両が本システムに接続していない場合は、太陽光発電の余剰電力を一旦蓄電池に充電して（グリーンモード）、夜間に接続した車両に簡単に電力移動（エレムーブ）することができます。

もしもの停電時も「安心」！

本システムは非常時に備えて電力をバックアップします。

突然の停電でも本製品に接続している家電製品は、そのままご利用いただけます^{※5}。

- 昼間の晴天時は、太陽光発電と車両の蓄電池を併用して電力供給します。また、蓄電池ユニットを併設していれば、蓄電池ユニットからも電力供給します。
- 雨や曇りの日、夜間の停電でも電力を蓄えていた蓄電池ユニットから電力を供給します。
- 車両を V2H システムに接続することで、車両から電力供給を行うことができます。
- 全負荷 200 V にも対応。災害などの停電時でもエアコンや IH 調理器などの 200 V 機器を、蓄電した電気で使用することが可能です。

停電への備え

本製品は、停電が発生した場合への備えとして以下のような機能を搭載しています。普段のご家庭の環境も見ながらお客様の判断でご利用ください。

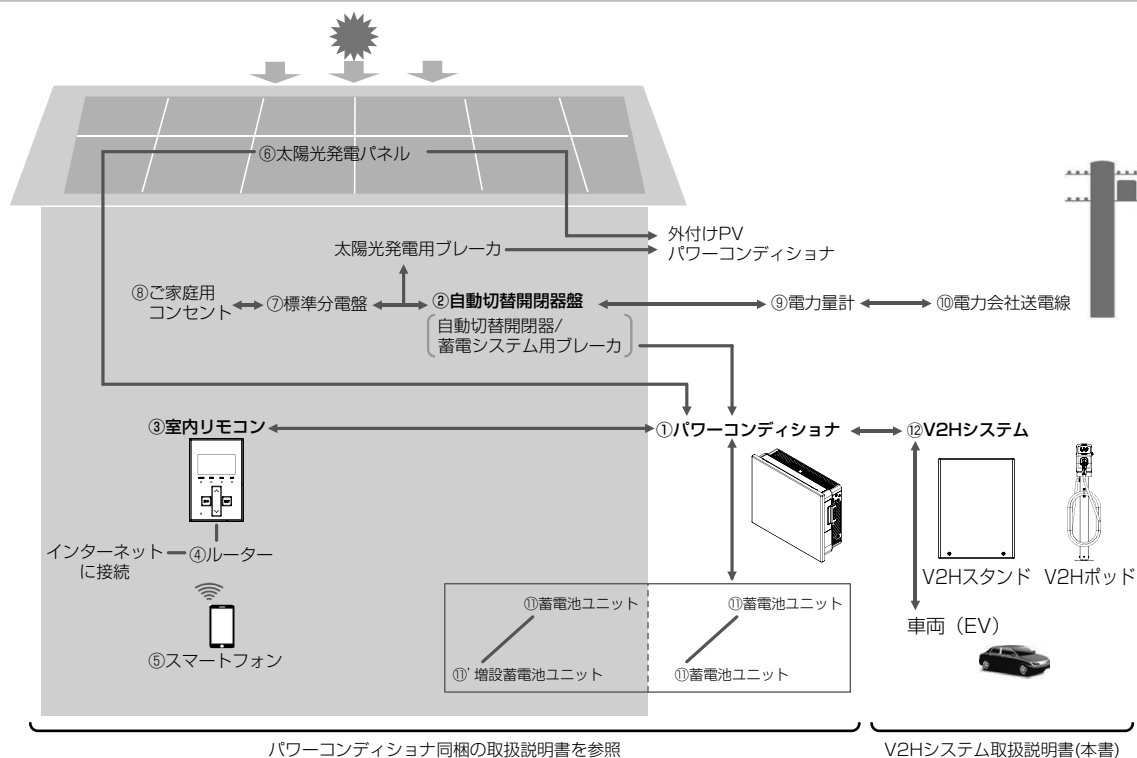
- 車両放電下限値（31 ページ）
停電が発生した場合に備えて、普段から車両に設定した割合の電力を残しておく機能です。高めに設定すると停電時に多くの電力を供給することができますが、普段の電力供給が少なくなり経済性が下がりますのでご注意ください。
- 運転モード「車両充電」、「拡張充電」（23 ページ）
設定すると、車両が満充電になるまで充電を行います。台風の接近時などで車両に電力を確保しておきたいときにご利用ください。

安心の 15 年保証

V2H システムは、15 年間の保証付き^{※6}で、万が一のときも安心です。詳しくは、保証書の内容をよくお読みください。

- ※ 1: 家で作った電気を家で使うことを指す当社の造語です。
- ※ 2: 太陽光発電、蓄電池、車両の 3 つの電源を利用するシステムの総称で、ニチコンの登録商標です。
- ※ 3: 太陽光の発電電力およびご家庭の消費電力によっては、蓄電池や車両への充電電力が確保できない場合があります。
- ※ 4: 本機能は、蓄電池ユニットを併設していない場合は、使用できません。また、エレムーブ動作中は本製品から家庭内への給電が一切できませんので、電力料金時間帯などに注意してお使いください。
- ※ 5: 停電時には、電力供給が一瞬途切れます。本製品に接続している家電製品の仕様によっては電源が切れますので、その時は電源を入れ直してください。電源が切れると支障がある場合は、本製品に接続しないてください。なお、蓄電池ユニットがない場合は、太陽光が発電している場合に限り本製品をご利用いただけます。
- ※ 6: 充放電コネクタケーブルは 10 年保証となります。

構成例



① パワーコンディショナ

太陽光パネルの直接接続を可能にする太陽光発電用パワーコンディショナ・蓄電池ユニット用パワーコンディショナ機能を内蔵しています。太陽光発電回路 (ES-T5/ES-T5CK: 最大 4 回路、ES-T6/ES-T6CK: 最大 5 回路) を直接接続できます。太陽光発電または系統の電力を蓄電池ユニットに充電できます。必要に応じて蓄えた電力を放電します。太陽光発電による余剰電力を電力会社へ送ります。(売電)

② 自動切替開閉器盤 (自動切替開閉器 / 蓄電システム用ブレーカ)

- 自動切替開閉器は、パワーコンディショナと連携し、系統の状態 (通電 / 停電) に応じて自動的に開閉動作を行います。通電時: 閉 (ON) / 停電時: 開 (OFF して系統との電路を遮断しパワーコンディショナが自立運転します。)
- 蓄電システム用ブレーカは、パワーコンディショナに過電流・漏電が発生した場合、自動的に電路を遮断し、二次被害を防ぎます。また、入切スイッチを使って蓄電システムの起動および停止を行います。

③ 室内リモコン

表示画面を備えた操作パネルです。充電・放電状態の表示や各運転モードの設定が行えます。

④ ルーター

蓄電システムをスマートフォンやインターネットと接続するための機器です。

⑤ スマートフォン

専用アプリで充電・放電状態の表示や各運転モードの設定が行えます。専用アプリのご利用には、スマートフォンと接続可能な無線 LAN ルーターを室内リモコンに接続するか、スマートフォンを室内リモコンと直接接続する必要があります。

⑥ 太陽光発電パネル

パワーコンディショナ (内部 PV) や、別の太陽光パワーコンディショナ (外付け PV) に接続し、太陽光を受けて発電します。

⑦ 標準分電盤

契約ブレーカ、主幹漏電ブレーカおよび分岐ブレーカを内蔵しています。

⑧ ご家庭用コンセント

家庭負荷用の電源コンセントです。通常時だけでなく、停電時でも本システムから電力を供給できます。

⑨ 電力量計

買電用と売電用の 2 種類があり、電力会社から購入した電力 (買電) と、電力会社に売る余剰電力 (売電) を計量します。

⑩ 電力会社送電線

不足電力を電力会社から購入し (買電)、太陽光発電による余剰電力を電力会社へ送ります (売電)。

⑪ 蓄電池ユニット / ⑪' 増設蓄電池ユニット

リチウムイオン蓄電池とそれを監視コントロールするバッテリーマネジメントシステムで構成されています。パワーコンディショナを介して電力を蓄える、または蓄えた電力を放電します。蓄電池ユニットに対し、指定の組み合わせで蓄電池容量を増やすことができます。

⑫ V2H システム

パワーコンディショナを介して、車両への充電、車両からの放電を行うための接続機器です。

取り扱い上のお願い

設置場所について

共通

■次のような場所には取り付けない

V2H システム

- ☐ 屋内
- ☐ 標高 2000 m より高いところ
- ☐ 岩礁隣接地域
- ☐ 重塩害地域
- ☐ 揮発性、可燃性、腐食性およびその他の有害ガスのあるところ
- ☐ 振動、衝撃の影響が大きいところ
- ☐ 油蒸気のあるところ
- ☐ 浸水のおそれがあるところ
- ☐ 電界の影響が大きいところ
- ☐ 車両と接触するおそれや、排ガスが直接あたるところ
- ☐ 風通しが悪いところ（物置、倉庫、シャッター付きの車庫を含む）
- ☐ 販売会社で決められていないところ
- ☐ 結露および氷結のあるところ
- ☐ V2H スタンド壁掛設置時に上面が地上から 1800 mm を超えるところ^{*1}（豪雪地帯^{*2}では 2500 mm を超えるところ^{*1}）
- ☐ 次の温度範囲以外のところ
設置環境温度： - 30℃～+45℃
動作温度^{*3}： - 20℃～+40℃

- ☐ 建物の屋根等から雪庇、つらら等が落下するところ
- ☐ 200 cm を超える積雪がふる地域

※ 上記に該当しない場所であれば積雪地でも設置可能ですが、設置の際は以下の点にご注意ください。

- 雪囲いの設置は不要ですが、設置する場合は下記の V2H システムの最低離隔距離を必ず守ってください。また、雪囲いの中に雪が積もる場合は、放熱口が塞がったり、充放電コネクタの使用に支障がでたりしないよう、定期的に除雪してください。
- V2H システム（V2H スタンド、V2H ボッド）および周囲への融雪剤散布は、錆が発生するおそれがあるためお控えください。

※ 1: 設置条件を満たしていない場合、点検・修理等を行う際に足場の設置などの対応費用を請求する場合があります。

※ 2: 累年平均積雪積算値が 5000 cm 日以上地域（豪雪地帯）の存する道府県または市町村を指します。

※ 3: 動作温度範囲を超えると動作が停止したり出力が低下しますが範囲内に戻ると自動復帰します。また、動作温度範囲内であっても充放電電力が低下する場合があります。



最低離隔距離について

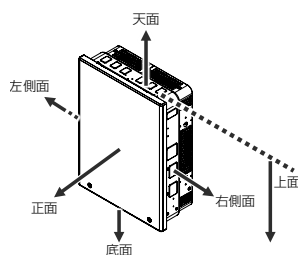
V2H システムの周囲は、排熱とメンテナンスのために、以下の寸法以上の距離を確保してください。また、それらの妨げにならないよう、最低離隔距離範囲内には物を置かないでください。

V2H スタンド

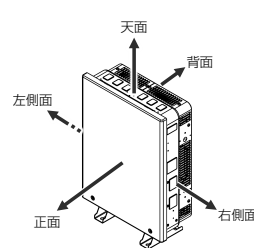
パワーコンディショナに近接して設置する場合は、V2H スタンドの離隔距離を確保してください。

- 側面：それぞれ 300 mm 以上
- 天面：300 mm 以上
- 正面：400 mm 以上
- 底面：700 mm 以上【A のみ】
- 上面：1800 mm 以下^{*1}【A のみ】
- 背面：200 mm 以上【B のみ】

A: 壁掛設置の場合



B: 据置設置の場合

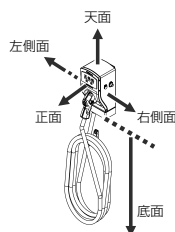


※ 1: V2H スタンドの上面が地上から 1800 mm を超えるところ（豪雪地帯では 2500 mm を超えるところ）には設置できません。設置条件を満たしていない場合、点検・修理等を行う際に足場の設置などの対応費用を請求する場合があります。

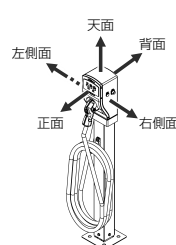
V2H ボッド

- 側面：それぞれ 300 mm 以上
- 天面：200 mm 以上
- 正面：200 mm 以上
- 底面：900 mm 以上【A のみ】
- 背面：300 mm 以上【B のみ】

A: 壁掛設置の場合



B: ポール設置の場合

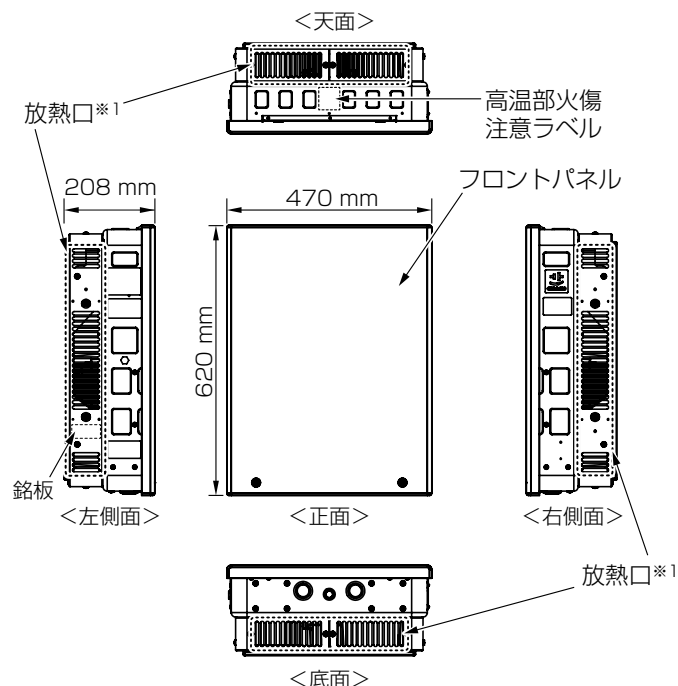


外形寸法図 / 各部名称

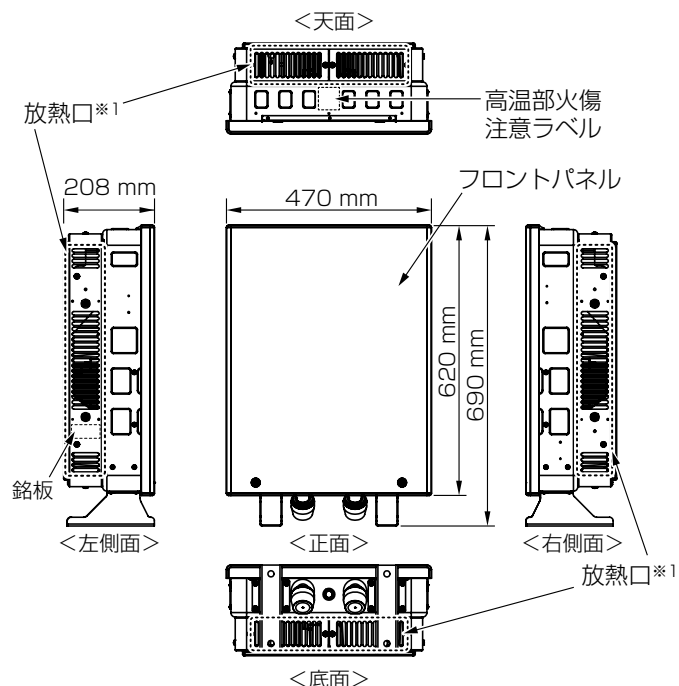
V2H システム (ES-PL1)

V2H スタンド

A: 壁掛設置の場合



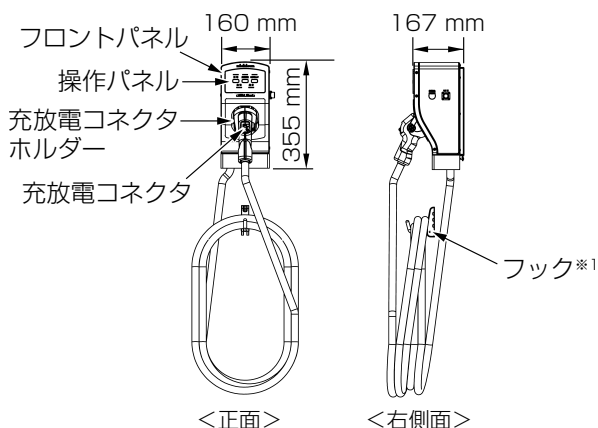
B: 据置設置の場合



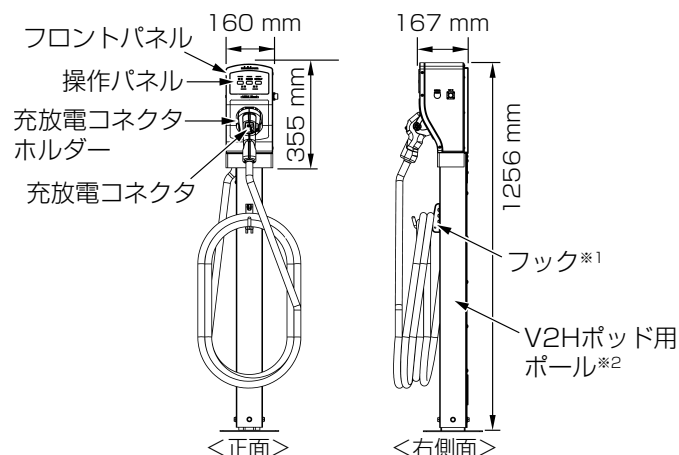
※ 1: 放熱口が塞がると温度上昇により V2H システムが自動停止する場合があります。放熱口を塞がないようご注意ください。

V2H ポッド

A: 壁掛設置の場合



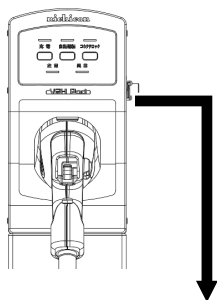
B: 据置設置の場合



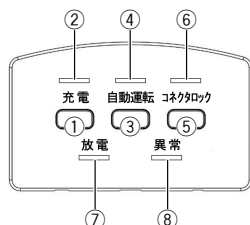
※ 1: 充放電コネクタケーブルはフックに 4 周引っ掛けてください。(推奨)

※ 2: V2H ポッド用ポールはオプション品 (別売品) です。

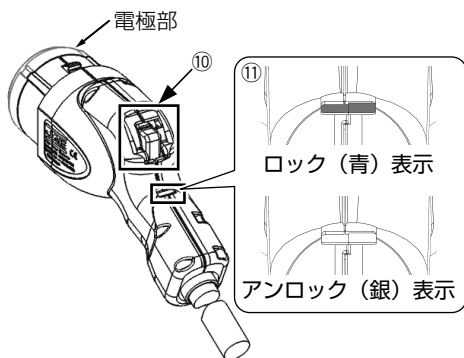
■ V2H ポッド



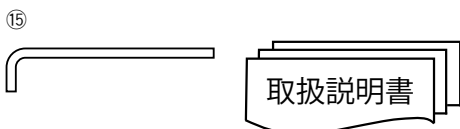
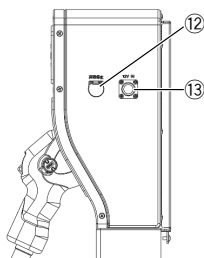
● 操作パネル



● 充放電コネクタ⑨



● 緊急時操作部



① 充電ボタン / ② 充電 LED

充放電コネクタをロックし、車両充電を開始します。
車両充電動作時に充電 LED が以下の通りに点灯します。
橙点灯：車両充電動作中
橙点滅：車両充電開始準備中 / 終了準備中

③ 自動運転ボタン / ④ 自動運転 LED

充放電コネクタをロックし、自動運転モードを開始します。
自動運転モード動作時に自動運転 LED が以下の通りに点灯します。
緑点灯：自動運転モード動作中
緑点滅：自動運転モード開始準備中 / 終了準備中

⑤ コネクタロックボタン / ⑥ コネクタロック LED

充放電コネクタのロック、解除をおこないます。
コネクタロックの状態によりコネクタロック LED が以下の通りに点灯します。
黄点灯：コネクタロック中
黄点滅：コネクタロック準備中 / コネクタロック解除準備中
消灯：コネクタロック解除中

⑦ 放電 LED

放電動作時に青色に点灯します。

⑧ 異常 LED

V2H システム異常時に赤色に点灯します。

⑨ 充放電コネクタ (ケーブル含む)

V2H システムと車両を接続します。

⑩ 解除レバー

充放電コネクタを引き抜くときに押します。

⑪ ロック表示

コネクタロックされているかを表示します。
青：ロック時
銀：アンロック時

⑫ 非常停止ボタン

非常時に押すことで、充電・放電動作を緊急停止します。

⑬ 12V IN

停電時に車両から本システムを起動する場合に必要な、車両と V2H システム間を接続する 12V 電源ケーブルの接続口です。

以下は付属品です。なくさないように保管してください。

⑭ 12V 電源ケーブル

停電時に車両と V2H システム間を接続するケーブルです。使用する際は「車両の電源ソケットを利用した起動方法」(42 ページ) を参照してください。

⑮ 充放電コネクタ緊急離脱工具 (取扱説明書付き)

充放電コネクタが取り出せなくなった緊急時に使用します。使用する際は「充放電コネクタを緊急離脱する場合」(49 ページ) を参照してください。

取扱説明書

⑬ 蓄電池状態および充放電電力 [kW]

蓄電池状態および蓄電池充放電電力を表示します※3.※5.※7。

放電	100 W 以上電力を放電している場合
充電	100 W 以上電力を充電している場合
待機	充放電を行っていない場合 充放電電力が 100 W 未満の場合

⑭ リモート表示【室内リモコンのみ】

見守りサーバー、ECHONET Lite※8、HEMS※9 など外部からの通信により運転しているときに表示されます。

通信状態ではないときは表示されません。

⑮ 現在日時【室内リモコンのみ】

現在の日時を表示します※10。

⑯ 接続方式表示【室内リモコンのみ】

専用アプリと室内リモコンが接続していた場合に、現在の接続方式を表示します※2。

⑰ 車両アイコン [%]

車両の蓄電池残量をアイコンと数値で表示します※11.※12。

	コネクタロック状態 車両がコネクタロックされている場合の表示です。車両は緑で表示されます。
	コネクタロック解除状態 車両がコネクタロックされてない場合の表示です。車両はグレイアウト表示されます。

⑱ 車両状態および充放電電力 [kW]

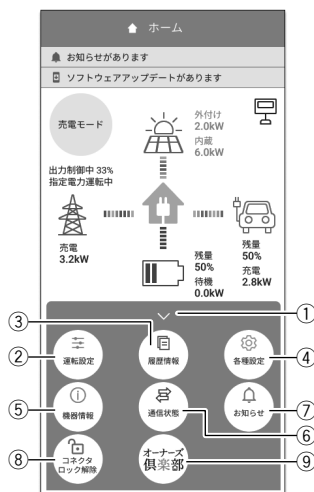
車両状態および車両充放電電力を表示します※3.※7.※12。

放電	100 W 以上電力を放電している場合
充電	100 W 以上電力を充電している場合
待機	充放電を行っていない場合 充放電電力が 100 W 未満の場合

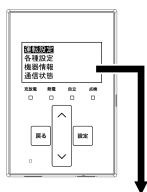
- ※ 1: お知らせは未読のままにしないでください。万が一の機器故障時に早期発見、早期対処するためにも日頃から「 お知らせがあります」表示が出た場合はすぐにご確認ください。
- ※ 2: 詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書を参照してください。
- ※ 3: 他の機器 (HEMS など) の値とは異なる場合があります。目安としてご利用ください。
- ※ 4: 電力が小さい (100W 未満) 場合でも、センサーの誤差などにより、電力の流れが表示される場合があります。
- ※ 5: 蓄電池ユニットを併設していない場合は、表示されません。
- ※ 6: 一度使い切った電池がしばらくすると使える場合があるように、蓄電池特性により、しばらくすると表示が変わることがあります。目安としてご利用ください。
- ※ 7: 100 W 未満の場合は、0.0 kW と表示します。
- ※ 8: 「ECHONET Lite」「エコネットライト」は、エコネットコンソーシアムの登録商標です。
- ※ 9: 「HEMS」は、Home Energy Management System の略です。家庭で使うエネルギーを賢く管理するシステムです。
- ※ 10: インターネットに接続していない場合は、ご利用中に少しずつずれが発生しますので、定期的に日時の設定を行ってください。
- ※ 11: 車両の値とずれることがありますが無異常ではありません。目安としてご利用ください。なお、車種によっては、残量表示が 0% にならない車両があります。
- ※ 12: コネクタロックされていない場合は、表示しません。

■ 画面例 B

● 専用アプリ



● 室内リモコン



- ② 運転設定
- ④ 各種設定
- ⑤ 機器情報
- ⑥ 通信状態
- ⑦ お知らせリスト
- ⑧ コネクタロック設定
- ⑩ ネットワーク設定

B 専用アプリおよび室内リモコンの画面構成を示します。

① ドロワーメニュー【専用アプリのみ】

タッチまたはスワイプすると各ボタンを表示します。各ボタンからさまざまな設定・操作を行います。

② 運転設定

運転開始や運転停止、運転モードの選択や充放電時間に関するメニューを開きます。

運転モード設定	25 ページ
充放電時間帯設定	27 ページ
運転モードの各種設定	28 ページ
運転停止 / 運転開始	53、55 ページ

③ 履歴情報【専用アプリのみ】

各制御の履歴情報や各種グラフに関するメニューを開きます。

出力制御履歴	※ 2
出力制御スケジュール	
電圧上昇抑制履歴	
HEMS 発電抑制履歴	
発電 / 売買電グラフ※ 1	36 ページ
蓄電池充放電グラフ※ 1	
車両充放電グラフ※ 1	

④ 各種設定

構成機器の各種設定に関するメニューを開きます。

太陽光発電	※ 2
蓄電池ユニット※ 1	35 ページ
V2H システム※ 1	31 ページ

⑤ 機器情報

蓄電システムの各種情報に関するメニューを開きます。

登録情報	38 ページ
設定情報	※ 2

⑥ 通信状態

蓄電システムのネットワーク接続状態を表示します。

通信情報	※ 2
------	-----

⑦ お知らせ (お知らせリスト)

蓄電システムで発生した動作や障害に関する点検コードの一覧を表示します。

お知らせ	※ 2
------	-----

⑧ コネクタロック※ 1 / コネクタロック解除※ 1

車両との接続 (コネクタロック) および解除 (コネクタロック解除) を行います。

コネクタロック / コネクタロック解除	16、18 ページ
---------------------	-----------

⑨ オーナーズ倶楽部 / おでかけ接続

専用アプリの WebView でニチコンオーナーズ倶楽部を表示します。

オーナーズ倶楽部 / おでかけ接続	※ 2
-------------------	-----

⑩ ネットワーク設定【室内リモコンのみ】

蓄電システムのネットワーク接続に関するメニューを表示します。

ネットワーク設定	※ 2
----------	-----

※ 1: 併設している機器構成により画面構成が異なります。

※ 2: 詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書を参照してください。

車両との接続方法

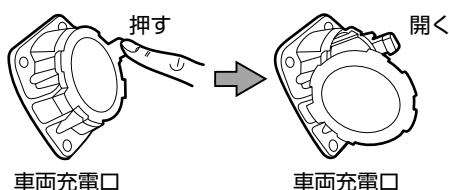
V2H システムを併設している場合、車両との接続 (コネクタロック) は、車両が停止した状態で行います。車両はパーキング状態で、メーターパネルが消えた状態 (POWER OFF) にします。車両との接続 (コネクタロック) は、V2H ポッドの操作パネル、専用アプリまたは室内リモコンで操作することができます。

メモ

- POWER OFF の名称は、車種により異なる場合があります。車両の取扱説明書をご参照ください。
- 車両の取扱説明書を確認してから、下記操作を行ってください。

V2H ポッドの操作パネルで車両と接続する場合

1 車両を準備する



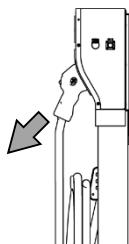
V2H システムと接続するために以下①～④に従って、車両側の準備をしてください。

- ①車両のシフトレバーを P (パーキング) 位置にする。
- ②車両のメーターパネルを OFF の状態にする。
- ③パーキングブレーキをかける。
- ④車両の充電口を開く。

メモ

- 車両ごとに操作が異なるため、車両の取扱説明書をご確認ください。

2 充放電コネクタホルダーから充放電コネクタを取り外す

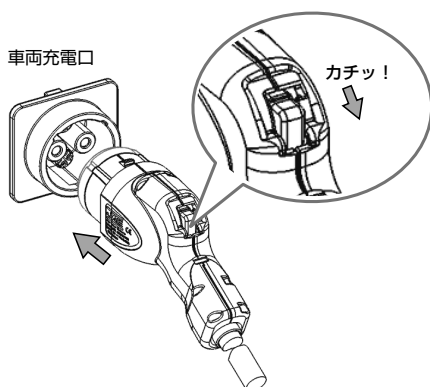


充放電コネクタの解除レバーを押しながら、コネクタを引き抜きます。

メモ

- 充放電コネクタホルダーから充放電コネクタが取り出せなくなった場合は、コネクタロックボタンを一度押すと、点検コード「BI736」を表示してロックが解除されます。(48 ページ)

3 充放電コネクタを車両に接続する

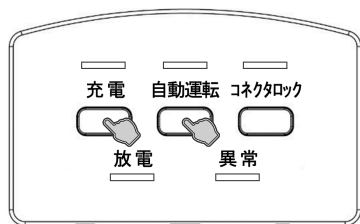


充放電コネクタを車両充電口の奥まで差し込みます。「カチッ」と音がするまで押し込んでください。

メモ

- コネクタが車両に接続されていない状態では、コネクタロックできません。
- 充放電コネクタ接続中は、車両を移動しないでください。車両の充電口や充放電コネクタが破損する可能性があります。

4 V2H システムの動作を開始する



操作パネルの「自動運転」あるいは「充電」ボタンをタッチしてください。コネクタロックを行ったあと、各ボタンに対応した動作を開始します。

- 「自動運転」ボタン：
最後に選択された自動運転モードで動作します。(21 ページ)
- 「充電」ボタン：
手動運転モードの「車両充電」で動作します。(23 ページ)



メモ

- 「コネクタロック」ボタンをタッチした場合は、「自動運転」ボタンと同様の動作となります。
- コネクタロック中は、無理にコネクタを取り外さないでください。
- V2H ポッドの充放電コネクタホルダーにはロックできません。
- コネクタロック解除した直後にロックするときは、ロックするまで 20 秒程度かかることがあります。

専用アプリ・室内リモコンで車両と接続する場合

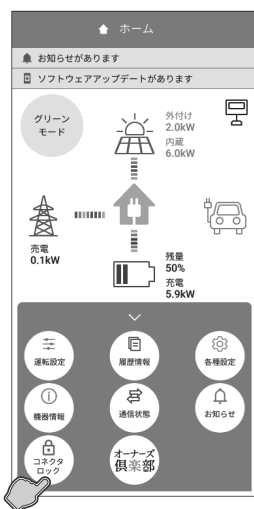
V2H ポッドの操作パネルでコネクタロックを行う場合、本操作は不要です。

1 充放電コネクタを車両に接続する

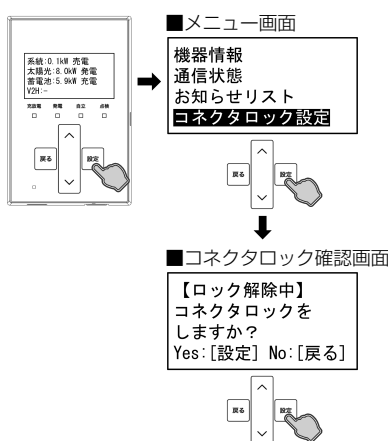
「V2H ポッドの操作パネルで車両と接続する場合」(16 ページ) の手順 1 ～ 3 を行ってください。

2 「コネクタロック」(室内リモコンは「コネクタロック設定」を選択して「設定」)をタッチする

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

車両アイコンがグレースアウト表示されていることを確認し、ドローメニューの「コネクタロック」をタッチ→コネクタロックの確認画面に切り替わります。「はい」をタッチすると、コネクタロックを行います。コネクタロックに成功すると、「ホーム」画面に戻ります。「いいえ」をタッチするとコネクタロックせずに「ホーム」画面に戻ります。

● 室内リモコンの場合

「設定」をタッチ→メニュー画面で「コネクタロック設定」をタッチ→コネクタロック確認画面に切り替わります。「設定」をタッチするとコネクタロックを行います。コネクタロックに成功すると、前画面に戻ります。「戻る」をタッチするとコネクタロックせずに前画面に戻ります。



メモ

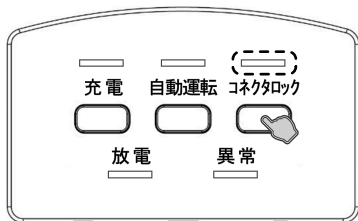
- コネクタロックは 1 分程度かかることがあります。
- コネクタロックをした場合は、選択されている運転モードで動作します。別の運転モードで動作させたい場合は、運転モードを変更してください。
- コネクタロック中は、無理にコネクタを取り外さないでください。
- コネクタロックに失敗した場合は、以下を確認してください。
 - V2H システムの充放電コネクタが車両に正しく接続されていない場合があります。充放電コネクタの接続を確認してください。
 - V2H ポッドの充放電コネクタホルダーにはロックできません。車両に正しく接続してください。
 - コネクタロック解除の直後にコネクタロックを行った場合、コネクタロックが失敗することがあります。20 秒程度経過後、再度「コネクタロック」をタッチしてください。
- 車両の蓄電池残量が 10% を下回った状態でコネクタロックを行うと、車両の蓄電池保護のため、選択されている運転モードに関係なく、自動的に「車両充電」に移行して、車両の蓄電池残量が 12% 程度になるまで強制的に充電を行います。12% 程度まで充電を行った後は、直前の自動運転モードに戻ります。
 - 「車両充電」に移行している間は、ホーム画面上に「車両充電」を表示します。
 - 「車両充電」に移行している間は、運転モードの変更はできません。変更を確定した場合でも、変更内容は本システムには反映されません。「車両充電」終了後に変更してください。
 - 「車両充電」に移行している間であっても、コネクタロックおよびコネクタロック解除は、専用アプリ、室内リモコンまたは V2H システムの「操作パネル」で操作することができます。

車両との切断方法

車両との切断 (コネクタロック解除) は、V2H ポッドの操作パネル、専用アプリ、または室内リモコンで操作することができます。

V2H ポッドの操作パネルで車両と切断する場合

1 コネクタロックを解除する

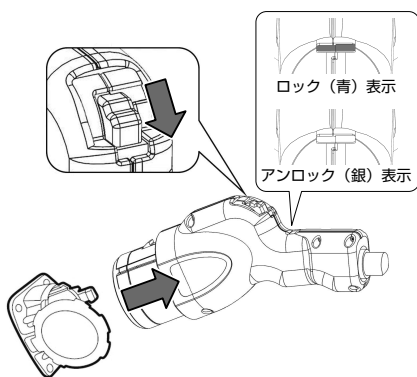


「コネクタロック」をタッチすると、コネクタロック LED が点滅します。ロックの解除が完了すると、コネクタロック LED が消灯します。

メモ

- コネクタロック LED が点灯している場合、コネクタロックの解除が必要です。
- 「車両充電」、「拡張充電」、「エレムーブ充電」、「エレムーブ放電」が動作していた場合は、コネクタロックが解除されると、動作を終了して最後に設定された自動運転モードに切り替わります。

2 車両から充放電コネクタを取り外す



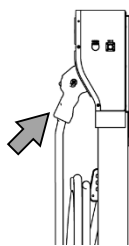
充放電コネクタのロック / アンロック表示が「銀」になっていることを確認します。

充放電コネクタの解除レバーを押しながら、充放電コネクタを引き抜きます。

メモ

- 車両の充放電動作中は充放電コネクタを外さないでください。
- 充放電コネクタを外す場合は、V2H ポッドの操作パネルの全てのランプが消灯していることを確認してから行ってください。
- 充放電コネクタを取り外せないときは「充放電コネクタを緊急離脱する場合」(49 ページ) を参照して取り外してください。

3 充放電コネクタホルダーに充放電コネクタを収納する



充放電コネクタを充放電コネクタホルダーの奥まで差し込みます。

「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

メモ

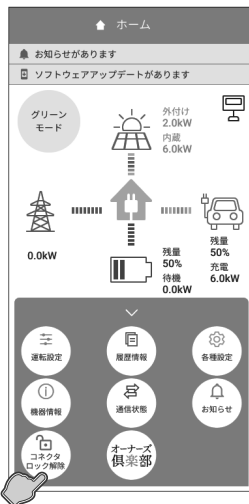
- 雨水やほこりなどを避けるために、V2H システムを使用しないときは充放電コネクタを V2H ポッドの充放電コネクタホルダーに収納して保管してください。

専用アプリ・室内リモコンで車両と切断する場合

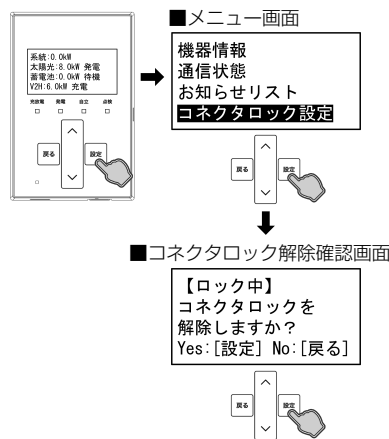
V2H ポッドの操作パネルでコネクタロック解除を行う場合、本操作は不要です。

1 「コネクタロック解除」(室内リモコンは「コネクタロック設定」を選択して「設定」) をタッチする

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

ドローメニューの「コネクタロック解除」をタッチ→コネクタロック解除の確認画面に切り替わります。「はい」をタッチすると、コネクタロックの解除を行います。コネクタロック解除に成功すると、「ホーム」画面に戻ります。

「いいえ」をタッチするとコネクタロックを解除せずに「ホーム」画面に戻ります。

メモ

- 「車両充電」、「拡張充電」、「エレムープ充電」、「エレムープ放電」が動作していた場合は、コネクタロックが解除されると、動作を終了して最後に設定された自動運転モードに切り替わります。

● 室内リモコンの場合

「設定」をタッチ→メニュー画面で「コネクタロック設定」をタッチ→コネクタロック解除確認画面に切り替わります。

「設定」をタッチするとコネクタロックの解除を行います。コネクタロック解除に成功すると、前画面に戻ります。

「戻る」をタッチするとコネクタロックを解除せずに前画面に戻ります。

メモ

- 「車両充電」、「拡張充電」、「エレムープ充電」、「エレムープ放電」が動作していた場合は、コネクタロックが解除されると、動作を終了して最後に設定された自動運転モードに切り替わります。

2 充放電コネクタを充放電コネクタホルダーに収納する

「V2H ポッドの操作パネルで車両と切断する場合」(18 ページ) の手順 2 ～ 3 を行ってください。

通常時の使い方

V2H システムの各運転モードについて（連系時）

本製品では、以下の運転モードを選択することができます。

運転モード	設定できる運転モード	モード説明	
自動運転モード	グリーンモード★※1	放電時間帯	太陽光の発電電力を家庭内負荷に供給し、余剰電力がある場合は、車両や蓄電池ユニットへ充電します。不足分は車両や蓄電池ユニットから放電します。
		充電時間帯	電力会社の電力を車両や蓄電池ユニットへ充電します。太陽光発電がある場合は、発電電力を優先的に使用して充電します。
	売電モード※1	放電時間帯	太陽光の発電電力を家庭内負荷に供給し、余剰電力がある場合は、売電します。不足分は車両や蓄電池ユニットから放電します。
		充電時間帯	電力会社の電力を車両や蓄電池ユニットへ充電します。太陽光発電がある場合は、発電電力を優先的に使用して充電します。
	EV モード※2	太陽光の余剰電力および蓄電池ユニットの電力を優先的に車両へ充電するモードです。	
	AI 運転モード※1	気象庁の天気情報やお客様宅の太陽光発電状況および電力使用状況から翌日の余剰電力量を予測し、なるべく電力会社から電力を買わないように車両や蓄電池ユニットの充放電動作を行うモードです。	
手動運転モード	蓄電池充電※2	時間帯に関係なく蓄電池ユニットへ充電を行うモードです。	
	車両充電※3	時間帯に関係なく車両へ充電するモードです。	
	拡張充電※3	時間帯に関係なく「車両充電」よりも高い電力で車両へ早く充電するモードです。	
	エレムーブ充電※4	時間帯に関係なく蓄電池ユニットから車両へ電力を移動するモードです。	

★：製品出荷時の設定値

※1：蓄電池ユニットとV2Hシステムのいずれも併設していない場合はご利用いただけません。

※2：蓄電池ユニットを併設している場合のみ設定できます。

※3：コネクタロック状態の時のみ設定できます。

※4：蓄電池ユニット併設時かつコネクタロック状態の時のみ設定できます。

重要

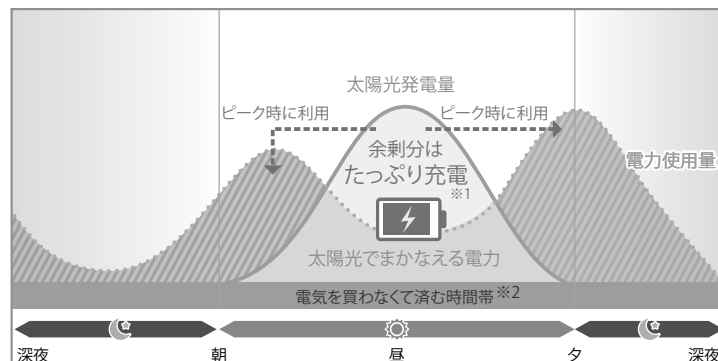
蓄電池ユニットを併設していない場合に自動運転モードで動作させていると、充放電動作をしない時間帯であっても車両とV2Hシステム間の通信状態維持のため、車両の蓄電池が電力を消費します。車両の消費電力を抑えたい場合は、コネクタロックを解除する、「車両電力消費抑制」（32 ページ）を設定する、または手動運転モードをご利用ください。ただし、上記の操作を行った状態で、太陽光発電がない時に停電が発生すると、本システムは停止します。その際は「車両の電源ソケットを利用した起動方法」（42 ページ）、「充放電コネクタを利用した起動方法」（44 ページ）に従って、本システムを起動してください。

自動運転モード

グリーンモード

昼間、太陽光発電電力を家庭内負荷に供給し、余剰分を車両や蓄電池ユニットに充電します。蓄えた電力を太陽光の発電電力で補えない場合に使うことで、電力会社からの購入電力を減らすモードです。太陽光発電の電力をできる限り使用した生活をしたい方や夜間の電気料金が太陽光の売電価格より高い方にお勧めです。なお、V2H システムおよび蓄電池ユニットのいずれも設置していない場合はご利用いただけません。

■ グリーンモード



※ 1: 満充電後の余剰分は売電します。なお、車両や蓄電池ユニットの充電電力の低下により、余剰電力の一部が充電できず売電される場合があります。

※ 2: ご家庭での電気使用量によって異なります。

- 放電時間帯は、昼間、太陽光発電電力を家庭内負荷に供給し、太陽光発電電力に余剰がある場合は、「充電優先設定」(32 ページ) に従い、車両もしくは蓄電池ユニットに充電します。太陽光発電電力が不足している場合や発電電力がない場合は、「放電優先設定」(31 ページ) に従い、車両もしくは蓄電池ユニットから放電します。車両や蓄電池ユニットから放電しても不足する場合は、電力会社から買電して家庭内負荷に供給します。
- 充電時間帯は、電力会社から買電して、「充電優先設定」(32 ページ) に従い、車両もしくは蓄電池ユニットに充電を行います。充電時間帯中に太陽光発電がある場合は、発電電力を優先的に使用して充電します。なお、充電時間帯中は車両や蓄電池ユニットから放電しません。
- 太陽光発電電力の余剰分は、車両や蓄電池ユニットが満充電の場合や、充電電力が低下している場合は、充電できずに売電される場合があります。なお、売電中は車両や蓄電池ユニットから放電しません。
- 外付け太陽光発電の余剰電力も余剰充電として利用できますが、余剰電力のうち 200 W 程度は充電には利用せず、必ず売電となります。
- 太陽光発電、車両または蓄電池ユニットから放電中に外部環境や間欠動作をする負荷等の影響によって、200 W 程度の買電が発生する場合があります。

<グリーンモードの余剰充電制御について【ESS-T5 シリーズのみ】>

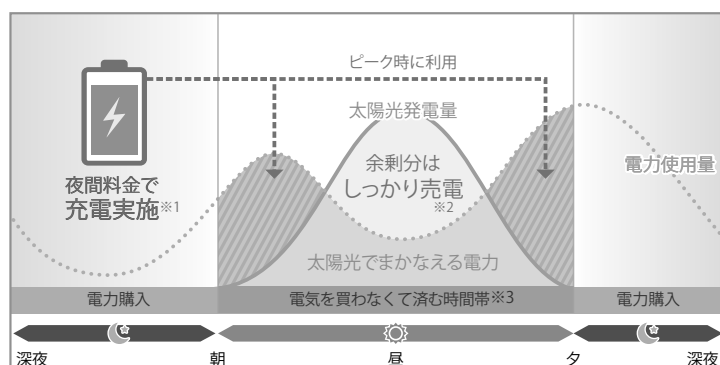
パワーコンディショナに接続されている太陽光発電パネルの容量が 8.0 kW 以上で、「余剰充電制御設定」(28 ページ) を「する」に設定していた場合、太陽光発電の余剰充電の開始タイミングおよび余剰充電電力の制御を行います。

詳しくは「運転モードの各種設定を設定する」(28 ページ) を参照してください。

売電モード

昼間、太陽光発電電力を家庭内負荷に供給し、余剰分を売電します。電気料金が割安な深夜時間帯に電力会社の電力から充電を行い、車両や蓄電池ユニットからの放電を電気料金が割高な昼間に行うことで、電気料金の節約が可能になります。夜間の電気料金が太陽光の売電価格より安い方にお勧めです。なお、V2H システムおよび蓄電池ユニットのいずれも設置していない場合はご利用いただけません。

■ 売電モード



※ 1: 料金は電力会社やプランによって異なります。

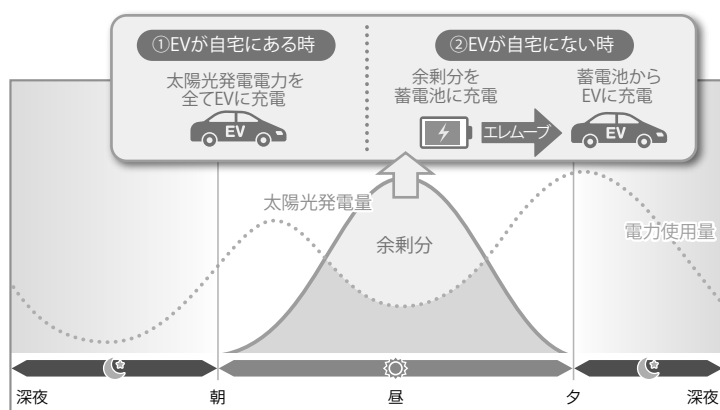
※ 2: 売電価格は年度ごとに決まりますので、詳しくは電力会社にお問い合わせください。

※ 3: ご家庭での電気使用量によって異なります。

- 放電時間帯は、昼間、太陽光発電電力を家庭内負荷に供給し、余剰分を売電します。太陽光発電電力が不足している場合や発電電力がない場合は、「放電優先設定」(31 ページ) に従い、車両もしくは蓄電池ユニットから放電します。車両や蓄電池ユニットから放電しても不足する場合は、電力会社から買電して家庭内負荷に供給します。なお、放電時間帯中は車両や蓄電池ユニットへ充電せず、売電中は車両や蓄電池ユニットから放電しません。
- 充電時間帯は、電力会社から買電して、「充電優先設定」(32 ページ) に従い、車両もしくは蓄電池ユニットに充電を行います。充電時間帯中に太陽光発電がある場合は、発電電力を優先的に使用して充電します。なお、充電時間帯中は車両や蓄電池ユニットから放電しません。
- 出力制御などにより抑制機能が働いている場合は、太陽光発電電力の余剰分の一部を車両や蓄電池ユニットに充電することがあります。

EV モード (蓄電池ユニット併設時のみ設定可能)

太陽光発電電力の余剰分をあらかじめ蓄電池ユニットに充電し、車両が V2H システムに接続され次第、蓄電池ユニットから車両へ充電電力を移動 (エレムープ充電) します。太陽光発電電力で車両を走らせた方にお勧めのモードです。なお、V2H システムおよび蓄電池ユニットのいずれも併設していない場合はご利用いただけません。



- 車両が V2H システムに接続されていない間は、太陽光発電電力を家庭内負荷に供給し、余剰分を蓄電池ユニットに充電します。
- 車両が V2H システムに接続されている間は、蓄電池ユニットから車両へ充電電力を移動 (エレムープ充電) します。その際に太陽光発電があった場合は、発電電力もすべて車両へ充電します。なお、エレムープ充電によって車両が満充電にならなかった場合は、「EV モード買電設定」(28 ページ) を「する」に設定していた場合に限り、「売電モード」の「充電時間帯」に電力会社の電力から車両の充電を行います。
- EV モードで動作している間は車両から放電は行わず、蓄電池ユニットからのみ家庭内負荷への放電を行います。

AI 運転モード

気象庁の天気情報やお客様宅の太陽光発電状況および電力使用状況から翌日の余剰電力量を AI で予測し、車両および蓄電池ユニットの充放電動作を制御するモードです。なるべく太陽光発電の余剰電力を無駄なく充電し、電力会社からの購入電力を減らすようにしたい方におすすめです。なお、AI の予測結果より翌日の電力に不足があると判断した場合は、契約している電力プランをニチコンオーナーズ倶楽部であらかじめ選択しておくことで、価格の安い時間帯に系統から不足分を充電します。また、「車両外出予定カレンダー」を設定することで、車両を AI の予測結果に応じて充放電動作させるか、外出のため充電させるかを選択することができます。

重要

- AI 運転モードのご利用にはニチコンオーナーズ倶楽部の会員登録および AI 自動制御の登録が必要となります。
- AI 自動制御に登録すると、動作準備のため AI の学習期間に入り、その間は AI 運転モードおよび車両外出予定カレンダーを選択することはできません（約 2 週間）。学習期間が終了すると AI 運転モードおよび車両外出予定カレンダーが選択できるようになります。
- お客様の利用状況によっては期待通りの動作にならない場合があります。AI 運転モードの詳細や注意事項などについて、詳しくはニチコンオーナーズ倶楽部 (URL:<https://owners.nichicon.co.jp>) を必ずご確認ください。

手動運転モード

蓄電池充電（蓄電池ユニット併設時のみ設定可能）

太陽光の発電状態や時間帯に関係なく、蓄電池ユニットへ充電を行うモードです。詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「蓄電池ユニットの各運転モードについて（連系時）」を参照してください。

車両充電

太陽光の発電状態や時間帯に関係なく、車両へ充電を行うモードです。なお、V2H システムを併設していない場合やコネクタロック解除時にご利用いただけません。

- 太陽光発電電力を優先的に使用して車両への充電を行います。太陽光発電から車両への充電電力が不足する場合は、不足分を電力会社から買電して充電を行います。
- 太陽光発電電力が充電電力を上回っている場合は、家庭内負荷へ電力を供給します。太陽光発電電力が、充電電力と家庭内負荷への電力供給の両方を上回った場合は、余剰分を売電します。なお、車両の充電電力の低下により、太陽光発電の一部が充電できず売電される場合があります。
- 車両が満充電になり次第、充電動作を終了し車両のコネクタロックを自動的に解除してから、車両充電が設定される直前の自動運転モードで動作します。

拡張充電

太陽光の発電状態や時間帯に関係なく、車両充電よりも早く充電を行うモードです。なお、V2H システムを併設していない場合やコネクタロック解除時にご利用いただけません。

- 太陽光発電電力を優先的に使用して車両への充電を行います。太陽光発電から車両への充電電力が不足する場合は、蓄電池ユニットを併設していれば蓄電池ユニットの電力も使用して充電を行います。太陽光発電と蓄電池ユニットの電力でもさらに不足する場合は、「拡張充電買電設定」（29 ページ）を「する」に設定していた場合に限り、不足分を電力会社から電力を購入して充電を行います。
- 車両が満充電になり次第、充電動作を終了し車両のコネクタロックを自動的に解除してから、拡張充電が設定される直前の自動運転モードで動作します。



メモ

- 太陽光発電の発電量が極端に少ないと、蓄電池ユニットおよび電力会社からの電力を使用しても最大充電電力（9.9 kW）で充電ができない場合があります。
- 車両への充電電力は、車両の蓄電池電圧（車種や残量）あるいは温度などにより変わります。
- 「拡張充電買電設定」（29 ページ）を「しない」に設定していた場合は、太陽光発電がなく、蓄電池ユニットの蓄電池残量がゼロになった場合でも充電動作を終了します。

エレムーブ充電（蓄電池ユニット併設時のみ設定可能）

太陽光の発電状態や時間帯に関係なく、蓄電池ユニットから車両へ電力を移動するモードです。車両が接続されていない間に、太陽光発電電力や夜間の電気料金が割安な電力を一旦蓄電池ユニットに蓄えておき、移動させることで、より経済的に車両への充電を行うことができます。なお、V2H システムおよび蓄電池ユニットのいずれも併設していない場合やコネクタロック解除時にご利用いただけません。

- 太陽光発電電力を優先的に使用して車両への充電を行います。太陽光発電から車両への充電電力が不足する場合は、蓄電池ユニットの電力も使用して充電を行います。
- 車両が満充電になるか蓄電池ユニットの残量がゼロ、または「蓄電池放電下限値」になると動作を終了し、車両のコネクタロックを自動的に解除してから、エレムーブ充電が設定される直前の自動運転モードで動作します。



メモ

- エレムーブ充電で動作している間は、本製品から家庭内負荷への放電を行いません。
- エレムーブ充電には外付け太陽光発電の電力は使われません。

放電中の動作について

電力会社との取り決めにより、本システムは放電中に常に微量電力を買電します。

メモ

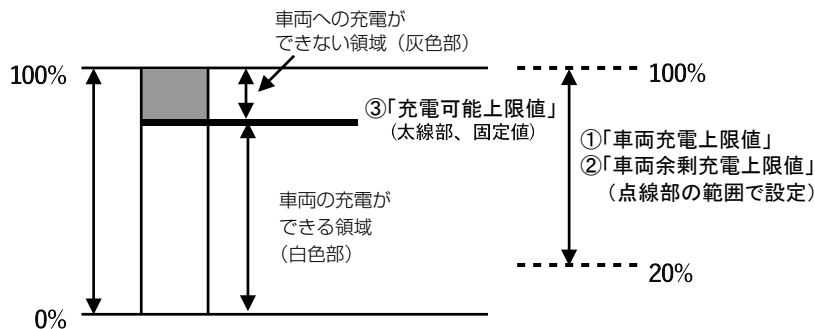
- 太陽光発電システムと異なり、車両や蓄電池ユニットに蓄えた電力を送電線へ逆流させない決まりとなっています。
- 負荷容量が 100 W 未満の場合および負荷容量と太陽光発電量が均等になる場合は、専用アプリや室内リモコンの表示が放電と待機で繰り返し切り替わることがあります。
- 発電電力が多く、売電電力が定格出力を超える場合には、車両や蓄電池ユニットが充電できる状態であれば、定格出力を超える電力を、自動的に充電します。
- 太陽光発電、車両または蓄電池ユニットから放電中に外部環境や間欠動作をする負荷等の影響によって、200 W 程度の買電が発生する場合があります。

重要 車両充放電動作時に利用できる車両の充放電範囲について

充電を停止する車両の蓄電池残量について（車両充電上限値・車両余剰充電上限値）

車両は、専用アプリや室内リモコンで設定する①「車両充電上限値」、②「車両余剰充電上限値」、または車両ごとに決められた③「充電可能上限値」に達すると充電を停止します。

- ①専用アプリや室内リモコンで設定する「車両充電上限値」
 - 太陽光発電電力の余剰充電用の空き容量を確保するため、電力会社の電力による充電の上限値
 - お客様にて設定可能（20% ～ 100% まで 10% 刻み）
 - ②専用アプリや室内リモコンで設定する「車両余剰充電上限値」
 - 太陽光発電電力による余剰充電の上限値
 - お客様にて設定可能（20% ～ 80% まで 10% 刻み、80% ～ 100% まで 1% 刻み）
 - ③車両ごとに定められた「充電可能上限値」
 - 車両により定められたそれ以上充電できない車両の蓄電池残量値
 - 車両により定められており、変更不可
 - 車両ごとに定められた「充電可能上限値」はニチコンホームページを参照してください。
https://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html
- ①～③のうち、上限値が低い方が優先となります。



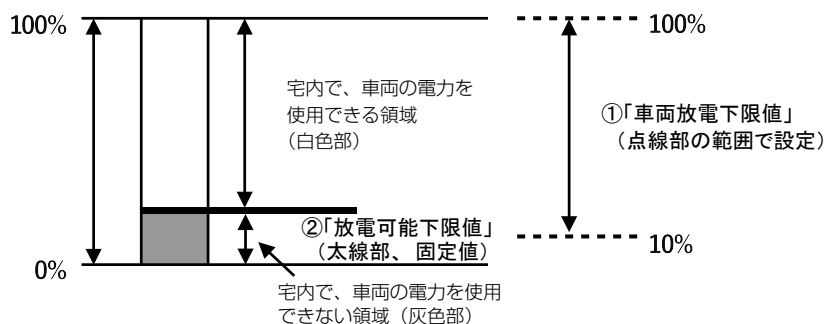
<例>

お客様が i-MiEV をお持ちのとき、専用アプリや室内リモコンで①「車両充電上限値」および②「車両余剰充電上限値」を 100% に設定した場合でも、i-MiEV の③「充電可能上限値」95% に達すると充電を止めます。

放電を停止する車両の蓄電池残量について（車両放電下限値・非常時車両放電下限値）

車両は、専用アプリや室内リモコンで設定する①「車両放電下限値」、または車両ごとに決められた②「放電可能下限値」に達すると放電を停止します。

- ①専用アプリや室内リモコンで設定する「車両放電下限値」（「非常時車両放電下限値」）
 - 停電時または走行に備え残しておく、車両の蓄電池残量値
 - お客様にて設定可能（10% ～ 100% まで 10% 刻み）
 - ②車両ごとに定められた「放電可能下限値」
 - 車両により定められた最低残しておかなければならない車両の蓄電池残量値
 - 車両により定められており、変更不可
 - 車両ごとに定められた「放電可能下限値」はニチコンホームページを参照してください。
https://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html
- ①と②のうち、下限値が高い方が優先となります。



<例>

お客様が i-MiEV をお持ちのとき、専用アプリや室内リモコンで①「車両放電下限値」を 10% に設定した場合でも、i-MiEV の②「放電可能下限値」30% に達すると放電を止めます。

V2H システムの運転モードを選ぶ（連系時）

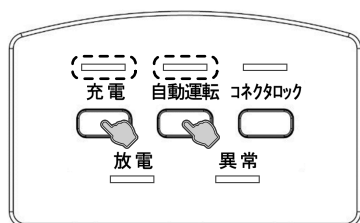
V2H システムの運転モードは、V2H ポッドの操作パネル、専用アプリまたは室内リモコンで設定することができます。連系時の運転モードをお客様のお好みに合わせて選択してください。（20 ページ参照）

重要

充放電時間帯中は、充放電を行っていない場合でも車両と V2H システム間の通信維持のため、車両の蓄電池が電力を消費します。

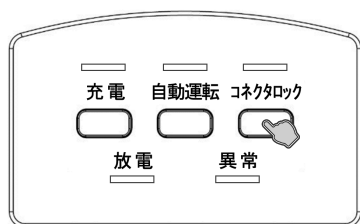
V2H ポッドの操作パネルで V2H システムの運転モードを選ぶ場合

1 「自動運転」または「充電」をタッチする



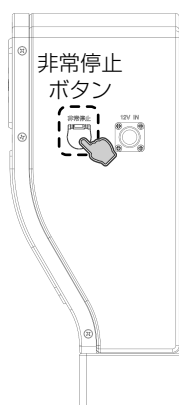
- 「自動運転」ボタン：
直前に設定された自動運転モードを開始します。
動作を開始すると、自動運転 LED が緑色に点灯します。
- 「充電」ボタン：
手動運転モードの車両充電を開始します。
動作を開始すると、充電 LED が橙色に点灯します。

※ V2H システムの運転動作を停止する場合



V2H ポッド操作パネルの「コネクタロック」ボタンをタッチすると、コネクタロックが解除され、V2H システムの動作を停止します。
この時、すべての LED が消灯します。

※ V2H システムを非常停止する場合

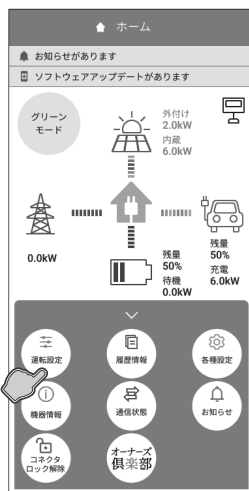


V2H システムに何らかの異常が発生した際は、V2H ポッド緊急時操作部の「非常停止」ボタンカバーを開けて押すことで、コネクタロックを解除し、V2H システムを非常停止させることができます。
非常停止を解除する場合は、異常の原因が解消したことを確認してから、再度「非常停止」ボタンを押してください。なお、非常停止を解除した後もコネクタロックは解除されたままとなりますので、引き続き動作させたい場合は、ご希望の運転モードを再度設定してください。

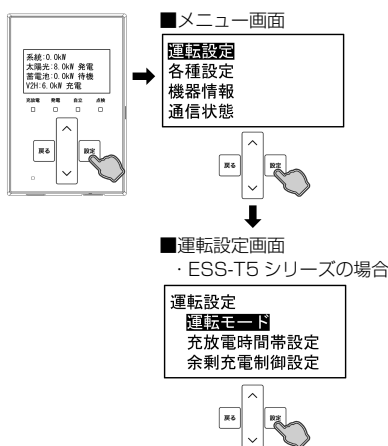
専用アプリ、室内リモコンで V2H システムの運転モードを選ぶ場合

1 「運転設定」をタッチする

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

ドローメニューの「運転設定」をタッチ→「運転設定」画面に切り替わります。

● 室内リモコンの場合

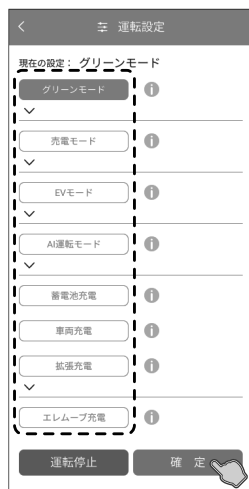
「設定」をタッチ→メニュー画面で「運転設定」を選択し「設定」をタッチ→運転設定画面で「運転モード」を選択し「設定」をタッチ→「運転モード」画面に切り替わります。

メモ

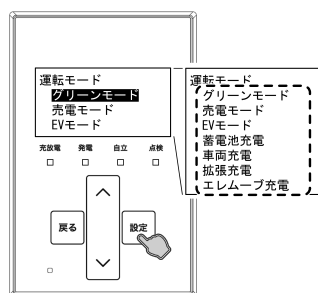
- ESS-T6 シリーズの場合、「余剰充電制御設定」は表示されません。

2 運転モードを選択して「確定」（室内リモコンは「設定」）をタッチする

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

V2H システムの運転モード (20 ページ参照) を選択し「確定」をタッチすると、設定確認画面に切り替わります。

メモ

- 運転モードは表示されるモードのみ選択できます。通常は自動運転モードを選択してください。
- ニチコンオーナーズ倶楽部で AI 自動制御の登録を行っていない場合は、「AI 運転モード」は表示されません。
- AI の学習期間中だった場合は、「AI 運転モード」はグレーアウト表示となり選択することができません。学習期間が終了すると「AI 運転モード」が選択できるようになります。
- 運転設定を変更した状態でナビゲーションバーの「<」（戻るボタン）をタッチすると、キャンセル確認の画面に切り替わります。「確定」または「戻る」をタッチすると、「ホーム」画面または「運転設定」画面に戻ります。

● 室内リモコンの場合

V2H システムの運転モード (20 ページ参照) を選択し「設定」をタッチすると、設定確認画面に切り替わります。

メモ

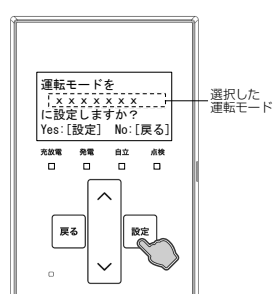
- 運転モードは表示されるモードのみ選択できます。通常は自動運転モードを選択してください。
- 「上/下」をタッチして選択メニューの項目を選択します。「戻る」をタッチすると前画面に戻ります。
- 室内リモコンでは「AI 運転モード」は選択できません。

3 設定内容を確定する

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

「確定」をタッチすると、設定内容を確定して「ホーム」画面に戻ります。「戻る」をタッチすると、設定を確定せずに前画面に戻ります。

● 室内リモコンの場合

「設定」をタッチすると、設定内容を確定して前画面に戻ります。「戻る」をタッチすると、設定を確定せずに前画面に戻ります。

メモ

- 「戻る」をタッチすると一つ前の画面に戻ります。「ホーム」画面に戻るまで「戻る」をタッチしてください。

V2H システムの充放電時刻を変更する

通常運転時の充電開始 / 停止時刻、放電開始 / 停止時刻を運転モードごとに、専用アプリや室内リモコンで変更できます。

- 製品出荷時の設定値：

	グリーンモード	売電モード
充電開始時刻 / 停止時刻※ ¹	01:00 ~ 01:01	01:00 ~ 05:59
放電開始時刻 / 停止時刻※ ²	01:02 ~ 00:50	06:00 ~ 00:50

※ 1: 電力会社から買電して車両または蓄電池ユニットに充電するときの開始時刻 / 停止時刻

(太陽光発電電力で充電する開始時刻 / 停止時刻ではありません。)

※ 2: 車両または蓄電池ユニットから放電するときの開始時刻 / 停止時刻

(運転モードが「グリーンモード」設定かつ太陽光発電がある場合、太陽光発電電力の余剰分は放電時間帯に車両または蓄電池ユニットに充電されます。なお、充電電力の低下により、余剰電力の一部が充電できず売電される場合があります。)

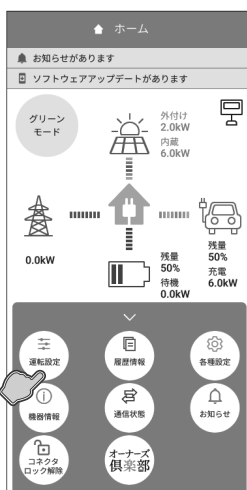
- 充放電時間帯の合計は 23 時間 50 分以内としてください。
- 充放電時間帯が重複しないように設定してください。

メモ

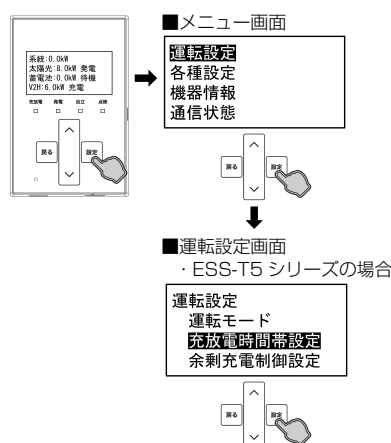
- 優先度の設定によっては、設定した時刻に放電が始まらない場合があります。詳しくは「放電優先設定」(31 ページ) を参照してください。また、太陽光発電電力を売電している場合は、放電時間帯であっても車両および蓄電池ユニットから放電できません。
- 「売電モード」「グリーンモード」は、それぞれ別の時刻を設定できます。
- グリーンモード利用時に充電時間帯を長く設定すると、電力会社の電力による充電が進み、昼間の太陽光発電電力による充電があまりできなくなります。電力会社の電力で充電しすぎないように、充電時間を短く設定するか、「車両充電上限値」(31 ページ) の設定をご利用ください。
- 売電モード利用時に充電時間帯を短く設定すると、車両および蓄電池ユニットが 100% まで充電できない場合があります。

1 「運転設定」をタッチする

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

ドローメニューの「運転設定」をタッチ→「運転設定」画面に切り替わります。

● 室内リモコンの場合

「設定」をタッチ→メニュー画面で「運転設定」を選択し「設定」をタッチ→運転設定画面で「充放電時間帯設定」を選択し「設定」をタッチ→「充放電時間帯設定」画面に切り替わります。

メモ

- 「∧ / ∨」をタッチして項目を選択します。
- ESS-T6 シリーズの場合、「余剰充電制御設定」は表示されません。

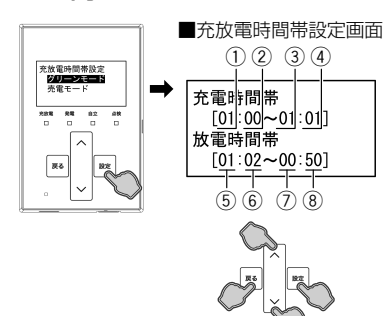
2 設定したい運転モードを選択して充放電時間を入力する

● 専用アプリ

・ESS-T5 シリーズの場合



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

設定したい運転モードの「∨」をタッチして充放電時間を設定します。

メモ

- ESS-T6 シリーズの場合、「余剰充電制御設定」は表示されません。

● 室内リモコンの場合

設定したい運転モードを選択し「設定」をタッチ→選択した運転モードの充放電時間を設定します。

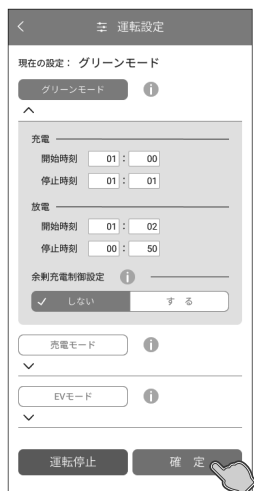
- 「設定」 / 「戻る」をタッチするとカーソルが移動 (① ⇄ ② ⇄ … ⇄ ⑧) します。
- カーソル位置で「∧ / ∨」をタッチすると時間 (時 / 分) の設定値を選択できます。

メモ

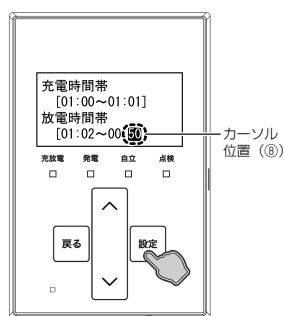
- カーソルの位置は、黒背景・白文字で表します。
- カーソル①の位置で「戻る」をタッチすると前画面に戻ります。

3 設定内容を確定する

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

「確定」をタッチすると、設定確認画面に切り替わります。「確定」をタッチすると、設定内容を確定して「ホーム」画面に戻ります。「戻る」をタッチすると、設定を確定せずに前画面に戻ります。

✎ メモ

- 充放電時間帯 (充電と放電、開始時間と停止時間) が重複している場合や、充電時間と放電時間の合計が 23 時間 50 分を超過している場合は、確認画面に切り替わります。「戻る」をタッチして再度設定してください。
- 充放電時間の設定を変更した状態でナビゲーションバーの「<」(戻るボタン) をタッチすると、キャンセル確認の画面に切り替わります。「確定」または「戻る」をタッチすると、「ホーム」画面または「運転設定」画面に戻ります。

● 室内リモコンの場合

カーソル位置⑧で「設定」をタッチすると、設定確認画面に切り替わります。「設定」をタッチすると設定内容を確定して前画面に戻ります。「戻る」をタッチすると、設定を確定せずに前画面に戻ります。

✎ メモ

- 充放電時間帯 (充電と放電、開始時間と停止時間) が重複している場合や、充電時間と放電時間の合計が 23 時間 50 分を超過している場合は、確認画面に切り替わります。「戻る」をタッチして再度設定してください。
- 「戻る」をタッチすると一つ前の画面に戻ります。「ホーム」画面に戻るまで「戻る」をタッチしてください。

運転モードの各種設定を設定する

V2H システムの運転モードに関わる各種設定を行います。本設定は、コネクタロック解除状態でも設定できます。また、設定後にコネクタロックを解除しても、次回利用時に前回と同じ設定で問題なければ、再度設定する必要はありません。

● 余剰充電制御設定【ESS-T5 シリーズのみ】

グリーンモード利用時にパワーコンディショナに接続されている太陽光発電パネルの容量が 8.0 kW 以上だった場合に、太陽光発電の余剰充電の開始タイミングおよび余剰充電電力の制御を行うかを設定できます。

詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「グリーンモードの余剰充電制御設定を設定する【ESS-T5 シリーズのみ】」をご参照ください。

✎ メモ

- 車両がコネクタロック状態の場合は、本設定を「する」に設定しても制御は行わず、通常のグリーンモードで動作します。なお、車両がコネクタロック解除状態または満充電状態の場合は、余剰充電制御を行います。

● EV モード買電設定

EV モード利用時に電力会社の電力を利用して車両の充電を行うかを設定できます。太陽光発電の電力のみで車両を充電したい場合に設定してください。

設定値	する★	電力会社の電力を利用して車両の充電を行います。
	しない	電力会社の電力を利用して車両の充電を行いません。

重要

「しない」を選択していると、車両への充電用に系統から電力を買電しなくなるため、太陽光発電や蓄電池ユニットの電力が少ない場合、車両に十分な充電ができなくなる可能性があります。

● 車両外出予定カレンダー【専用アプリのみ】

AI 運転モード利用時に車両を AI の予測結果に応じて充放電動作させるか、外出のため充電させるかを設定できます。設定することで、お客様の車両利用のご予定に合わせて AI 運転モードの動作を調整することができます。

設定値	外★	設定した日付では車両から放電を行わず、ニチコンオーナーズ倶楽部であらかじめ選択した電力プランの価格の安い時間帯に、「車両充電上限値」（31 ページ）まで車両を充電します。 車両の充電は機器構成および AI の予測結果に応じて、「車両充電」、「拡張充電」もしくは「エレムーブ充電」のいずれかでを行います。
	在	設定した日付では AI の予測結果に応じて、車両の充放電動作を制御します。

重要

カレンダーで設定した内容と実際の車両の状態が異なった場合は、AI 運転モードが正しく動作しなかったり、車両に十分な充電がされない状態となる場合があります。



メモ

- ニチコンオーナーズ倶楽部で AI 自動制御の登録を行っていない場合は、本設定を行うことはできません。

● 拡張充電買電設定

拡張充電利用時に電力会社の電力を利用して車両の充電を行うかを設定できます。太陽光発電の電力のみで車両を充電したい場合に設定してください。

設定値	する★	電力会社の電力を利用して車両の充電を行います。
	しない	電力会社の電力を利用して車両の充電を行いません。

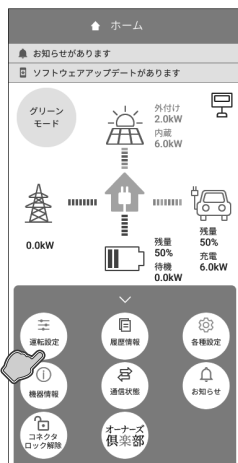
重要

「しない」を選択していると、車両への充電用に系統から電力を買電しなくなるため、太陽光発電や蓄電池ユニットの電力が少ない場合、車両に十分な充電ができなくなる可能性があります。

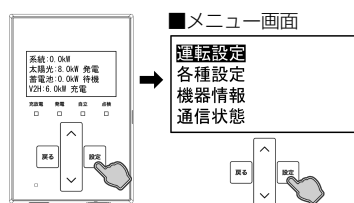
★：製品出荷時の設定値

1 「運転設定」をタッチする

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

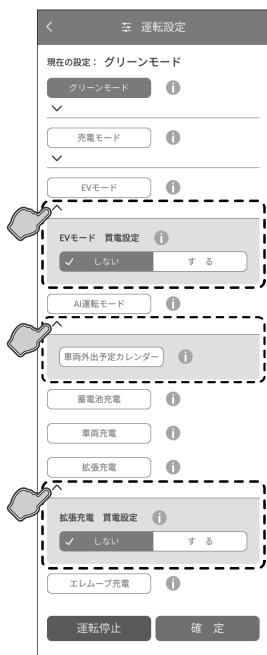
ドローメニューの「運転設定」をタッチ→「運転設定」画面に切り替わります。

● 室内リモコンの場合

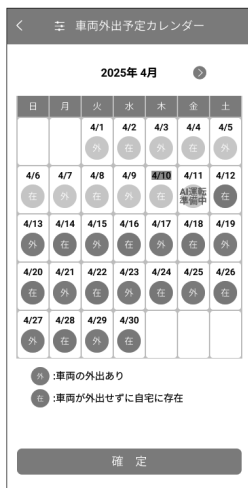
「設定」をタッチ→メニュー画面で「運転設定」を選択し「設定」をタッチ→「運転設定」画面に切り替わります。

2 運転モードの各種設定を変更する

● 専用アプリ

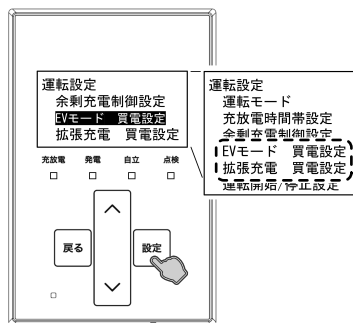


■「車両外出予定カレンダー」画面例

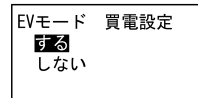


● 室内リモコン

・ESS-T5 シリーズの場合



■「EV モード買電設定」画面例



● 専用アプリの場合

設定したい運転モードの「V」をタッチして設定値 (28 ページ参照) を変更します。

メモ

- ニチコンオーナーズ倶楽部で AI 自動制御の登録を行っていない場合は、「車両外出予定カレンダー」は表示されません。
- AI の学習期間中だった場合は、「車両外出予定カレンダー」はグレーアウト表示となり設定することができません。学習期間が終了すると「車両外出予定カレンダー」が設定できるようになります。

■ 車両外出予定カレンダーの設定について

- 設定したい日付を直接タッチすることで、車両の外出予定 (「外」、「在」) を直接設定することができます。なお、過去の日付は設定できず、表示のみとなります。
- カレンダーの曜日 (「日」～「土」) をタッチすることで、曜日ごとで外出予定をまとめて設定することができます。なお、設定は表示月ごととなります。
- 車両の外出予定は、翌日から 3 か月後までの期間で設定することができます。カレンダー上部の「<」もしくは「>」をタッチすることで、表示月を切り替えることができます。
- 当日の 21:00 を迎えると、翌日の日付に「AI 運転準備中」を表示して、翌日の AI 運転モードの動作準備を開始します。「AI 運転準備中」が表示されると、該当の日付の外出予定は設定できなくなりますのでご注意ください。

● 室内リモコンの場合

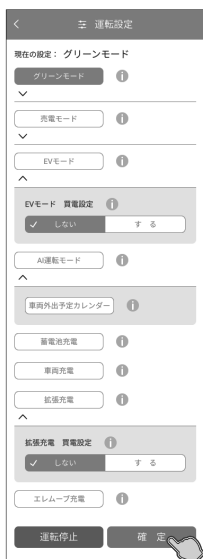
各項目を選択して「設定」をタッチすると、各項目の設定画面に切り替わります。「H/V」をタッチして各項目の設定値 (28 ページ参照) を選択します。

メモ

- 「H/V」をタッチすると選択メニューや各項目の設定値を表示して選択できます。
- 「戻る」をタッチすると前画面に戻ります。
- 室内リモコンでは「車両外出予定カレンダー」は設定できません。
- ESS-T6 シリーズの場合、「余剰充電制御設定」は表示されません。

3 設定内容を確定する

● 専用アプリ



● 室内リモコン

■「EV モード買電設定」画面例



● 専用アプリの場合

「確定」をタッチすると、設定確認画面に切り替わります。「確定」をタッチすると、設定内容を確定して「ホーム」画面に戻ります。「戻る」をタッチすると、設定を確定せずに前画面に戻ります。

メモ

- 運転モードの設定を変更した状態でナビゲーションバーの「<」 (戻るボタン) をタッチすると、キャンセル確認の画面に切り替わります。「確定」または「戻る」をタッチすると、「ホーム」画面または「運転設定」画面に戻ります。

● 室内リモコンの場合

「設定」をタッチすると、設定確認画面に切り替わります。「設定」をタッチすると設定内容を確定して前画面に戻ります。「戻る」をタッチすると、設定を確定せずに前画面に戻ります。

メモ

- 「戻る」をタッチすると一つ前の画面に戻ります。「ホーム」画面に戻るまで「戻る」をタッチしてください。

V2H システムの各種設定について

V2H システムに関わる各種設定を行います。本設定は、コネクタロック解除状態でも設定できます。また、設定後にコネクタロックを解除しても、次回利用時に前回と同じ設定で問題なければ、再度設定する必要はありません。

■ 画面例

● 専用アプリ

The screenshot shows a settings menu titled '各種設定 / V2Hシステム'. It lists 12 items for configuration:

- ① 車両充電上限値 (Vehicle charging upper limit): 100 %
- ② 車両余剰充電上限値 (Vehicle surplus charging upper limit): 95 %
- ③ 車両放電下限値 (Vehicle discharging lower limit): 10 %
- ④ 車両放電有無 (Vehicle discharging on/off): しない (Off)
- ⑤ 放電優先設定 (Discharging priority setting): 蓄電池 (Battery)
- ⑥ 充電優先設定 (Charging priority setting): 蓄電池 (Battery)
- ⑦ V2Hシステム本体操作 (V2H system main operation): しない (Off)
- ⑧ 車両電力消費抑制 (Vehicle power consumption suppression): しない (Off)
- ⑨ 非常時車両放電有無 (Emergency vehicle discharging on/off): しない (Off)
- ⑩ 非常時車両放電下限値 (Emergency vehicle discharging lower limit): 10 %
- ⑪ 非常時放電優先設定 (Emergency discharging priority setting): 蓄電池 (Battery)
- ⑫ 非常時充電優先設定 (Emergency charging priority setting): 蓄電池 (Battery)

A '確定' (Confirm) button is at the bottom.

- ⑧車両電力消費抑制「する」の場合

This screen shows the '車両電力消費抑制' (Vehicle power consumption suppression) setting set to 'する' (On). Below it, there are three patterns for suppression:

- パターンA (充電時: 2kW、放電時: 1kW)
- パターンB (充電時: 1kW、放電時: 500W)
- パターンC (充電時: 500W、放電時: 300W)

① 車両充電上限値

電力会社の電力で車両を充電する際に、指定した上限値で充電を停止する設定です。グリーンモード利用時に太陽光発電の余剰電力をできるだけ多く充電できるように、電力会社の電力で充電する容量を少なくしたい場合などに設定してください。

なお、太陽光発電電力による余剰充電および手動運転モードの「車両充電」、「拡張充電」、「エレムーブ充電」は本設定の対象外となり、上限値を超えて充電されます。

- 本設定値と、車両ごとに定められた「充電可能上限値」のうち、低い方が優先となります。(例: 「車両充電上限値」が 100%、「充電可能上限値」が 70% の場合、70% まで充電を行います。)

設定値	20% ~ 100% ★ (10% 刻み)
-----	-----------------------

② 車両余剰充電上限値

自動運転モードの車両の余剰充電動作の際に、指定した上限値で余剰充電を停止する設定です。

車種ごとの電池特性や制限に応じて、太陽光発電電力による車両への充電を抑えたい場合などに設定してください。

なお、手動運転モードの「車両充電」、「拡張充電」、「エレムーブ充電」は本設定の対象外となり、上限値を超えて充電されます。

- 本設定値と、車両ごとに定められた「充電可能上限値」のうち、低い方が優先となります。(例: 「車両余剰充電上限値」が 100%、「充電可能上限値」が 70% の場合、70% まで充電を行います。)

設定値	20%、30%、40%、50%、60%、70%、80% ~ 100% (1% 刻み) (95% ★)
-----	--

③ 車両放電下限値

車両から放電を行う際に、指定残量までで放電を止めるように制限します。

もしもの停電や、台風、計画停電などの停電にあらかじめ備えるときは、設定を切り替えることで、安心してお使いいただけます。

なお、設定後から車両の蓄電池残量の制御を開始するため、必要の際は前日までに切り替えてください。

- 本設定値と、車両ごとに定められた「放電可能下限値」のうち、下限値が高い方が優先となります。(例: 「車両放電下限値」が 30%、「放電可能下限値」が 40% の場合、40% まで放電を行います。)

重要

充放電を行っていない場合でも車両と V2H システム間の通信維持のため、車両の蓄電池から電力を消費します。それにより、車両の蓄電池残量が車両放電下限値を下回る場合があります。

設定値	10% ★ ~ 100% (10% 刻み)
-----	-----------------------

④ 車両放電有無

車両からの放電を許可するか設定できます。

通常は車両から電力が利用できるように、「する」に設定してください。

設定値	する ★	車両からの放電を行います。
	しない	車両からの放電を行いません。

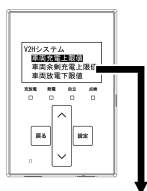
⑤ 放電優先設定※¹

自動運転モード動作時の家庭内への電力供給を蓄電池ユニットもしくは車両のどちらから優先して行うかを設定できます。

- 「車両放電有無」を「しない」に設定した場合は、本設定は機能しません。

設定値	蓄電池 ★	蓄電池ユニットから優先して電力を供給します。蓄電池ユニットの蓄電池残量がゼロ、または専用アプリや室内リモコンで設定する「蓄電池放電下限値」のいずれかに達すると、車両からの放電に切り替わります。
	車両	車両から優先して電力を供給します。車両の蓄電池残量がゼロ、専用アプリや室内リモコンで設定する「車両放電下限値」、または車両ごとに定められた「放電可能下限値」のいずれかに達すると、蓄電池ユニットからの放電に切り替わります。

● 室内リモコン



V2Hシステム	
車両充電上限値	①
車両余剰充電上限値	②
車両放電下限値	③
車両放電有無	④
放電優先設定	⑤
充電優先設定	⑥
V2Hシステム	
本体操作	⑦
車両電力消費抑制	⑧
非常時車両放電有無	⑨
非常時車両放電	⑩
下限値	
非常時放電優先設定	⑪
非常時充電優先設定	⑫

⑥ 充電優先設定※¹

自動運転モード動作時の充電を蓄電池ユニットもしくは車両のどちらから優先して行うかを設定できます。

設定値	蓄電池	蓄電池ユニットから優先して充電を行います。蓄電池ユニットが満充電、または専用アプリや室内リモコンで設定する「蓄電池充電上限値」のいずれかに達すると、車両への充電に切り替わります。
	車両★	車両から優先して充電を行います。「車両充電上限値」、「車両余剰充電上限値」、または車両ごとに定められた「充電可能上限値」のいずれかに達すると、蓄電池ユニットへの充電に切り替わります。

⑦ V2H システム本体操作

V2H システム本体の操作を有効もしくは無効にする設定です。長期ご不在時など、第三者の無断使用を防止する場合などに便利な機能です。お客様の用途に合わせて設定してください。

設定値	する★	V2H システム本体での操作を受け付けます。
	しない	V2H システム本体での操作を受け付けません。

⑧ 車両電力消費抑制

車両がコネクタロックされているとき、車両と V2H システム間の充放電電力が一定の条件を満たした場合、車両と V2H システム間の通信を遮断し、充放電動作を停止することで電力消費を抑制する機能です。なお、本設定はグリーンモードもしくは売電モードで運転中にのみ動作します。

重要

- メルセデス・ベンツ日本合同会社の車両に接続する場合は、本設定項目を含めた特定の設定が必要となります。詳しくは「メルセデス・ベンツ日本合同会社の車両 (EV/PHEV) に接続する際の注意点」(60 ページ) を参照してください。
なお、メルセデス・ベンツ以外の車両をご利用の方も、設定することで車両と接続中に車両の蓄電池残量が想定以上に減っていく(車両放電下限値を下回る)といった現象を抑えることができます。
- 「する」を選択していると、車両の充放電動作が停止している状態で停電が発生した際は、太陽光発電や蓄電池ユニットなど他の電力供給源から電力が供給できない場合、V2H システムが停止します。
その際は「停電時に車両を利用した起動方法」(42 ページ) に従って、本システムを起動してください。

設定値	する	パターン A (充電時:2 kW、放電時:1 kW)	充放電電力がパターンごとの電力値よりも低下した場合、車両と V2H システム間の通信を遮断し、充放電動作を停止します。通信遮断後、充放電電力がパターンごとの電力値を上回ると、車両との通信および充放電動作を再開します。
		パターン B (充電時:1 kW、放電時:500 W)	
		パターン C (充電時:500 W、放電時:300 W)	
	しない★		充放電電力が一定の条件を満たした場合でも、車両と V2H システム間の通信は遮断せず、充放電動作も停止しません。



メモ

- パターン A、パターン B、パターン C の電力値は目安です。
- 充放電電力がパターンごとの電力値よりも低下した状態もしくは上回った状態が 10 分間継続すると、充放電動作をそれぞれ停止もしくは再開します。なお、接続車種や車両の蓄電池残量などの状況によっては、充放電動作の停止もしくは再開のタイミングが前後する場合があります。
- コネクタロックを行った場合、充放電電力がパターンごとの電力値を上回ると約 10 分後に充放電動作を開始します。本設定値を変更した場合や運転モードを変更した場合も同様です。
- 設定値「する」の場合、充放電動作の停止と再開を複数回繰り返すと、その日の充放電を停止しますが、日付が変わると充放電動作を再開します。

⑨ 非常時車両放電有無※²

停電時に車両からの放電を許可するか設定できます。

重要

「しない」を選択していると、停電時に太陽光発電や蓄電池ユニットなど他の電力供給源から電力が供給できない場合、車両から放電できず蓄電システムが停止します。
通常は停電時も車両の電力が利用できるように「する」に設定してください。

設定値	する★	停電時に車両から放電を行います。
	しない	停電時に車両から放電を行いません。

⑩ 非常時車両放電下限値

停電時に車両から放電を行う際に、指定残量までで放電を止めるように制限します。停電時に車両の蓄電池残量がゼロになって車両が走行できなくならないように、電力を残すことができます。

- 本設定値と、車両ごとに定められた「放電可能下限値」のうち、下限値が高い方が優先となります。(例:「非常時車両放電下限値」が 30%、「放電可能下限値」が 40% の場合、40% まで放電を行います。)

設定値	10%★～ 100%(10% 刻み)
-----	--------------------

⑪ 非常時放電優先設定※¹

停電時の家庭内への電力供給を蓄電池ユニットもしくは車両のどちらから優先して行うかを設定できます。

- 「非常時車両放電有無」を「しない」に設定した場合は、本設定は機能しません。

設定値	蓄電池★	蓄電池ユニットから優先して電力を供給します。蓄電池ユニットの蓄電池残量がゼロになると、車両からの放電に切り替わります。
	車両	車両から優先して電力を供給します。車両の蓄電池残量がゼロ、専用アプリや室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」、または車両ごとに定められた「放電可能下限値」に達すると、蓄電池ユニットからの放電に切り替わります。

⑫ 非常時充電優先設定※¹

停電時の充電を蓄電池ユニットもしくは車両のどちらから優先して行うかを設定できます。

設定値	蓄電池	蓄電池ユニットを優先して充電を行います。蓄電池ユニットの蓄電池残量が 100% になると、車両への充電に切り替わります。
	車両★	車両を優先して充電を行います。車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「充電可能上限値」に達すると、蓄電池ユニットへの充電に切り替わります。

★：製品出荷時の設定値

※ 1: 蓄電池ユニットを併設している場合のみ設定することができます。

※ 2: 停電時に自動的に放電を行いたい場合は、以下の設定が必要です。

① V2H システム各種設定の「非常時車両放電有無」を「する」で設定する。(32 ページ)

② 機器情報 / 設定情報の「停電時出力」を「自動」で設定する。

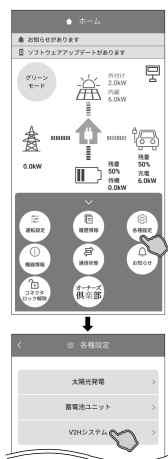
(詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「機器情報について」を参照してください。)

V2H システムの各種設定を設定する

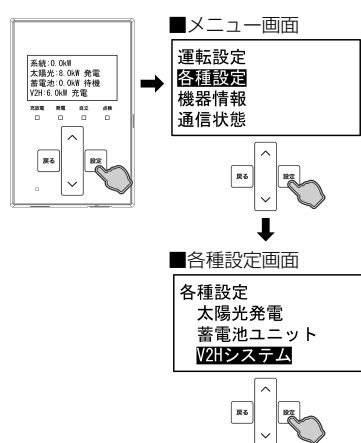
V2H システムの各種設定は、専用アプリまたは室内リモコンで設定することができます。

1 「各種設定」→「V2H システム」をタッチする

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

ドローメニューの「各種設定」をタッチ→「V2H システム」をタッチ→「各種設定 / V2H システム」画面に切り替わります。

● 室内リモコンの場合

「設定」をタッチ→メニュー画面で「各種設定」を選択し「設定」をタッチ→各種設定画面で「V2H システム」を選択し「設定」をタッチ→「V2H システム」画面に切り替わります。

メモ

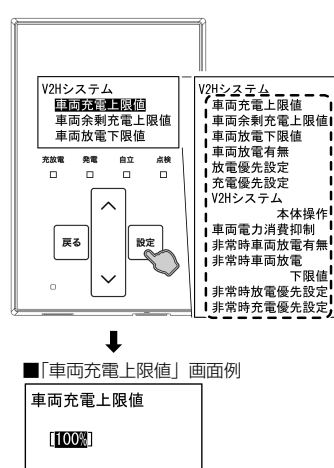
- 「 $\wedge$ / $\vee$ 」をタッチすると選択メニューをスクロール表示して選択できます。
- 「戻る」をタッチすると前画面に戻ります。

2 V2H システムの各種設定を変更する

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

各項目をタッチして設定値 (31 ページ参照) を変更します。

メモ

- V2H システムの設定を変更した状態でナビゲーションバーの「<」(戻るボタン)をタッチすると、キャンセル確認の画面に切り替わります。「確定」または「戻る」をタッチすると、「ホーム」画面または「各種設定 / V2H システム」画面に戻ります。

● 室内リモコンの場合

各項目を選択して「設定」をタッチすると、各項目の設定画面に切り替わります。

「 $\wedge$ / $\vee$ 」をタッチして各項目の設定値 (31 ページ参照) を選択します。

メモ

- 「 $\wedge$ / $\vee$ 」をタッチすると選択メニューや各項目の設定値を表示して選択できます。
- 「戻る」をタッチすると前画面に戻ります。

3 設定内容を確定する

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

「確定」をタッチすると、設定確認画面に切り替わります。「確定」をタッチすると、設定内容を確定してホーム画面に戻ります。「戻る」をタッチすると、設定を確定せずに前画面に戻ります。

● 室内リモコンの場合

「設定」をタッチすると、設定確認画面に切り替わります。「設定」をタッチすると、設定内容を確定して前画面に戻ります。「戻る」をタッチすると、設定を確定せずに前画面に戻ります。

メモ

- 「戻る」をタッチすると一つ前の画面に戻ります。「ホーム」画面に戻るまで「戻る」をタッチしてください。

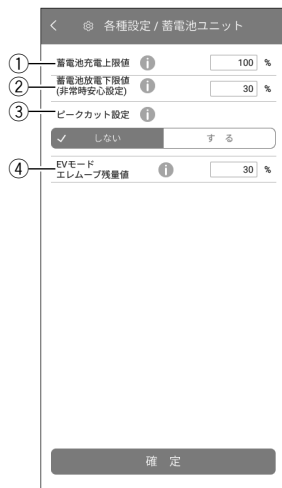
蓄電池ユニットの各種設定について【蓄電池ユニット併設時のみ】

蓄電池ユニットに関わる各種設定を行います。

設定方法については、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「蓄電池ユニットの各種設定を設定する」を参照してください。

■ 画面例

● 専用アプリ



① 蓄電池充電上限値

電力会社の電力で蓄電池ユニットを充電する際に、指定した上限値で充電を停止する設定です。

詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「蓄電池ユニットの各種設定について」をご参照ください。

② 蓄電池放電下限値（非常時安心設定）

停電が発生しても、蓄電池ユニットから電気が使えるよう普段から設定した割合の蓄電池残量を常に残しておく設定です。

詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「蓄電池ユニットの各種設定について」をご参照ください。

③ ピークカット設定

蓄電池ユニットが蓄電池放電下限値（非常時安心設定）によって放電を停止していても、契約容量を超える買電を抑えるため追加で放電（ピークカット放電）を行う設定です。

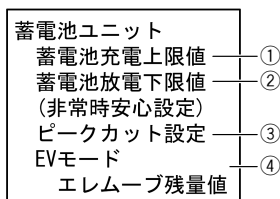
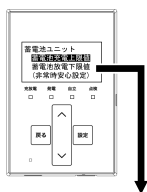
詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「蓄電池ユニットの各種設定について」をご参照ください。

④ EVモードエレムープ残量値※¹

EVモード運転中に車両が接続されていない状態で蓄電池ユニットから放電する場合に、指定した残量値で放電を停止させることで、エレムープ充電用に蓄電池ユニットの蓄電池残量を残しておく設定です。

設定値	0%、10%、20%、30%★、40%、50%、60%、70%、80%、90%、100%
-----	--

● 室内リモコン



✎ メモ

- 蓄電池ユニットに充電できない状態が続く場合、あるいは蓄電池ユニットの環境温度が低い場合には、EVモードエレムープ残量値の指定蓄電池残量を下回ることがあります。
- EVモード運転中は、本設定値と、「蓄電池放電下限値（非常時安心設定）」のうち、高い方が優先となります。（例：「EVモードエレムープ残量値」が30%、「蓄電池放電下限値（非常時安心設定）」が40%の場合、40%まで放電を行います。）

★：製品出荷時の設定値

※ 1：V2Hシステムおよび蓄電池ユニット併設時のみ設定できます。

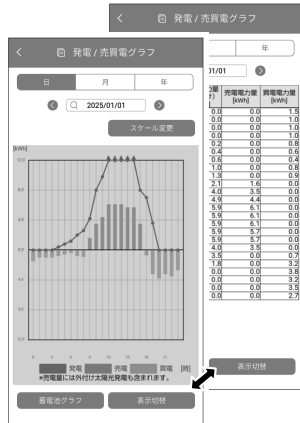
各グラフについて【専用アプリのみ】

「発電 / 売買電グラフ」、「蓄電池充放電グラフ」、「車両充放電グラフ」を切り替えて表示できます。

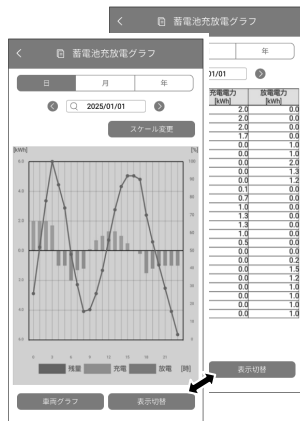
メモ

- 本システムの設置時から現在までの過去最大 10 年間相当のグラフを表示し、10 年を超えると古い日付のデータから削除されます。
- グラフおよび表示量は目安です。測定条件などの違いにより、他の機器 (HEMS など) と異なる場合があります。
- 室内リモコンの電源を切っている間のデータは、データが保存されないため表示できません。
- 日時設定を変更したときは、一部またはすべてのデータが削除または上書きされます。HEMS や NTP との時刻同期により日時設定が変更されたときも同様です。
- パワーコンディショナもしくは室内リモコンの修理・交換を行った場合、各グラフのデータがリセットされる場合があります。
- 室内リモコンでは、グラフ情報は確認できません。

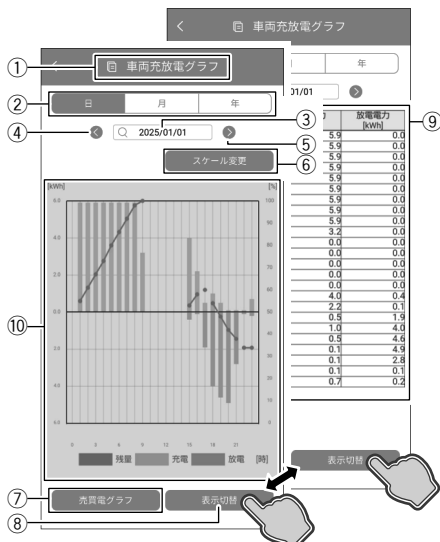
■ 発電 / 売買電グラフ・数値例



■ 蓄電池充放電グラフ・数値例



■ 車両充放電グラフ・数値例



● 発電 / 売買電グラフ・数値※²

太陽光の発電電力量 (kWh) および売電電力量 (kWh)、買電電力量 (kWh) を表示します。太陽光発電パネルを併設していない場合も表示します。

● 蓄電池充放電グラフ・数値※²

蓄電池ユニットの充電電力量 (kWh) および放電電力量 (kWh)、蓄電池残量 (%) を表示します。蓄電池ユニットを併設していない場合は表示しません。

● 車両充放電グラフ・数値

車両の充電電力量 (kWh) および放電電力量 (kWh)、車両蓄電池残量 (%) を表示します。V2H システムを併設していない場合は表示しません。

① グラフ名称

表示しているグラフの名称を表示します。

② 表示期間切替

日 / 月 / 年をタッチすると、日別 / 月別 / 年別に表示期間が切り替わります。

③ 年月日

現在表示しているグラフの日付を表示します。タッチするとカレンダーから表示する日付を選択することができます。

④ 前へ / ⑤ 次へ

前日 / 翌日、前月 / 翌月、前年 / 翌年を表示します。

⑥ スケール変更

タッチすることで表示スケールを変更して表示します。

	車両充放電グラフ
日別	6 kWh / 12 kWh
月別	12 kWh / 24 kWh / 48 kWh
年別	300 kWh / 600 kWh / 1200 kWh

⑦ グラフ切替※¹

次に表示されるグラフ名を一部省略 (車両グラフ: 車両充放電グラフ、売買電グラフ: 発電 / 売買電グラフ、蓄電池グラフ: 蓄電池充放電グラフ) して表示します。タッチするとグラフ種類を変更して表示します。

⑧ 表示切替

タッチするとグラフ ⇄ 数値で表示が切り替わります。

⑨ 数値表示

各グラフの内容を数値で表示します。

⑩ 電力量 [kWh] / 残量 [%] (車両充放電グラフ)

電力量を表示します。

充電電力量	棒グラフ (橙色) で上側に棒の長さで表示
放電電力量	棒グラフ (緑色) で下側に棒の長さで表示
残量	折れ線グラフ (青色) で表示

※ 1: 併設している機器構成により画面構成が異なります。

※ 2: 詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「各グラフについて【専用アプリのみ】」をご参照ください。

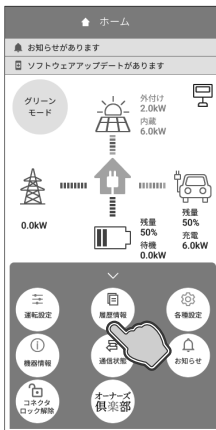
グラフを表示する【専用アプリのみ】

グラフ各種は、専用アプリに表示することができます。室内リモコンには表示できません。

1 「履歴情報」をタッチする

● 専用アプリ

ドロワーメニューの「履歴情報」をタッチ→「履歴情報」画面に切り替わります。



2 グラフを選択する

● 専用アプリ

日付検索画面で日付を確定すると、選択したグラフ画面に切り替わります。



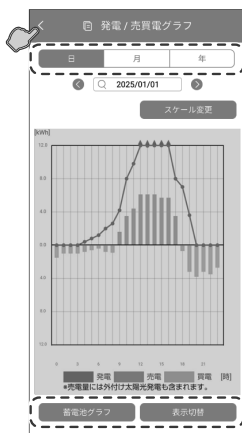
メモ

- 「履歴情報」画面はスクロールしてメニューを表示選択してください。
- 蓄電池ユニットを併設していない場合は、「蓄電池充放電グラフ」は選択できません。
- 各グラフは、「履歴情報」画面のグラフボタンもしくは各グラフ画面の「グラフ切替」をタッチすると表示されます。
- 次の場合は、一部またはすべてのデータが削除または上書きされます。
 - 日時設定を変更したとき
 - パワーコンディショナもしくは室内リモコンを修理交換したとき
- 表示するデータが無い場合は「表示できるデータがありません」と表示します。

3 グラフを確認する

● 専用アプリ

- 「発電/売電グラフ」画面例



- 「日」「月」「年」をタッチすると、表示期間を日間、月間、年間表示に切り替えます。
 - 画面下部に「車両グラフ」ボタン^{※1}、「蓄電池グラフ」ボタン^{※1}、「売電グラフ」ボタン^{※1}が表示される場合、各ボタンをタッチすると、「車両充放電グラフ」、「蓄電池充放電グラフ」、「発電/売電グラフ」に切り替わります。
 - 「表示切替」をタッチすると、グラフ表示⇄数値表示を切り替えます。
 - ナビゲーションバーの「<」(戻るボタン)をタッチすると、「履歴情報」画面に戻ります。
- ※1: 設置環境によって表示されるボタンが異なります。蓄電池ユニットを併設していない場合は、「蓄電池グラフ」ボタンは表示されません。

メモ

- 蓄電池ユニットを併設していない場合は、「蓄電池充放電グラフ」は表示されません。
- 各グラフは、「履歴情報」画面のグラフボタンもしくは各グラフ画面のグラフ切替をタッチすると表示されます。
- 「スケール変更」をタッチすると電力量の縦目盛りの表示を変更します。

4 「ホーム」画面に戻る

● 専用アプリ

ナビゲーションバーの「<」(戻るボタン)をタッチすると、「ホーム」画面に戻ります。



機器情報について

機器情報は、「登録情報」「設定情報^{※1}」を表示します。画面はスクロール表示してください。

機器情報の確認方法については、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「機器情報を確認する」を参照してください。

※1: パワーコンディショナ同梱のパワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「機器情報について」の「設定情報」を参照してください。

■「機器情報」画面例

● 専用アプリ

登録情報	
①	太陽光発電パネル あり
	外付け太陽光発電 あり
	蓄電池ユニット あり
	V2Hシステム あり
②	システム 機種名 ESS-T6L1VPL 製造番号 ND-100001WEL
③	パワーコンディショナ INVソフトウェア _M14.xx.xx/L— PVソフトウェア _MP4.xx.xx/L—
④	室内リモコン 機種名 ES-R8 製造番号 ——— ソフトウェア xxx.xx
⑤	蓄電池ユニット 容量 9.900kWh ソフトウェア xxx.xx
⑥	V2Hシステム 製造番号 ***** MCUソフトウェア DSM.00.01 DDCソフトウェア DSD.00.01
	太陽光発電パネル設置場所 屋外
⑦	蓄電池ユニット設置場所 屋外
	V2Hシステム設置場所 車庫
⑧	設置日 2025/04/01
⑨	太陽光以外の発電装置 なし
⑩	電気給湯器 なし
⑪	郵便番号 000-0000
⑫	エコネットライト Release Q
⑬	アプリバージョン情報 Ver.2.00.00

機器情報の「登録情報」を表示します。

① 機器構成 (太陽光発電パネル/外付け太陽光発電/蓄電池ユニット/V2Hシステム)
あり/なし

② システム 機種名/製造番号
システム 機種名^{※2}: ES-T5/ESS-T5VPL/ESS-T5M1VPL/ESS-T5MG1VPL/
ESS-T5L1VPL/ESS-T5X1VPL/ESS-T5XG1VPL/ESS-T5Z1VPL/
ESS-T5CK/ESS-T5CKVPL/ESS-T5MGCKVPL/ESS-T5XGCKVPL/
ESS-T6/ESS-T6VPL/ESS-T6M1VPL/ESS-T6MG1VPL/
ESS-T6L1VPL/ESS-T6X1VPL/ESS-T6XG1VPL/ESS-T6Z1VPL/
ESS-T6CK/ESS-T6CKVPL/ESS-T6MGCKVPL/ESS-T6XGCKVPL
システム 製造番号: パワーコンディショナ製造番号

③ パワーコンディショナ ソフトウェア
パワーコンディショナ INV ソフトウェア: バージョン番号
パワーコンディショナ PV ソフトウェア: バージョン番号

④ 室内リモコン 機種名/製造番号/ソフトウェア
室内リモコン 機種名: ES-R8/ES-R8C
室内リモコン 製造番号: 室内リモコン製造番号
室内リモコン ソフトウェア: バージョン番号

⑤ 蓄電池ユニット^{※3} 容量/ソフトウェア
蓄電池ユニット 容量: 7.4 kWh / 9.9 kWh / 14.9 kWh / 19.9kWh
蓄電池ユニット ソフトウェア: バージョン番号

⑥ V2Hシステム 製造番号/MCUソフトウェア/DDCソフトウェア
V2Hシステム 製造番号: V2Hシステム製造番号
MCU ソフトウェア: バージョン番号
DDC ソフトウェア: バージョン番号

⑦ 機器設置場所 (太陽光発電パネル設置場所/蓄電池ユニット設置場所/V2Hシステム設置場所)

太陽光発電パネル設置場所: 屋外/その他
蓄電池ユニット設置場所: 屋内/屋外/なし
V2Hシステム設置場所: 車庫/その他/なし

⑧ 設置日
本システムを設置した日

⑨ 太陽光以外の発電装置
あり/なし

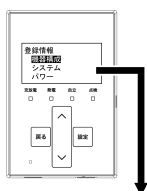
⑩ 電気給湯器
あり/なし

⑪ 郵便番号
本システムを設置しているご住所の郵便番号
● 郵便番号を設定すると異常が発生した際に、原因の特定につながる場合がありますので
正しく入力してください。

⑫ エコネットライト
バージョン番号

⑬ アプリバージョン情報【専用アプリのみ】
バージョン番号

● 室内リモコン



登録情報	
機器構成	①
システム	②
パワー コンディショナ	③
室内リモコン	④
蓄電池ユニット	⑤
V2Hシステム	⑥
機器設置場所	⑦
設置日	⑧
太陽光以外の 発電装置	⑨
電気給湯器	⑩
郵便番号	⑪
エコネットライト	⑫

※2: パワーコンディショナ設置後に蓄電池ユニットやV2Hシステムを増設設置した場合のシステム機種名は、増設後の組み合わせによるシステム機種名になります。(「増設設置の可能期間」(65ページ)参照)

※3: 蓄電池ユニットを併設していない場合は、表示されません。

停電時の使い方（自立運転）

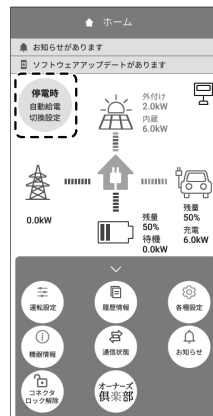
停電が発生した際は、本製品は停電時の運転に自動で切り替わります。
停電運転中に車両との接続（コネクタロック）をする場合、30 秒程度、電気の供給が停止します。そのため、途中で電源が切れると困る家電製品や機器（医療機器等）は接続しないでください。

重要

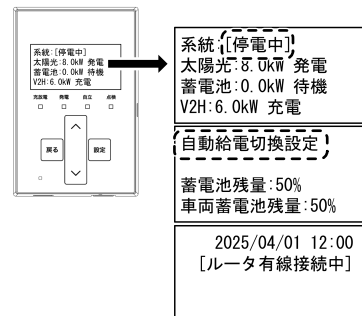
「車両電力消費抑制」（32 ページ）により車両の充放電動作が停止している状態で停電が発生した際は、太陽光発電や蓄電池ユニットなど他の電力供給源から電力が供給できない場合、V2H システムが停止します。
その際は「停電時に車両を利用した起動方法」（42 ページ）に従って、本システムを起動してください。

■ 停電時ホーム画面例

● 専用アプリ



● 室内リモコン



V2H システムの各運転モードについて（停電時）

本製品では、停電時には以下の運転モードを選択することができます。停電時運転モードは、停電発生時のみ設定可能です。

運転モード	設定できる 停電時運転モード	モード説明
自動運転モード	自動給電切換設定★	太陽光発電電力量や家庭内負荷の消費量に応じて、蓄電池ユニットの充放電の切り替えを自動で行います。
手動運転モード	蓄電池充電※ ¹	停電時に家庭内負荷の消費量に関係なく、蓄電池ユニットへ充電を行うモードです。
	車両充電※ ²	停電時に家庭内負荷の消費量に関係なく、車両へ充電を行うモードです。
	エレムープ充電※ ³	停電時に家庭内負荷の消費量に関係なく、蓄電池ユニットから車両へ電力を移動するモードです。
	エレムープ放電※ ³	停電時に家庭内負荷の消費量に関係なく、車両から蓄電池ユニットへ電力を移動するモードです。

★：製品出荷時の設定値（停電時の設定値）

※ 1：蓄電池ユニットを併設している場合のみ設定できます。

※ 2：コネクタロック状態の時のみ設定できます。

※ 3：蓄電池ユニット併設かつコネクタロック状態の時のみ設定できます。

自動運転モード（停電時）

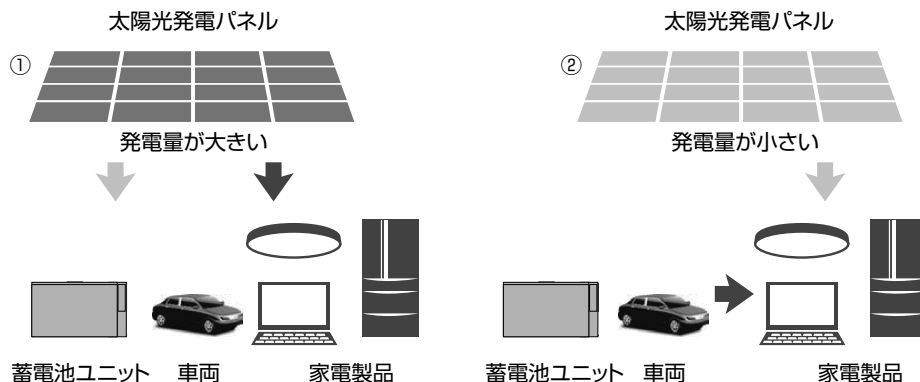
自動給電切換設定

太陽光発電電力とご家庭内の家電製品の電力使用量を判断しながら、車両もしくは蓄電池ユニットからの放電や充電の切り替えを自動で行います。通常はこちらをご利用ください。

なお、車両もしくは蓄電池ユニットの放電や充電は、「非常時放電優先設定」および「非常時充電優先設定」（33 ページ）に従って動作します。

①太陽光発電電力を家電製品に給電し、余剰電力を車両もしくは蓄電池ユニットに充電します。

②太陽光発電電力が不足している場合や、発電していない場合は、車両もしくは蓄電池ユニットから家電製品に給電します。



- V2H システムの「非常時車両放電有無」が「しない」に設定されていた場合は、車両から放電しません。（32 ページ）

手動運転モード（停電時）

重要

- 手動運転モード動作中は、家電製品への給電を一切行いません。夜間に照明などへの給電を行わなくなりますので、設定される際はご自宅の状況に十分ご注意ください。
- 手動運転モード動作中は、ルーターの電源が喪失するため、ルーター経由（「ルータ有線接続」および「ルータ無線接続」）での専用アプリの利用ができなくなります。手動運転モード動作中に専用アプリを利用される場合は、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「ネットワークの設定【室内リモコンのみ】」を参照して、「接続設定」を「ダイレクト接続」に設定してご利用ください。
- 復電後、「接続設定」を元の設定に戻してください。（「ダイレクト接続」設定中は、インターネット接続はできません。）

蓄電池充電（蓄電池ユニット併設時のみ設定可能）

停電時の蓄電池充電は、太陽光発電から蓄電池ユニットへの充電のみ行います。

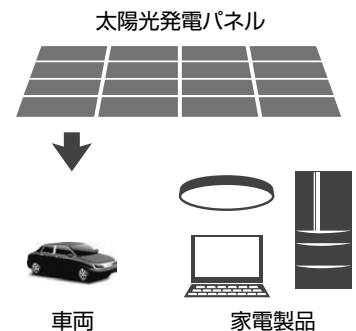
詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「蓄電池ユニットの各運転モードについて（停電時）」を参照してください。

車両充電

停電時の車両充電は、太陽光発電から車両への充電のみ行います。

充電動作中は家電製品への給電を一切行いません。

充電完了後は、待機状態となりますので、「自動給電切替設定」に切り替えてください。



エレムーブ充電（蓄電池ユニット併設時のみ設定可能）

蓄電池ユニットから車両へ電力を移動するモードです。

充電動作中は家電製品への給電を一切行いません。

下記の条件を満たした場合、エレムーブ充電を終了し「自動給電切替設定」に自動的に切り替わります。

- 車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「充電可能上限値」になった場合
- 蓄電池ユニットの残量がゼロになった場合

エレムーブ放電（蓄電池ユニット併設時のみ設定可能）

車両から蓄電池ユニットへ電力を移動するモードです。

充電動作中は家電製品への給電を一切行いません。

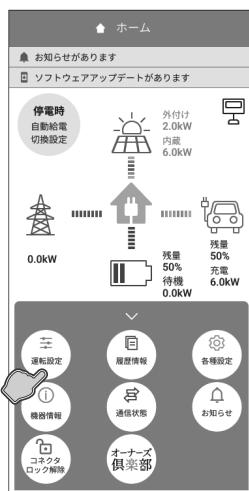
下記の条件を満たした場合、エレムーブ放電を終了し「自動給電切替設定」に自動的に切り替わります。

- 蓄電池ユニットが満充電になった場合
- 車両の蓄電池残量が「非常時車両放電下限値」（33 ページ）もしくは車両ごとに定められた「放電可能下限値」になった場合

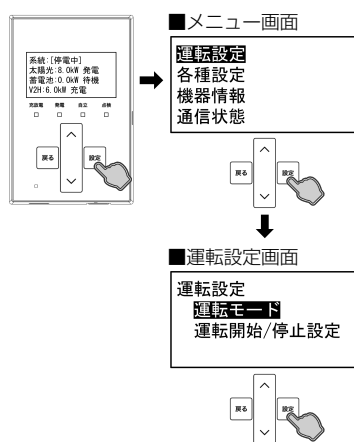
V2H システムの運転モードを選ぶ（停電時）

1 「運転設定」をタッチする

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

ドローメニューの「運転設定」をタッチ→「運転設定」画面に切り替わります。

メモ

- V2Hシステムおよび蓄電池ユニットのいずれも併設していない場合は、本設定を行うことはできません。

● 室内リモコンの場合

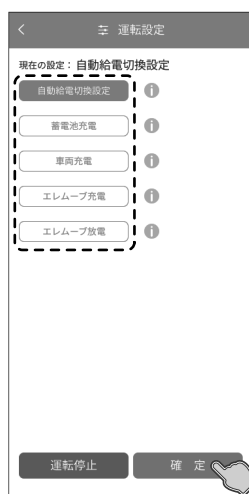
「設定」をタッチ→メニュー画面で「運転設定」を選択し「設定」をタッチ→運転設定画面で「運転モード」を選択し「設定」をタッチ→「運転モード」画面に切り替わります。

メモ

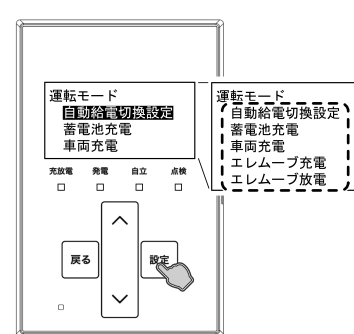
- V2Hシステムおよび蓄電池ユニットのいずれも併設していない場合は、本設定を行うことはできません。

2 運転モードを選択して「確定」（室内リモコンは「設定」）をタッチする

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

停電時の運転モード(39 ページ参照)を選択し「確定」をタッチすると、設定確認画面に切り替わります。

メモ

- 運転モードは表示されるモードのみ選択できます。通常は自動運転モードを選択してください。
- 運転設定を変更した状態でナビゲーションバーの「<」（戻るボタン）をタッチすると、キャンセル確認の画面に切り替わります。「確定」または「戻る」をタッチすると、「ホーム」画面または「運転設定」画面に戻ります。

● 室内リモコンの場合

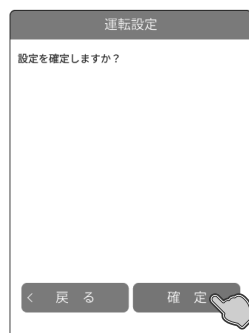
停電時の運転モード(39 ページ参照)を選択し「設定」をタッチすると、設定確認画面に切り替わります。

メモ

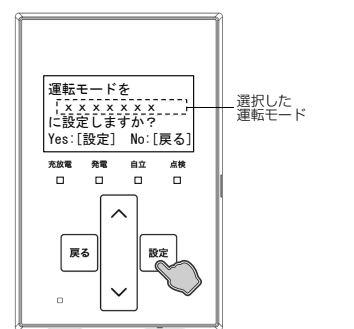
- 運転モードは表示されるモードのみ選択できます。通常は自動運転モードを選択してください。
- 「上/下」をタッチして選択メニューの項目を選択します。「戻る」をタッチすると前画面に戻ります。

3 設定内容を確定する

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

「確定」をタッチすると、設定内容を確定してホーム画面に戻ります。「戻る」をタッチすると、設定を確定せずに前画面に戻ります。

● 室内リモコンの場合

「設定」をタッチすると、設定内容を確定して前画面に戻ります。「戻る」をタッチすると、設定を確定せずに前画面に戻ります。

メモ

- 「戻る」をタッチすると一つ前の画面に戻ります。「ホーム」画面に戻るまで「戻る」をタッチしてください。

停電時に車両を利用した起動方法

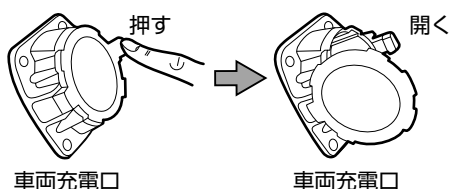
※車種によっては記載内容と異なる操作が必要となる場合があります。詳しくは車両の取扱説明書を参照してください。
停電時、太陽光発電電力が無い状態で、車両がコネクタロックしていないとき、またはコネクタロックしているが充放電時間帯以外のとき、もしくは車両電力消費抑制が働いているときは、V2H システムが停止します。(蓄電池ユニットを併設している場合は、その後も蓄電池ユニットの電力で動作を維持しますが、残量が無くなると V2H システムが停止します。)
V2H システムが停止すると、室内リモコンおよび専用アプリは使用できません。
車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「放電可能下限値」よりも残っている場合は、充放電コネクタを車両に接続し下記の操作を行って本システムを起動してください。

重要

車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回っている場合は、起動できません。その場合は太陽光が発電でき次第起動できます。ただし、太陽光発電電力によって V2H システムを起動した場合は、コネクタロックは解除されたままとなります。車両を動作させたい場合は、コネクタロックをしてください。(16 ページ)
なお、下記の操作により起動させた場合でも、車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回った場合は、V2H システムが停止します。

車両の電源ソケットを利用した起動方法

1 車両を準備する



V2H システムと接続するために以下①～④に従って、車両側の準備をしてください。

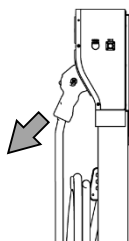
- ①車両のシフトレバーを P (パーキング) 位置にする。
- ②車両のメーターパネルを OFF の状態にする。
- ③パーキングブレーキをかける。
- ④車両の充電口を開く。



メモ

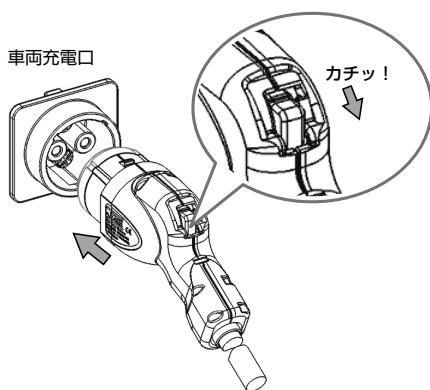
- 車両ごとに操作が異なるため、車両の取扱説明書をご確認ください。

2 充放電コネクタホルダーから充放電コネクタを取り外す



充放電コネクタの解除レバーを押しながら、コネクタを引き抜きます。

3 充放電コネクタを車両に接続する



充放電コネクタを車両充電口の奥まで差し込みます。「カチッ」と音がするまで押し込んでください。



メモ

- コネクタが車両に接続されていない状態では、コネクタロックできません。
- 充放電コネクタ接続中は、車両を移動しないでください。車両の充電口や充放電コネクタが破損する可能性があります。

4 車両の電源ソケットに付属品の 12V 電源ケーブルを接続し、車両の ACC(アクセサリ) を ON にする



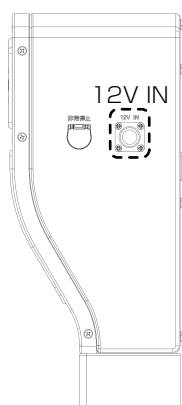
車両のドアは閉じた状態にし、窓から 12V 電源ケーブルを外に出してください。



メモ

- 電源ソケット位置および接続については、車両の取扱説明書を確認してください。

5 V2H ポッド右側面の 12V IN に 12V 電源ケーブルを接続する



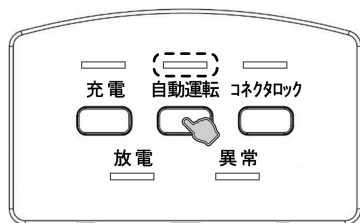
- ①「12V IN」のふたを外す。
- ② 12V 電源ケーブルを「12V IN」に接続する。



メモ

- ふたは、左に回して手前に引くと取り外せます。使用時以外は常時ふたを付けておいてください。

6 自立運転を開始する



「自動運転」ボタンをタッチすると、「自動運転」LED が点滅します。
自立運転を開始すると、「自動運転」LED が点灯します。



メモ

- 自立運転の電力供給開始に約 20 ～ 30 秒の時間がかかります。

7 車両の ACC(アクセサリ) を OFF にする

車両からの放電状態を確認してから、車両のパワースイッチを OFF にします。

重要

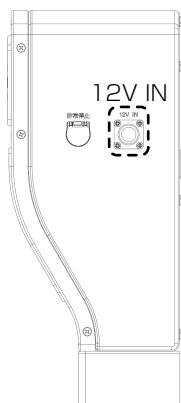
車両の消費電力が多くなり、車両の蓄電池が早く消費されてしまうため、放電確認後、車両の ACC(アクセサリ) を必ず「OFF」にしてください。



メモ

- 車両の ACC(アクセサリ) を ON にしても、すぐに放電が始まらない場合があります。その場合は ON にしてから約 1 分間経過したあとに、再度操作してください。約 1 分間経過しても放電が始まらない場合は、車両の ACC(アクセサリ) が ON になっているか再度確認してください。
- 車両によっては ACC(アクセサリ) を OFF すると自立運転が停止する場合があります。その時は ACC(アクセサリ) を ON のままにしてください。詳しくは車両をお買い上げの販売店にお問い合わせください。

8 12V 電源ケーブルを取り外す



車両から放電状態を確認した後、12V 電源ケーブルを取り外してください。

● 車両側

車両の電源ソケットから 12V 電源ケーブルを取り外します。

● V2H システム側

V2H ポッド右側面の 12V IN から 12V 電源ケーブルを取り外し、ふたを取り付けます。

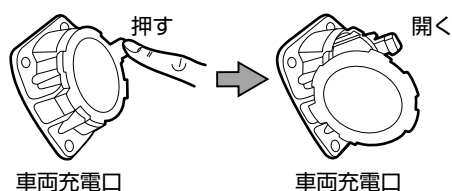


メモ

- 本操作で起動できない車種は、充放電コネクタを利用した方法で起動してください。(44 ページ)
- 電源ソケット位置および取り外し方については、車両の取扱説明書を確認してください。

充放電コネクタを利用した起動方法

1 車両を準備する



V2H システムと接続するために以下①～④に従って、車両側の準備をしてください。

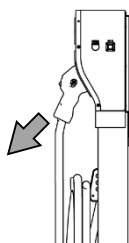
- ①車両のシフトレバーを P(パーキング) 位置にする。
- ②車両のメーターパネルを OFF の状態にする。
- ③パーキングブレーキをかける。
- ④車両の充電口を開く。



メモ

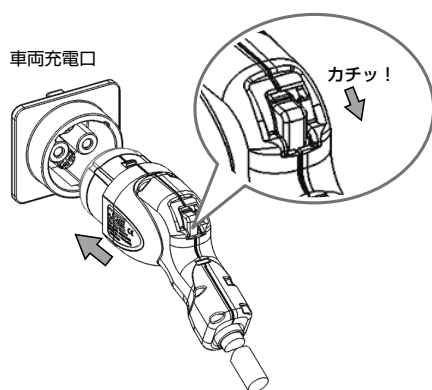
- 車両ごとに操作が異なるため、車両の取扱説明書をご確認ください。

2 充放電コネクタホルダーから充放電コネクタを取り外す



充放電コネクタの解除レバーを押しながら、コネクタを引き抜きます。

3 充放電コネクタを車両に接続する



充放電コネクタを車両充電口の奥まで差し込みます。「カチッ」と音がするまで押し込んでください。



メモ

- コネクタが車両に接続されていない状態では、コネクタロックできません。
- 充放電コネクタ接続中は、車両を移動しないでください。車両の充電口や充放電コネクタが破損する可能性があります。

4 車両の ACC(アクセサリ) を ON にする

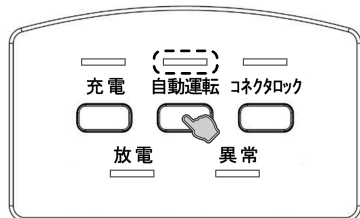
車両の ACC(アクセサリ) を ON にしたあと、約 1 分間お待ちください。



メモ

- 車種によっては専用のボタンでの操作となる場合があります。詳しくは車両の取扱説明書を参照してください。

5 自立運転を開始する



「自動運転」ボタンをタッチすると、「自動運転」LED が点滅します。自立運転を開始すると、「自動運転」LED が点灯します。



メモ

- 自立運転の電力供給開始に約 20 ～ 30 秒の時間がかかります。

6 車両の ACC(アクセサリ) を OFF にする

車両からの放電状態を確認してから、車両のパワースイッチを OFF にします。

重要

車両の消費電力が多くなり、車両の蓄電池が早く消費されてしまうため、放電確認後、車両の ACC(アクセサリ) を必ず「OFF」にしてください。



メモ

- 本操作で起動できない車種は、車両の電源ソケットを利用した方法で起動してください。(42 ページ)
- 車両の ACC(アクセサリ) を ON にしても、すぐに放電が始まらない場合があります。その場合は ON にしてから約 1 分間経過したあとに、再度操作してください。約 1 分間経過しても放電が始まらない場合は、車両の ACC(アクセサリ) が ON になっているか再度確認してください。
- 車両によっては ACC(アクセサリ) を OFF すると自立運転が停止する場合があります。その時は ACC(アクセサリ) を ON のままにしてください。詳しくは車両をお買い上げの販売店にお問い合わせください。

停電時に自動で家電製品をご利用になりたい場合

下記の設定を行うことで、停電時に自動的に放電を行います。

- V2H システム各種設定の「非常時車両放電有無」を「する」で設定する。(32 ページ)
- 機器情報 / 設定情報の「停電時出力」を「自動」で設定する。
(詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「機器情報について」を参照してください。)

重要

「車両電力消費抑制」(32 ページ) により車両の充放電動作が停止している状態で停電が発生した際は、太陽光発電や蓄電池ユニットなど他の電力供給源から電力が供給できない場合、V2H システムが停止します。その際は本項目の内容に従って、本システムを起動してください。



メモ

- 停電時に安全を確認してから家電製品をご利用になりたい場合は、「停電時、安全を確認してから家電製品をご利用になりたい場合」(50 ページ) を参照してください。

復電時の操作

- 停電後、復電した場合は、本システムに対して特別な操作はありません。
- 復電後、電力会社との協議で定められた時間内(最大 5 分)は買電して家電製品に給電しますが、本システム(内部 PV の太陽光発電を含む)は停止状態となります。その後、電力会社との協議で定められた時間が経過すると、通常時のモードで運転します。

こんなときは

ブザー音や異音について

以下の音は本製品の異常ではありません。

ピッ音	室内リモコンをボタン操作するときの操作音です。
ピッピッピッピッ音	点検コードが発生したときに発生する室内リモコンのブザー音です。
ピッピッ音	
ジージー音	製品内部の回路が動作するときには発生する音です。
チリチリ音	
チャリチャリ音	
カチャン音	製品内部の機械部分が動作するときには発生する音です。(運転開始時と停止時に発生します)
ブーン音	ファンの音です。
カチャカチャ音	自動切替開閉器の内部スイッチが切り替わるときには発生する音です。(停電/復電時に発生します)

メモ

- 聴覚感覚が高い方にとって、運転時の高周波音は不快に感じる場合がありますが異常ではありません。
- 室内リモコンのブザー音(ピッピッピッピッ音またはピッピッ音)が鳴ったときは、画面に表示されたメッセージおよび「点検コード(BExxx、BFxxx、Blxxx)が表示されたとき」(57ページ)の処置に従ってください。

動作がおかしいと感じたとき

ブレー力が頻繁に落ちる場合

お買い上げの販売会社へご連絡ください。

契約電力を変更する場合

契約容量を変更する場合は、お買い上げの販売会社へご連絡ください。

停電時に家電製品が使用できない場合

- ブレー力が落ちていないか確認してください。ブレー力が落ちている場合は、ブレー力を上げてください。
- 室内リモコンもしくは専用アプリに点検コードが表示されている場合は、メッセージおよび「点検コード(BExxx、BFxxx、Blxxx)が表示されたとき」(57ページ)の処置に従ってください。
- 本システムの停電時運転モードが「手動運転モード」になっている場合、家電製品へ給電されないため、家電製品を使用することができません。家電製品へ給電する場合は、停電時運転モードを「自動給電切替設定」に設定してください。
- 「停電時に車両の蓄電池残量が下限値を下回った場合」(48ページ)を参照してください。太陽光発電が無く、車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「放電可能下限値」以下の場合および蓄電池ユニットの残量がゼロの場合は、本製品を利用することはできません。
- 上記要因でない場合、故障の可能性があります。お買い上げの販売会社へご連絡ください。

室内リモコンの画面が表示されない場合

- 室内リモコンの電源スイッチ(スライドスイッチ)がOFFの場合は、室内リモコンの画面は表示されません。
- 停電時、太陽光発電がなく、蓄電池ユニットの蓄電池残量がゼロ、および車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回った場合は、室内リモコンの画面は表示されません。「停電時に車両の蓄電池残量が下限値を下回った場合」(48ページ)の処置を行っても室内リモコンの画面が表示されない場合は、お買い上げの販売会社へご連絡ください。

100%まで充電できない場合

- 充電時間帯に他の家電製品(電気温水器、床暖房など)を多く使っている場合、電力契約によっては、充電できる電力が不足し、100%まで充電できない場合があります。その場合は、電力契約の見直しなどについて、お買い上げの販売会社にご相談ください。
- 充電時間が短い場合、100%まで充電できない場合があります。「V2Hシステムの充放電時刻を変更する」(27ページ)を参照してください。
- 車両充電上限値や車両余剰充電上限値が設定されている場合は、設定されている値までしか充電できません。「V2Hシステムの各種設定について」(31ページ)の「車両充電上限値」もしくは「車両余剰充電上限値」を確認してください。
- 車両によっては車両ごとに定められた「充電可能上限値」により、充電上限値が強制的に制限されることがあります。詳しくは、ニチコンホームページを参照してください。
(https://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html)
- 日頃グリーンモードによる太陽光発電の余剰電力充電をご利用になっている場合、天候によっては余剰電力が不足し、100%まで充電できない場合があります。

太陽光発電電力が充電できない場合

- 雨天・曇天時は十分な発電電力が確保できず、充電ができない場合があります。
- 車両の蓄電池残量が 100% だった場合、太陽光発電の余剰電力が発生しても充電を行わず売電します。V2H システムの充放電時間帯 (27 ページ) もしくは V2H システムの充電上限値 (31 ページ) の設定を確認し、余剰充電ができるよう電力会社の電力で充電する充電量を抑える設定にしてください。
- グリーンモードもしくは売電モード動作中に充放電時間帯以外の時間帯となった場合は、太陽光発電の余剰電力が発生しても充電を行わず売電します。
- 車両の充電電力の低下により、太陽光発電の余剰電力が発生しても充電できずに売電される場合があります。

夏季に充放電・発電動作が停止した場合

気温の上昇や日射により、パワーコンディショナ、V2H システムあるいは蓄電池ユニットが高温になった場合に一時的に蓄電システムを停止する場合があります。機器の温度が下がると自動で充放電・発電動作を再開します。

車両が充放電できない場合

- 車両の蓄電池残量が、専用アプリや室内リモコンで設定する「車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」以下のときは放電ができません。
※専用アプリや室内リモコンで設定する「車両放電下限値」を下げることで放電できる場合があります。
- 車両の蓄電池残量が、専用アプリや室内リモコンで設定する「車両充電上限値」または車両ごとに定められた「充電可能上限値」以上のときは電力会社の電力による充電ができません。
※専用アプリや室内リモコンで設定する「車両充電上限値」を上げることで充電できる場合があります。
- コネクタロック状態になっていない場合は充放電できません。コネクタロックを行ってください。
- V2H ポッドの「非常停止」ボタン (12 ページ) が押され、V2H システムが非常停止している場合があります。お知らせリストに点検コード「BI730」が表示されていないか確認してください。表示されていた場合は、V2H システムに異常がないことを確認してから再度「非常停止」ボタンを押して、非常停止を解除してください。
- 蓄電池ユニットを併設しているかつ、充電や放電の優先設定が「蓄電池」になっている場合、蓄電池ユニットを優先的に利用します。「V2H システム設定」画面の下記項目について、お客様のご利用状況に合わせて設定してください。
 - 「放電優先設定」
 - 「充電優先設定」
 - 「非常時放電優先設定」
 - 「非常時充電優先設定」
- 太陽光発電が売電中の場合、車両から放電することはできません。
- 「車両電力消費抑制」を「する」に設定していた場合、車両の充放電電力が低い状態が続くと、車両の充放電動作を一時的に停止する場合があります。(32 ページ)

蓄電池ユニットが充放電できない場合 (蓄電池ユニット併設時)

- 蓄電池ユニットの充電上限値および放電下限値が設定されている場合は、設定されている値までしか充電および放電ができません。パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「蓄電池ユニットの各種設定について」を参照してください。
- V2H システムを併設しているかつ、充電や放電の優先設定が「車両」になっている場合、車両を優先的に利用します。「V2H システム設定」画面の下記項目について、お客様のご利用状況に合わせて設定してください。
 - 「放電優先設定」
 - 「充電優先設定」
 - 「非常時放電優先設定」
 - 「非常時充電優先設定」
- 太陽光発電が売電中の場合、蓄電池ユニットから放電することはできません。

充放電の動作切り替え時に数秒時間がかかる場合

車両によっては、車両との接続の取り決めにより操作を行ってから動作するまでに数秒かかる場合があります。

定格で充電できない場合

- 車両の蓄電池残量 (電圧) によっては、定格で充電できない場合があります。また、太陽光の余剰電力を充電しているときに定格充電できない場合は、売電を行います。
- 本製品に接続している家電製品の消費電力が多いと、定格で充電できない場合があります。

コネクタロック・解除を繰り返す場合

三菱自動車工業製 i-MiEV シリーズの場合、お使いいただいている家電製品の合計が約 200 W 以下の状態が約 15 分経過すると、車両側で放電を停止することがあります。

車両が満充電後、すぐに放電できない場合

車両によっては、満充電後すぐに放電できない場合があります。一度コネクタロックが解除することがあります。

停電時に放電できない場合

- 停電運転中に車両との接続（コネクタロック）をする場合、30 秒程度、電気の供給が停止します。そのため、途中で電源が切れると困る家電製品や機器（医療機器等）は接続しないでください。
- 車両の蓄電池残量が室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」以下の場合、放電ができません。
※専用アプリや室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」を下げることで放電できる場合があります。（33 ページ）
- 「非常時車両放電有無」が「しない」になっている場合、停電時に車両からの放電はできません。「する」に設定してください。（32 ページ）
- 停電時運転モードが「車両充電」になっている場合、車両から放電することはできません。「自動給電切替設定」に設定してください。（39 ページ）
- 車両によっては ACC(アクセサリ) を OFF すると自立運転が停止する場合があります。その時は ACC(アクセサリ) を ON のままにしてください。詳しくは車両をお買い上げの販売店にお問い合わせください。

停電時に車両の蓄電池残量が下限値を下回った場合

夜間など太陽光発電電力がない状態で停電になり、車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回った場合は、蓄電システムが停止します。その場合は、専用アプリを利用することができず、室内リモコンのボタンをタッチしても何も表示されません。

太陽光発電電力が得られた場合と得られない場合および蓄電池ユニットを併設している場合とで対応が異なりますので、状況に応じて以下を参照してください。

- **太陽光発電電力が得られた場合**
車両への充電を優先する場合は、停電時運転モードを「車両充電」に設定してください。（40 ページ参照）



メモ

- 「車両充電」を設定することで車両の蓄電池に早く電気を貯めることができます。ただし、車両充電で動作中は家電製品へ一切給電されませんので、家電製品への給電を優先したい場合は、「自動給電切替設定」を設定してください。（39 ページ）
- **太陽光発電電力が得られない場合**
復電するまで、本製品を利用することはできません。復電後は車両の蓄電池残量が 12% 程度になるまで強制的に充電を行い、その後は自動運転モードで動作します。
- **蓄電池ユニットを併設している場合**
蓄電池ユニットの残量が残っていた場合、蓄電池ユニットから電力を供給します。なお、太陽光発電電力が得られない状態で残量がゼロになった場合は、復電するまで本製品を利用することはできません。

充放電コネクタが取り出せなくなった場合

- コネクタロックが解除されていないと、充放電コネクタは取り出せません。V2H ポッドの操作パネル、専用アプリ、または室内リモコンのいずれかで、コネクタロックの解除を行ってください。（18 ページ）
- 一度運転モードを設定してください。設定することで取り外せる場合があります。
 - ① V2H ポッドの操作パネルにて、「自動運転」または「充電」ボタンを押してください。
 - ② V2H ポッドの操作パネルにて、「コネクタロック」ボタンを押してください。
- 症状が変わらない場合は、「充放電コネクタを緊急離脱する場合」（49 ページ）を参照してください。
- 充放電コネクタホルダーから充放電コネクタが取り出せなくなった場合は、コネクタロックボタンを一度押すと、点検コード「BI736」を表示してロックが解除されます。

充放電コネクタを落としてしまった場合

充放電コネクタのロック / アンロック表示が「青」になり、ロックがかかった状態になる場合があります。その場合は、車両に接続してコネクタロックの操作を行ってから再度コネクタロック解除操作を行うと、充放電コネクタのロック / アンロック表示が「銀」になり、コネクタロックが解除されます。

充放電コネクタが濡れてしまった場合

布などで水分を拭き取ってください。そのままにしておくと、感電の原因となります。

充放電コネクタが凍結してしまった場合

冬季中、充放電コネクタが凍結し抜けなくなることがあります。その場合は無理に抜こうとせずに V2H システムの動作を停止し、ぬるま湯をかける、もしくはドライヤーの風をあてて解凍してください。付着した水分は乾いた布で拭き取ってください。

その他ご使用に関する操作方法等

充放電コネクタを緊急離脱する場合

緊急離脱について

緊急の場合は、付属の「充放電コネクタ緊急離脱工具」を使用して充放電コネクタを取り外すことができます。

- 緊急離脱を行った場合は、充放電コネクタは利用できなくなるため、必ずお買い上げの販売会社にご連絡ください。
- 保証期間中であっても、不具合以外の要因で緊急離脱を行った場合のサービス対応費用はお客様ご負担となります。

重要

充放電コネクタ緊急離脱工具の入った袋に取扱説明書が同封されています。

“開封前に必ずお読みください”として下記を明示しています。開封された場合は下記内容に同意されたものとみなします。

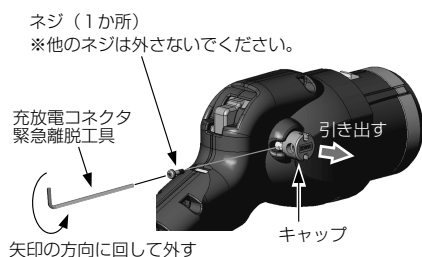
- 緊急離脱を行った充放電コネクタは使用できなくなります。
- 緊急離脱を行った場合は弊社による点検と内部スイッチ機能の回復が必要となります。
- 本書の「安全のために必ずお守りください」を作業前に必ずお読みください。
- 本書の記載内容を熟読し、手順に従って作業を行ってください。

緊急離脱の手順

作業前に以下を確認してください。

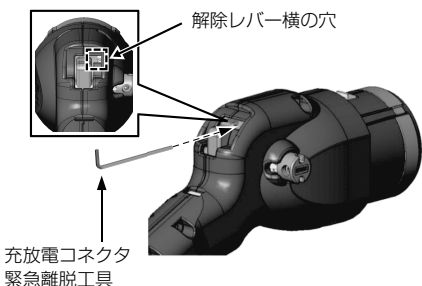
- 充放電が停止していること。
- V2H ポッドのランプがすべて消灯していること
- 12V 電源ケーブルが接続されていないこと

1 充放電コネクタ緊急離脱工具を使用してキャップのネジを外して、キャップを引き出す



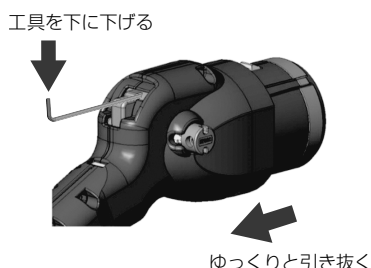
この操作（キャップを引き出す）をすると、充放電コネクタは使用できなくなります。弊社による機能の回復（有償）が必要になります。

2 キャップを引き出した後、解除レバー横の穴に充放電コネクタ緊急離脱工具を差し込む



穴の下面に沿うように差し込んでください。奥まで差し込まないと取り出せないことがあります。

3 充放電コネクタ緊急離脱工具を下げながら、充放電コネクタをゆっくりと充電口から引き抜く



重要

緊急離脱工具を使用した場合は、充放電コネクタは利用できなくなります。取り外し完了後は必ずお買い上げの販売会社にご連絡ください。

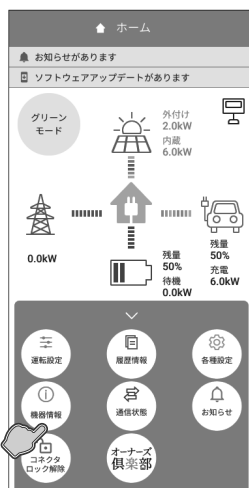
停電時、安全を確認してから家電製品をご利用になりたい場合

停電時の電力供給方法を設定できます。下記に従って、操作を行ってください。

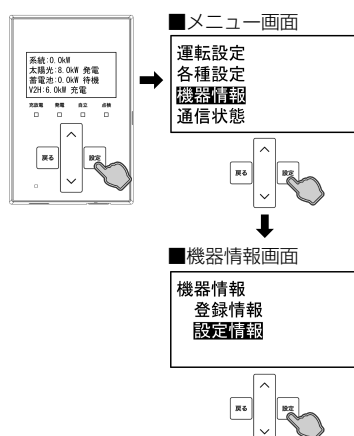
●事前設定

1 「機器情報」をタッチする

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

ドローメニューの「機器情報」をタッチ→「機器情報」画面に切り替わります。

メモ

- 「機器情報」画面はスクロールして項目を表示してください。

● 室内リモコンの場合

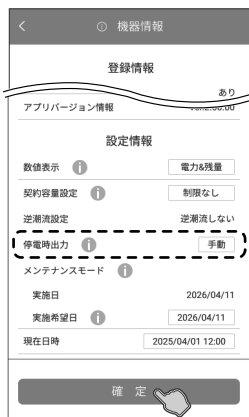
「設定」をタッチ→メニュー画面で「機器情報」を選択し「設定」をタッチ→機器情報画面で「設定情報」を選択し「設定」をタッチ→「設定情報」画面に切り替わります。

メモ

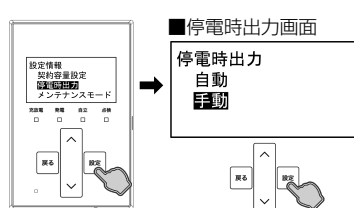
- 「 $\wedge$ / $\vee$ 」をタッチして項目を選択します。

2 「停電時出力」を「手動」に変更する

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

「停電時出力」を「手動」(38 ページ参照) に設定し、「確定」をタッチすると、設定確認画面に切り替わります。「確定」をタッチすると、変更内容を確定してホーム画面に戻ります。

メモ

- 「機器情報」画面はスクロールして項目を表示してください。
- 機器情報を変更した状態でナビゲーションバーの「<」(戻るボタン)をタッチすると、キャンセル確認の画面に切り替わります。「確定」または「戻る」をタッチすると、「ホーム」画面または「機器情報」画面に戻ります。

● 室内リモコンの場合

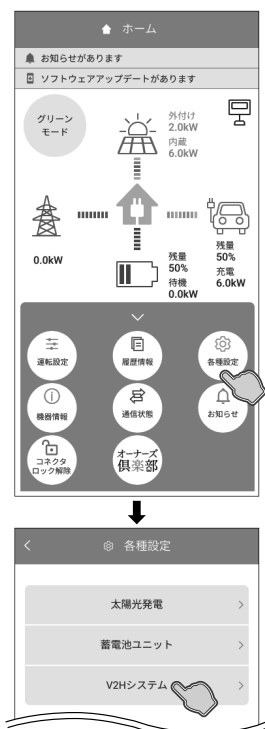
設定情報画面で「停電時出力」を選択し「設定」をタッチ→停電時出力画面で「手動」(38 ページ参照)を選択し「設定」をタッチすると、設定確認画面に切り替わります。「設定」をタッチすると、変更内容を確定して前画面に戻ります。

メモ

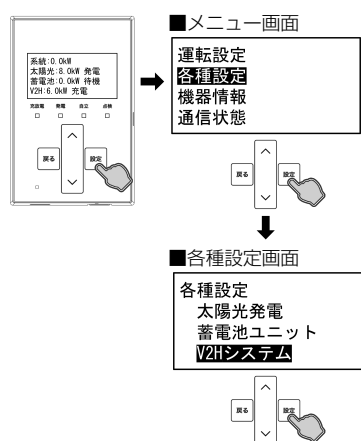
- 「 $\wedge$ / $\vee$ 」をタッチして項目を選択します。「戻る」をタッチすると一つ前の画面に戻ります。「ホーム」画面に戻るまで「戻る」をタッチしてください。

3 「各種設定」→「V2H システム」をタッチする

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

ドローメニューの「各種設定」をタッチ→「V2Hシステム」をタッチ→「各種設定 / V2H システム」画面に切り替わります。

● 室内リモコンの場合

「設定」をタッチ→メニュー画面で「各種設定」を選択し「設定」をタッチ→各種設定画面で「V2Hシステム」を選択し「設定」をタッチ→「V2H システム」画面に切り替わります。

メモ

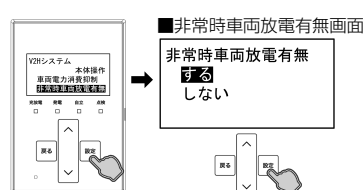
- 「 $\wedge$ / $\vee$ 」をタッチして項目を選択します。

4 「非常時車両放電有無」を「する」に設定する

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

「非常時車両放電有無」を「する」(32 ページ参照) に設定し、「確定」をタッチすると、設定確認画面に切り替わります。「確定」をタッチすると、変更内容を確定してホーム画面に戻ります。

メモ

- 「V2H システム」画面はスクロールして項目を表示してください。
- V2H システムを変更した状態でナビゲーションバーの「<」(戻るボタン)をタッチすると、キャンセル確認の画面に切り替わります。「確定」または「戻る」をタッチすると、「ホーム」画面または「V2H システム」画面に戻ります。

● 室内リモコンの場合

V2H システム画面で「非常時車両放電有無」選択し「設定」をタッチ→非常時車両放電有無画面で「する」(32 ページ参照)を選択し「設定」をタッチすると、設定確認画面に切り替わります。「設定」をタッチすると、変更内容を確定して前画面に戻ります。

メモ

- 「 $\wedge$ / $\vee$ 」をタッチして項目を選択します。「戻る」をタッチすると一つ前の画面に戻ります。「ホーム」画面に戻るまで「戻る」をタッチしてください。

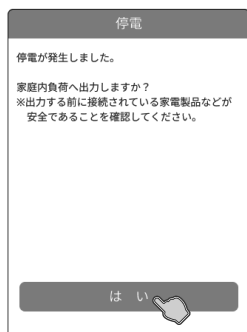
●停電発生時の操作

1 安全を確認する

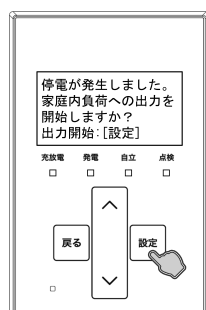
停電が発生したら、配線、コンセントと接続している家電製品などが安全であることを確認します。

2 「はい」(室内リモコンは「設定」)をタッチする

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

「ホーム」画面に戻り、家電製品に電気が供給されます。繰り返し停電が発生した場合は、その都度、操作をしてください。

● 室内リモコンの場合

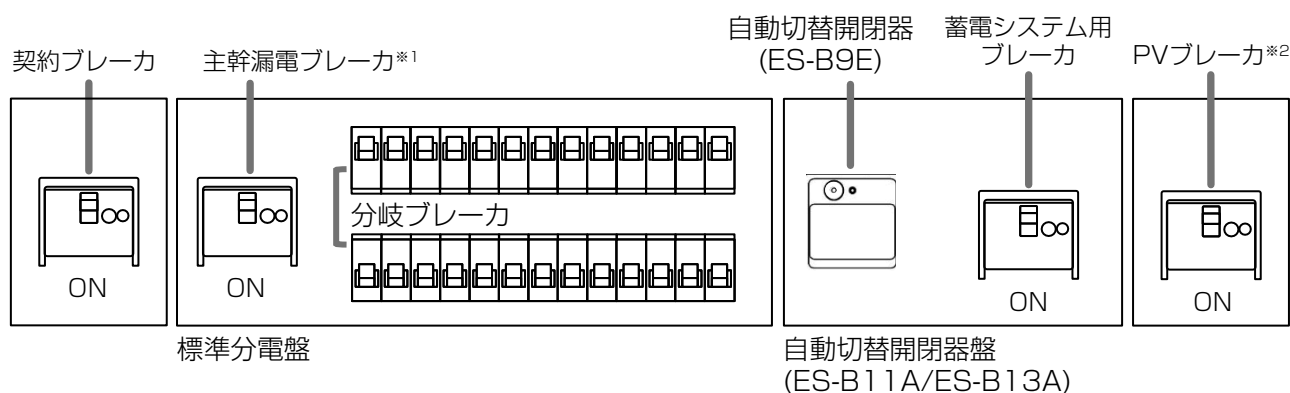
前画面に戻り、家電製品に電気が供給されます。繰り返し停電が発生した場合は、その都度、操作をしてください。

長期不在の場合

V2H システムを起動したまま不在する場合

長期不在となる場合は、運転モードを「グリーンモード」もしくは「売電モード」に設定し、「契約ブレーカ」、「主幹漏電ブレーカ」、「蓄電システム用ブレーカ」は「ON」の状態を維持してください。

■ 分電盤、ブレーカ配置例



※ 1: 主幹漏電ブレーカは分岐ブレーカの隣に配置しています。

※ 2: 外付け PV パワコンありの場合のみ設置されています。

メモ

- 家電製品に電気を供給したくない場合は、標準分電盤の個々の分岐ブレーカを「OFF」に切り替えてください。
- 点検コードが出た状態で放置しないでください。過放電の状態となり、電池交換(有償)となることがあります。

V2H システムを停止させて不在する場合

V2H システムを長期間停止する場合は、過放電を防止するため、本製品内部の操作が必要となります。お客様は本製品内部を開けられず操作できません。お買い上げの販売会社に操作を依頼してください。

重要 「過放電にご注意ください」

本製品は、太陽電池モジュールが発電すると、V2H システムを自動で起動する制御がはたされますが、契約ブレーカや蓄電システム用ブレーカが「OFF」の場合は、制御中に蓄電池の充電が行えず、蓄電池が過放電の状態となり、電池交換（有償）となることがあります。

過放電を防止するために、V2H システムおよび製品内部の操作、契約ブレーカ、主幹漏電ブレーカ、蓄電システム用ブレーカは正しく操作する必要があります。お買い上げの販売会社に操作を依頼してください。

- 契約ブレーカ、主幹漏電ブレーカ、蓄電システム用ブレーカを長期間「OFF」にする、あるいは V2H システムを長期間「運転停止」する必要がある場合は、お買い上げの販売会社に操作を依頼してください。
 - ① V2H システムを停止させる（下記参照）。
 - ② 本製品内部の「PV 直流開閉器」（ESS-T5 シリーズ :PV 直流開閉器 1 ～ 4、ESS-T6 シリーズ :PV 直流開閉器 1 ～ 5）を「OFF」にする。 ※お客様は操作できません。
 - ③ 契約ブレーカ、主幹漏電ブレーカ、蓄電システム用ブレーカを「OFF」にする。
- 上記操作後に、再度契約ブレーカ、主幹漏電ブレーカ、蓄電システム用ブレーカを「ON」にする、あるいは V2H システムの起動を再開する場合は、お買い上げの販売会社に操作を依頼してください。
 - ① 契約ブレーカ、主幹漏電ブレーカ、蓄電システム用ブレーカを「ON」にする。
 - ② 本製品内部の「PV 直流開閉器」（ESS-T5 シリーズ :PV 直流開閉器 1 ～ 4、ESS-T6 シリーズ :PV 直流開閉器 1 ～ 5）を「ON」にする。 ※お客様は操作できません。
 - ③ V2H システムを起動させる（55 ページ参照）。

V2H システムを停止させる場合

風水害により水没のおそれがある場合等、V2H システムを停止させる場合は、室内リモコンまたは専用アプリより下記手順に従って操作してください。

重要

V2H システムを運転停止の状態では放置しないでください。蓄電池が過放電の状態となり、電池交換（有償）となることがあります。V2H システムを運転停止した際は、速やかに V2H システムを起動させ、運転状態にしてください。



メモ

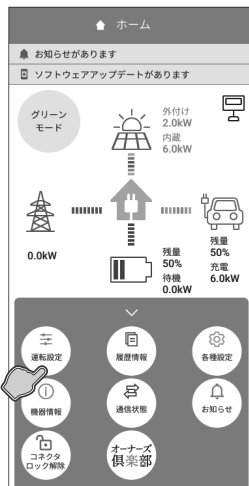
- 「蓄電システム用ブレーカ」を「OFF」にする際、ご家庭内全体でまれに 5 秒程度電気の供給が停止することがあります。そのため、家電製品によっては、タイマー情報などが消失する可能性があります。その場合は再度タイマー設定してご利用ください。

1 運転停止前確認をする

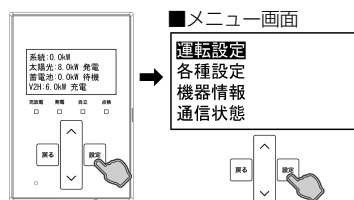
家電製品の電源を「OFF」にしてから V2H システムを停止させてください。

2 「運転設定」をタッチする

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

ドローメニューの「運転設定」をタッチ→「運転設定」画面に切り替わります。

● 室内リモコンの場合

「設定」をタッチ→メニュー画面で「運転設定」を選択し「設定」をタッチすると、「運転設定」画面に切り替わります。



メモ

- 「△ / ▽」をタッチして項目を選択します。

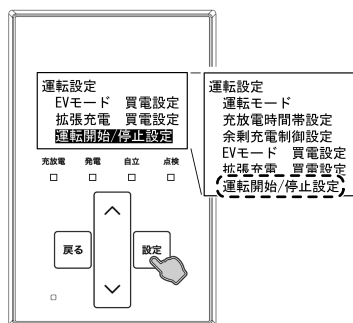
3 「運転停止」(室内リモコンは「運転開始 / 停止設定」を選択して「設定」) をタッチする

● 専用アプリ



● 室内リモコン

・ESS-T5 シリーズの場合



● 専用アプリの場合

「運転停止」をタッチすると、運転停止の確認画面に切り替わります。

● 室内リモコンの場合

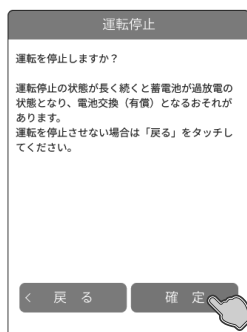
運転設定画面で「運転開始 / 停止設定」を選択し「設定」をタッチすると、運転停止の確認画面に切り替わります。

メモ

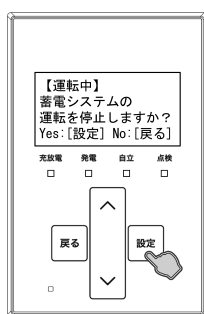
- 「ハ/V」をタッチすると選択メニューをスクロール表示して選択できます。「戻る」をタッチすると前画面に戻ります。
- ESS-T6 シリーズの場合、「余剰充電制御設定」は表示されません。

4 V2H システムの運転を停止する

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

「確定」をタッチすると、V2H システムの運転を停止して、停止処理画面に切り替わります。「戻る」をタッチすると、運転を停止せずに前画面に戻ります。

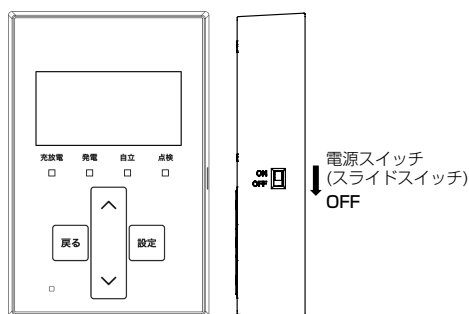
● 室内リモコンの場合

「設定」をタッチすると、V2H システムの運転を停止して前画面に戻ります。「戻る」をタッチすると、運転を停止せずに前画面に戻ります。

メモ

- 「戻る」をタッチすると一つ前の画面に戻ります。「ホーム」画面に戻るまで「戻る」をタッチしてください。

5 室内リモコンの電源を「OFF」にする



室内リモコンの電源スイッチ（スライドスイッチ）をOFFにしてください。

6 蓄電システム用ブレーカを「OFF」にする

「蓄電システム用ブレーカ」を「OFF」にしてください。

メモ

- 「蓄電システム用ブレーカ」を「OFF」にする際、ご家庭内全体でまれに 5 秒程度電気の供給が停止することがあります。そのため、家電製品によっては、タイマー情報などが消失する可能性があります。その場合は再度タイマー設定してご利用ください。
- 「蓄電システム用ブレーカ」の位置は、52 ページを参照してください。

V2H システムを起動させる場合

V2H システムを起動させる場合は、室内リモコンまたは専用アプリより下記手順に従って操作してください。

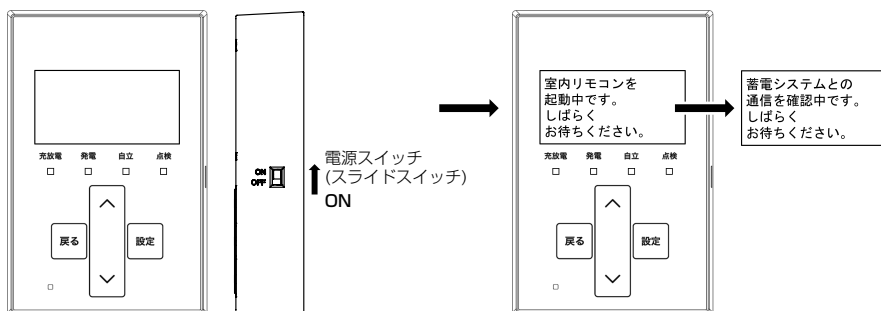
1 蓄電システム用ブレーカを「ON」にする

「蓄電システム用ブレーカ」を「ON」にしてください。



- 「蓄電システム用ブレーカ」の位置は、52 ページを参照してください。

2 室内リモコンの電源を「ON」にする



室内リモコンの電源スイッチ（スライドスイッチ）を ON にしてください。本システムとの通信が確認できると、「ホーム」画面に切り替わります。



- 室内リモコン起動中および蓄電システム通信確認中は、室内リモコンの電源を「OFF」しないでください。

3 専用アプリを起動して室内リモコンに接続する（専用アプリを利用する場合）

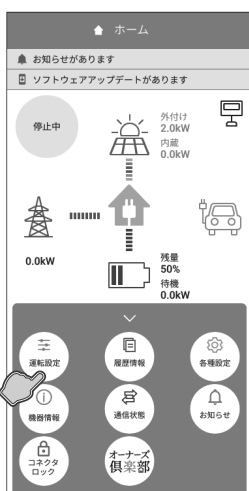
● 専用アプリ

接続方法については、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「専用アプリの設定について」を参照してください。
室内リモコンと接続すると、「ホーム」画面に切り替わります。

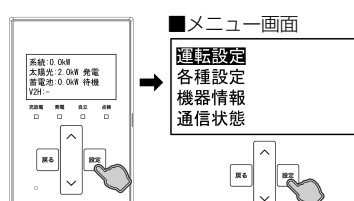


4 「運転設定」をタッチする

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

ドローメニューの「運転設定」をタッチ→「運転設定」画面に切り替わります。

● 室内リモコンの場合

「設定」をタッチ→メニュー画面で「運転設定」を選択し「設定」をタッチすると、「運転設定」画面に切り替わります。



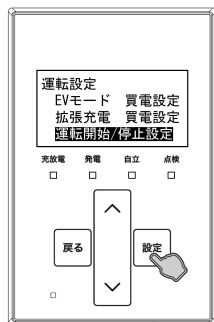
- 「 $\wedge$ / $\vee$ 」をタッチして項目を選択します。

5 「運転開始」(室内リモコンは「運転開始 / 停止設定」を選択して「設定」) をタッチする

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

「運転開始」をタッチすると、運転開始の確認画面に切り替わります。

● 室内リモコンの場合

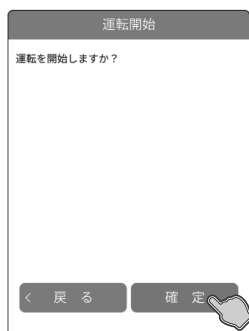
運転設定画面で「運転開始 / 停止設定」を選択し「設定」をタッチすると、運転開始の確認画面に切り替わります。

メモ

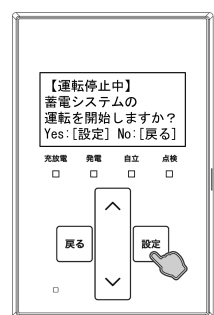
- 「ハ / ヴ」をタッチして項目を選択します。「戻る」をタッチすると前画面に戻ります。

6 V2H システムの運転を開始する

● 専用アプリ



● 室内リモコン



● 専用アプリの場合

「確定」をタッチすると、V2H システムの運転を開始して「ホーム」画面に切り替わります。「戻る」をタッチすると、運転を開始せずに前画面に戻ります。

● 室内リモコンの場合

「設定」をタッチすると、V2H システムの運転を開始して前画面に戻ります。「戻る」をタッチすると、運転を開始せずに前画面に戻ります。

メモ

- 「戻る」をタッチすると一つ前の画面に戻ります。「ホーム」画面に戻るまで「戻る」をタッチしてください。

V2H システムを廃棄する場合

使用後、すみやかに廃棄してください。廃棄する場合は、お買い上げの販売会社にお問い合わせください。廃棄費用はお客様負担となります。

風水害または地震などの対応

- 風水害により水没のおそれがあるときは、あらかじめ本システムの運転を停止させて、蓄電システム用ブレーカを「OFF」にしてください。(53 ページ)
- 水没した場合は、本システムを停止させた状態で、お買い上げの販売会社までご連絡ください。
- 地震により点検コードが表示されるなどの異常が発生した場合は、お買い上げの販売会社までご連絡ください。

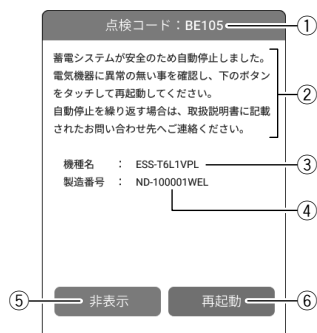
点検コード (BExxx、BFxxx、Blxxx) が表示されたとき

蓄電システムが何らかの原因で一時的に停止したとき、または停止中の状態のときに、点検コード「BExxx」、「BFxxx」、「Blxxx」(xxx には 3 桁の数字が入ります) が表示されます。点検コードが表示されたときは、「点検コードのメッセージと処置」(57 ページ) に従って処置してください。

お買い上げの販売会社または弊社専用ダイヤルにご連絡いただく際は、画面に表示される機種名、製造番号、点検コードを合わせてご連絡ください。(「アフターサービスについて」(61 ページ) 参照)

■ 点検コード画面例

● 専用アプリ



① 点検コード

発生した点検コードを表示します。

② メッセージ

点検コードの内容を表示します。(57 ページ)

③ 機種名 / ④ 製造番号

システム機種名と製造番号を表示します。(38 ページ)

⑤ 非表示【専用アプリ】

タッチすると、点検コードを非表示にします。点検コード「BExxx」、「BFxxx」は、30 秒経過しても解消されない場合に再度表示します(「BE000」除く)。

⑥ 再起動【専用アプリ】

タッチすると、蓄電システムを再起動します。

⑦ 設定【室内リモコン】

タッチすると、蓄電システムを再起動します。

⑧ 戻る【室内リモコン】

タッチすると、ブザー音を停止して 30 秒間点検コードを非表示にします。

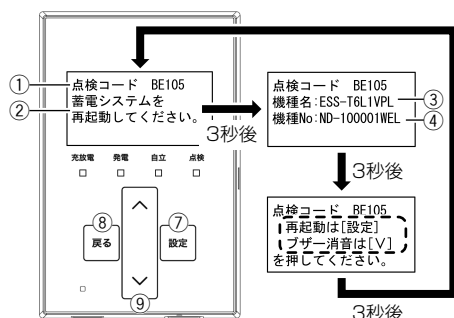
⑨ 消音 / V ボタン【室内リモコン】

タッチすると、ブザー音を停止します。

✎ メモ

- 点検コード「BExxx」、「BFxxx」の場合は、室内リモコンの点検コード画面は 3 秒ごとに自動で切り替わります。
- 点検コード「Blxxx」の場合は、室内リモコンの点検コード画面の表示は切り替わりません。

● 室内リモコン



重要

点検コードが表示された状態で放置しないでください。蓄電池が過放電の状態となり、電池交換（有償）となることがあります。

点検コードのメッセージと処置

点検コード	専用アプリメッセージ	室内リモコンメッセージ	処置
BExxx	蓄電システムが安全のため自動停止しました。電気機器に異常の無い事を確認し、下のボタンをタッチして再起動してください。自動停止を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。	蓄電システムを再起動してください。	メッセージに従い、蓄電システムを再起動してください。自動停止を繰り返す場合は、お買い上げの販売会社にご連絡ください。
BE201 BE202 BE203	接続機器の消費電力がパワーコンディショナの出力をオーバーしたため、放電を停止しました。ご家庭の家電製品の電源をいくつか切って、下のボタンをタッチして再起動してください。掃除機、電子レンジ、ドライヤー等、消費電力の大きな機器の使用は避けてください。	家電製品の接続を減らしてください。	停電時に本製品からの給電で電力が賄いきれなくなると表示されます。掃除機、電子レンジ、ドライヤー、ヒーター等、消費電力の大きい機器のご使用はお控えください。
BFxxx	蓄電システムが自動停止しました。安全確認後、自動的に復帰します。自動停止を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。	安全確認後、自動的に復帰します。	蓄電システムは自動的に復帰するため操作の必要はありません。しばらくお待ちください。自動停止を繰り返す場合は、お買い上げの販売会社にご連絡ください。

点検コード	専用アプリメッセージ	室内リモコンメッセージ	処置
BI703 BI705 BI718 BI733 BI795 BI796	車両または充放電コネクタ付近で異常を検出したため、コネクタロックを解除しました。異常が無い事を確認し、再度コネクタロックを行ってください。 表示を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。	車両側での異常検知により、コネクタロックを解除しました。	車両または充放電コネクタ付近に異常がないことを確認し、再度コネクタロックを行ってください。 自動停止を繰り返す場合は、お買い上げの販売会社にご連絡ください。
BI710 BI736	V2Hシステムと車両の通信ができませんでした。充放電コネクタが正しく接続されているか確認してください。 表示を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。	充放電コネクタを確認してください。	充放電コネクタの差し込み状態を確認してください。 自動停止を繰り返す場合は、お買い上げの販売会社にご連絡ください。
BI730	V2Hシステムの非常停止ボタンが押されました。 安全を確認の上、再度非常停止ボタンを押してからコネクタロックを行ってください。	V2Hシステムの非常停止ボタンが押されました。	安全確認後、再度V2Hシステムの非常停止ボタンを押して点検コードを解除してください。 点検コード解除後はコネクタロックが解除された状態となりますので、再度コネクタロックを行ってください。
BI777 BI797	蓄電システムが車両からの停止指示により、コネクタロックを解除しました。 充放電電力が低い状態が続くと、車両によっては停止処理が行われますので、その場合は車両電力消費抑制を設定してください。 また、車両の遠隔操作機能などを利用していた場合は、車両と接続することができません。	車両からの停止指示により、コネクタロックを解除しました。	車両からの指示により停止しました。 車両への充放電電力が低い状態が続いたときに表示される場合があります。 充放電コネクタの抜き差しを行い、再度コネクタロックをしていただくとともに、車両電力消費抑制を「する」に設定してください。
BI787	放電未対応車種のため放電できません。 充電をご利用の場合は、再度コネクタロックを行ってから、車両放電有無を「しない」に設定してください。	放電未対応車種のため放電できません。	車両放電に対応しない車種 ^{*1} で放電した場合に表示されます。充電を行う場合は再度コネクタロックを行ってから、車両放電有無を「しない」に設定してください。
BI788	蓄電システムが車両からの停止指示により、コネクタロックを解除しました。 シフトレバーがパーキングになっていない可能性があります。 シフトレバーをパーキングに操作して、再度コネクタロックを行ってください。	車両のシフトレバーをパーキングに操作してください。	車両のシフトレバーがパーキングになっていない場合に表示されます。 車両のシフトレバーをパーキングに操作してから再度コネクタロックを行ってください。
BI789 BI794	接続未対応車種のため接続できません。 充放電コネクタを車両から抜いてください。 なお、接続可能な車種であっても稀に発報する場合がありますが、故障ではありませんので再度コネクタロックを行ってください。	接続未対応車種のため接続できません。	V2Hシステムとの接続に未対応の車種 ^{*1} が接続された場合に表示されます。

※ 1: V2Hシステムの対応車種については、ニチコンホームページを参照してください。
https://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html

蓄電池のメンテナンスモードについて

メンテナンスモードとは、蓄電池を自動的に点検するモードです。(蓄電池ユニットを併設している場合に実施されます。)自動運転モードの充放電時間帯の設定に関係なく、メンテナンスモード実施日の午前1時から開始します。

メンテナンスモードは、[充電]→[放電]の順番で充放電動作を行います。

メンテナンスモード完了後は、メンテナンスモード開始前の自動運転モードに戻ります。

詳しくは、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「蓄電池のメンテナンスモードについて」を参照してください。

重要

- メンテナンスモード実施中に車両の充電を行いたい場合は、運転モードを「車両充電」または「拡張充電」に設定してください。なお、運転モードを「車両充電」または「拡張充電」に変更すると、メンテナンスモードは中止されます。
- メンテナンスモード実施中は、運転モードを「エレクトリック充電」に設定することはできません。
- メンテナンスモード実施中に運転モードを「グリーンモード」、「売電モード」、「EVモード」または「AI運転モード」に設定すると、メンテナンスモードは中止にならず、メンテナンスモード完了後に設定されたモードで動作します。
- 車両の充放電動作中にメンテナンスモードが開始された場合は、車両の動作を中止します。その後メンテナンスモードの放電動作開始時に車両が充電可能な状態であれば、蓄電池から放電した電力を車両へ充電します。なお、車両が満充電などで充電不可能な状態になった場合は、蓄電池からの放電電力はご家庭内へ供給されます。
- メンテナンスモード実施中に蓄電池残量が10%を下回った車両が接続された場合は、接続された時点でメンテナンスモードを中止し、車両の蓄電池残量が12%程度になるまで強制的に充電を行います。12%程度まで充電を行った後は、メンテナンスモード開始前の自動運転モードに戻り、その後翌日の午前1時にメンテナンスモードを再実施します。

車両に接続する際の注意点

車両を V2H システムに接続する際は、以下の内容をご確認ください。

接続対応車種について

- 対応車種の最新情報は、ニチコンのホームページをご確認ください。接続確認ができた車両については、順次公開します。
なお、今後発売されるすべての車両接続をお約束するものではありません。

■対応車種一覧



https://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html

- 対応車種の中でも車両側のプログラムを変更する必要がある場合があります。車両のプログラムの変更に関しては、車両の販売店へお問い合わせください。

接続するまえに

- 接続する車両の取扱説明書をご確認ください。
- 大雨の中（暴風雨や雷が予測されるなか）では使用しないでください。
ただし、雨や雪の中でも、下記にご注意いただければ使用可能です。
 - 感電や漏電を防止するため、濡れた手で充放電コネクタに触れたり、抜き差しをしないでください。
 - 万が一、コネクタが濡れてしまったり、雪が付着している場合は、布などで水分、雪を拭きとってください。
- 自立運転を行う際に V2H システムを起動するための電源供給は、付属の 12V 電源ケーブルを使用する車両と充放電コネクタから直接供給される車両があります。車両の操作を含め、接続する車両の取扱説明書をご確認ください。

接続中の注意

- V2H システム使用中は、車両側の各種設定や機能（充電の上限設定、タイマー充電など）を使用せず、V2H システム側の設定機能を使用してください。
- 放電に対応していない車種は、本製品の放電機能を使用できません。
- 充放電時間帯中は、充放電を行っていない場合でも車両と V2H システム間の通信維持のため、車両の蓄電池が電力を消費します。
- 車両によってはバッテリー性能維持のため、定期的な普通充電の使用が推奨されていることがあります。
- 車両からの指示で V2H システムの充放電電力が抑制されたり、充放電が設定値より早く停止することがあります。
- その他車両ごとの注意事項については、ニチコンのホームページをご確認ください。

日産自動車株式会社の車両 (EV) に接続する際の注意点

日産自動車株式会社の車両と V2H システムの充放電コネクタを接続した状態で「EV - IT」や「NissanConnect」機能は使用しないでください。車両および本製品の機能が正常に動作しません。誤って使用してしまい、正常に動作しなくなった場合は、下記の操作を行ってください。

- 車両のリセット
 - (1) 充放電コネクタを車両から外します。
 - (2) 車両のブレーキペダルを踏み、パワースイッチを ON にします。
 - (3) 車両のタイマー機能 (タイマー充電、タイマーエアコン) が設定されている場合は、設定を解除します。
 - (4) 車両のパワースイッチを OFF にします。
- 点検コード発生時の対処
上記車両のリセットを行っても、専用アプリや室内リモコンに点検コードが表示されたままの場合は、専用アプリや室内リモコンに表示しているメッセージに従い、V2H システムを再起動してください。

三菱自動車株式会社の車両 (EV) に接続する際の注意点

コネクタロック状態で充放電状態を行っていない、または充放電電力が 200 W 以下の状態が 15 分以上続くと、充放電を停止し、コネクタロックを解除します。契約電力と比較して、家庭内消費電力が大きいため、充電電力が確保できない場合は、契約電力を見直すか、ご家庭の使用電力を小さくするよう調整してください。

メルセデス・ベンツ日本合同会社の車両 (EV/PHEV) に接続する際の注意点

車両の充放電電力が少ない場合や車両の蓄電池残量が 100% になると、車両からの要求で動作を停止し、コネクタロックが解除されることがあります。この場合、車両の再起動が必要となり、車両の鍵を携行して直接充放電コネクタの抜き差しが必要となります。

上記の現象を抑えるため、該当の車両をお持ちの場合は、下記の設定にてご利用ください。

- 車両充電上限値^{*1} : 「90%」もしくは車両の最大充電状態^{*2} の設定値よりも低い値
- 車両余剰充電上限値^{*1} : 「99%」もしくは車両の最大充電状態^{*2} の設定値よりも低い値
- 車両電力消費抑制^{*1} : 「する (パターン A)」

なお、上記の設定を行っても車両によっては動作を停止し、コネクタロックが解除されることがあります。その場合は下記の操作を行ってください。

- 車両の充放電電力が少ない状態が続くと点検コード「BI797」が表示されることがあります。その際は、車両の鍵を携行して直接充放電コネクタの抜き差しを行ってください。
- 手動運転モードにより車両の蓄電池残量が 100% になると点検コード「BI794」が表示されることがあります。その際は、車両の蓄電池残量を 99% 以下にしてから再度コネクタロックを行ってください。

※ 1: 詳しくは「V2H システムの各種設定について」(31 ページ) を参照してください。

※ 2: 詳しくは車両の取扱説明書を参照してください。

保証とアフターサービス

保証について

保証については、保証書の内容をよくお読みください。

弊社または販売会社からお渡ししますので、必ず販売会社名、引渡日等の記入をお確かめになり大切に保管してください。

注：上記の記載がない場合には無効となることがあります。

アフターサービスについて

ご不明点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売会社にお問い合わせください。また、機器や設置した建物の所有者の変更による機器の取り扱いについては、事前に販売会社にお問い合わせください。

販売元専用ダイヤルがご利用いただけない場合は、下記のニチコンサービスセンターまたはお客様窓口にご連絡ください。

修理を依頼されるとき

修理を依頼される場合は、次のことをお知らせください。

- お買い上げ時期
- 装置の型番と製造番号（装置側面の定格ラベルに表示）
- 故障の状況（点検コード、故障発生時の時間と天候など）

補修用性能部品の最低保有期間 / 修理対応期間

- 性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 装置の補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後、保証書記載の保証期間相当年数となります。
- 修理対応期間は、保証期間と同一期間とさせていただいておりますが、保証期間を過ぎていても修理可能な製品については、有料にて修理いたします。

移設などで機器を一時保管される場合は屋内（湿気の少ないところ）に保管してください

お客様ご自身では移設を行わないでください。

販売元専用ダイヤル		お買い上げの販売会社にお問い合わせください
ニチコン株式会社	故障した場合の連絡先	ニチコン株式会社サービスセンター 電話 : 03-5212-9211 ファックス: 03-5211-2153 平日・土・日・祝日・休業日: 9時～18時
	製品の使用方法などに関するお問い合わせ先	ニチコン株式会社お客様窓口 電話 : 0120-215-030 メール : info-ess@nichicon.com 平日 : 9時～17時 土・日・祝日・休業日は除く

補助金に関するご注意

購入時に補助金の交付を受けた方

設置時から一定期間の使用が義務付けられています

補助金の支給を受けて本製品を購入した場合は、設置時から一定期間本製品を適正にご使用していただく必要があります。

設置時から期間内に修理が必要になった場合は、お買い上げの販売会社にご連絡ください。

遠隔出力制御ルールに関するご注意

本製品は、2015年1月22日公布の再生可能エネルギー特別措置法施行規制の一部を改正する省令と関連告示に対応する機器です

再生可能エネルギーを最大限導入するために、電力会社の求めがあった場合は、遠隔出力制御を行う機器の設置が義務づけられました。省令改正に関して詳しくは、経済産業省のホームページをご参照ください。(https://www.meti.go.jp)
なお、遠隔出力制御は地域により対応が異なります。また、遠隔出力制御は電力会社の要請により実施されますので、詳しくは、各電力会社にお問い合わせください。

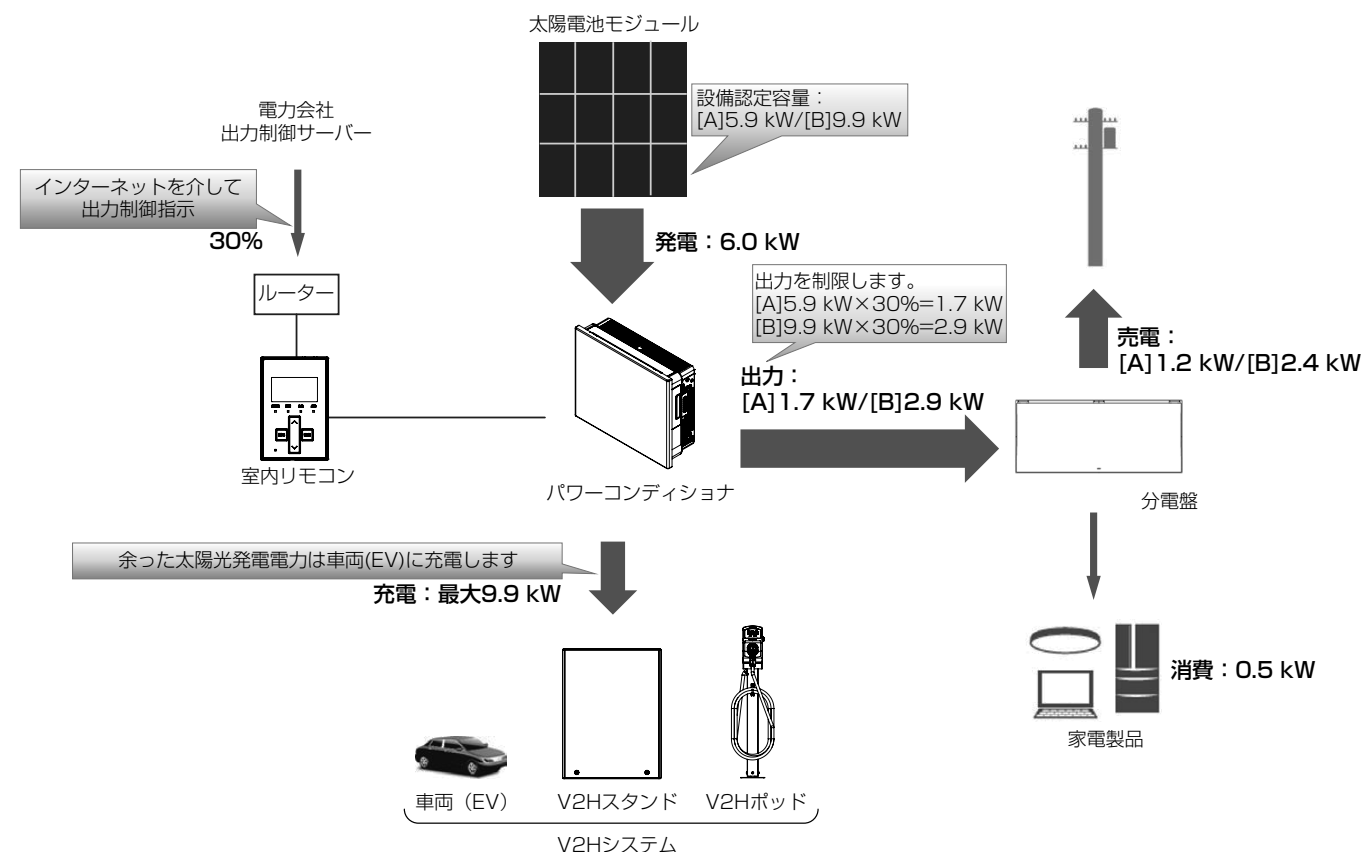
本製品は、電力会社の遠隔出力制御を有効にするために、インターネットへの接続が必要です

インターネットへの接続はお客様のネットワーク環境を利用します。インターネット回線契約・利用に伴う費用はお客様のご負担となります。なお、インターネットへ接続されない場合は、有償での訪問対応作業が必要となりますのでご注意ください。発電停止による損失は、当社では責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

また、今後正式発表される遠隔出力制御の仕様によっては、機器のソフトウェア更新の他に、有償での対応作業が必要となる場合があります。詳しくは、お買い上げの販売会社にお問い合わせください。また、インターネットの接続方法については、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「ネットワークの設定【室内リモコンのみ】」を参照してください。

■ 例：出力制御指示が30%([A]ESS-T5シリーズ/[B]ESS-T6シリーズ)の場合

本製品の設備認定容量の30%まで、パワーコンディショナの出力が制限されます。本製品の設備認定容量については、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「太陽光発電設定について」を参照してください。



重要 太陽光発電の電圧上昇抑制や遠隔出力制御について

システムの様々な状況による電圧上昇抑制や、電力会社による出力制御要請により、太陽光発電の余剰電力の一部を売電できない場合があります。売電できない余剰電力は、お客様が設定した充放電時間内であれば車両へ充電を行います。以下の場合は車両へ充電しません。

- コネクタロックが解除されている場合
- V2Hシステムの「車両放電有無」が「しない」に設定されている場合 (31 ページ)
- 車両の蓄電池残量が車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回っている場合

なお、蓄電池ユニットを併設している場合は、余剰電力は蓄電池ユニットに充電され、蓄電池ユニットが満充電になり次第、車両への充電に切り替わります。

本製品の機能比較一覧

本製品は、V2H システム (車両) および蓄電池ユニットの併設有無により設定できる項目や動作仕様が異なります。

対象画面	設定項目	設定項目有無 (○: 設定可能、◎: 設定可能かつ併設により動作仕様が異なる、X: 設定不可)	
		V2H システムのみ	V2H システム + 蓄電池ユニット
運転モード設定 (20 ~ 24 ページ、 39 ~ 40 ページ)	グリーンモード	○	◎ 太陽光の発電電力を家庭内負荷に供給し、余電力がある場合は優先設定に従い、車両や蓄電池ユニットへ充電します。
	売電モード	○	◎ 太陽光の発電電力を家庭内負荷に供給し、余電力がある場合は売電します。
	EV モード	X	◎ 太陽光発電電力の余剰分をあらかじめ蓄電池ユニットに充電し、車両が V2H システムに接続され次第、蓄電池ユニットから車両へ充電電力を移動します。
	蓄電池充電	X	○ 設定できます。
	車両充電	○	○ 設定できます。
	拡張充電	○	◎ 蓄電池ユニットの電力も利用して充電します。
	エレムープ充電	X	◎ 蓄電池ユニットから車両へ電力を移動します。
	自動給電切換設定 (停電時のみ)	○	◎ 太陽光発電電力量や家庭内負荷の消費量に応じて、優先設定に従い、車両や蓄電池ユニットの充放電動作を行います。
運転モードの各種設定 (28 ページ)	余剰充電制御設定 【ESS-T5 シリーズのみ】	X	○ グリーンモード利用時にパワーコンディショナに接続されている太陽光発電パネルの容量が 8.0 kW 以上だった場合に、太陽光発電の余剰充電の開始タイミングおよび余剰充電電力の制御を行うかを設定できます。
	EV モード買電設定	X	◎ EV モード利用時に電力会社の電力を利用して車両の充電を行うかを設定できます。
	拡張充電買電設定	○	◎ 拡張充電利用時に電力会社の電力を利用して車両の充電を行うかを設定できます。
V2H システム設定 (31 ~ 33 ページ)	車両充電上限値	○	○ 設定できます。
	車両余剰充電上限値	○	○ 設定できます。
	車両放電下限値	○	○ 設定できます。
	車両放電有無	○	○ 設定できます。
	放電優先設定	X	◎ 家庭内への電力供給を蓄電池ユニットもしくは車両のどちらから優先して行うかを設定できます。
	充電優先設定	X	◎ 充電を蓄電池ユニットもしくは車両のどちらから優先して行うかを設定できます。
	V2H システム本体操作	○	○ 設定できます。
	車両電力消費抑制	○	○ 設定できます。
	非常時車両放電有無	○	○ 設定できます。
	非常時車両放電下限値	○	○ 設定できます。
	非常時放電優先設定	X	◎ 停電時、家庭内への電力供給を蓄電池ユニットもしくは車両のどちらから優先して行うかを設定できます。
	非常時充電優先設定	X	◎ 停電時、充電を蓄電池ユニットもしくは車両のどちらから優先して行うかを設定できます。
蓄電池ユニット (35 ページ)	蓄電池充電上限値	X	○ 設定できます。
	蓄電池放電下限値 (非常時安心設定)	X	○ 設定できます。
	ピークカット設定	X	○ 設定できます。
	EV モード エレムープ残量値	X	◎ エレムープ充電用に蓄電池ユニットの蓄電池残量を残しておく設定です。
メンテナンスモード (58 ページ)		X	○ 蓄電池の点検を行います。

V2H システム

型番	ES-PL1	
外形寸法	V2H スタンド	W 470 mm × H 620 mm × D 197 mm(取付金具・突起部含まず)
	V2H ポッド	W 160 mm × H 355 mm × D 160 mm(取付金具・突起部含まず)
本体質量	V2H スタンド	26 kg
	V2H ポッド	7.9 kg
充放電コネクタケーブル長さ		7.5 m
充電部 (系統連系時)	電気方式	単相 2 線式 (接続は単相 3 線式)
	定格電圧	AC 202 V ± 12 V
	定格周波数	50 または 60 Hz
	出力電力	6 kW 未満 ^{※1} (拡張充電時 : 最大 9.9 kW ^{※2})
放電部 (系統連系時)	電気方式	単相 2 線式 (接続は単相 3 線式)
	定格電圧	AC 202 V ± 12 V
	定格周波数	50 または 60 Hz
	AC 出力電力	5.9 kW ^{※3}
放電部 (自立時)	電気方式	単相 3 線式
	定格電圧	AC 202 V ± 12 V
	定格周波数	50 または 60 Hz
	AC 出力電力	5.9 kVA (片相 : 2.95 kVA) ^{※3}
車両側電圧範囲		DC 150 V ~ 450 V
冷却方式		自然空冷方式 (内部攪拌ファンあり) ^{※4}
不要輻射		JET 規格 7.1.2 放射妨害波試験適合 JET GR0002-1-16.1 (2024) ^{※5}
運転時騒音		40 dB (A) 以下 ^{※6}
防水 / 防塵 保護等級		IP55 (水抜き穴、吸排気口を除く場合)
設置環境	設置条件	屋外、標高 2,000 m 以下、重塩害非対応 (- 30℃ ~ +45℃)
	動作温度 ^{※7}	- 20℃ ~ +40℃

※ 1: 機器の入力値であり、実際の充電出力を保証している数値ではありません。契約電力や家庭での使用状況および車両の充電率によって異なります。

※ 2: 車両の状態 (車種、充電率)、蓄電池ユニットの有無、太陽光の発電電力等によって異なる場合があります。

※ 3: 車両の状態 (車種、充電率) によって異なる場合があります。

※ 4: 動作中は V2H スタンド内蔵ファンの動作音が発生します。壁との距離等、設置環境により音の聞こえ方が異なる場合があります。

※ 5: 電波障害となる場合がありますので、ラジオ・テレビ等の電波を利用する機器とは 3 m 以上離してください。受信している電波の弱い場所では電波障害を受ける可能性があります。

※ 6: JIS C 1509-1 で規定する A 特性サウンドレベルを示します。製品正面中央から 1 m、高さ 1 m の距離での測定値です。

※ 7: JIS C 62477-1 で規定する高温高湿試験 (定常) における最高湿度 85% の動作温度を示します。

V2H システムの使用温度範囲について

蓄電システムを安全に動作させるため、パワーコンディショナおよび V2H システム内の温度センサがそれぞれ指定の値を検知した場合、V2H システムの動作に制限がかかります。

	温度範囲	制限内容
パワーコンディショナ	- 20℃ ~ +40℃	温度が使用範囲外になると待機状態もしくは点検コードを発報し停止しますが、範囲内に戻ると自動的に復帰します。なお、温度範囲の上限付近になると、パワーコンディショナ保護のため、充放電電力が低下します。
V2H システム	- 20℃ ~ +40℃	温度範囲の上限付近になると、V2H システム保護のため、充放電電力が低下します。

増設設置の可能期間

パワーコンディショナ設置後の蓄電池ユニット、増設蓄電池ユニット、V2H システムの追加設置は、2034 年 12 月まで可能です。

(同等品の商品ご提供となる場合があります。)

- 保証期間は、各商品の保証期間となります。
- 増設設置後のシステム機種名^{※1}は、製品の組み合わせにより自動的に切り替わります。

例)

パワーコンディショナ + 蓄電池ユニット (7.4 kWh)+V2H システム :ESS-T5M1VPL/ESS-T5MG1VPL/
ESS-T5MGCKVPL/
ESS-T6M1VPL/ESS-T6MG1VPL/
ESS-T6MGCKVPL

パワーコンディショナ + 蓄電池ユニット (9.9 kWh)+V2H システム :ESS-T5L1VPL/ESS-T6L1VPL

パワーコンディショナ + 蓄電池ユニット (14.9 kWh)+V2H システム :ESS-T5X1VPL/ESS-T5XG1VPL/
ESS-T5XGCKVPL/
ESS-T6X1VPL/ESS-T6XG1VPL/
ESS-T6XGCKVPL

パワーコンディショナ + 蓄電池ユニット (19.9 kWh)+V2H システム :ESS-T5Z1VPL/ESS-T6Z1VPL

パワーコンディショナ +V2H システム :ESS-T5VPL/ESS-T5CKVPL/
ESS-T6VPL/ESS-T6CKVPL

※ 1: システム機種名については「機器情報について」(38 ページ) を参照してください。



メモ

- 増設にあたっては制約条件、組み合わせ制限などがありますので、詳しくはお買い上げの販売会社にお問合せください。



京都市中京区烏丸通御池上る 〒 604-0845

<https://www.nichicon.co.jp>



ユーザーサポート（個人のお客様）

https://www.nichicon.co.jp/products/ess/user_support.html#anc01



よくある質問Q & A（トライブリッド蓄電システム
ESS-T5/T6 シリーズ）

https://www.nichicon.co.jp/products/ess/qa_ess-tribrid-t5t6.html



ニチコンオーナーズ倶楽部

<https://owners.nichicon.co.jp>



ESS-T5/T6 シリーズ V2H システム取扱説明書

https://www.nichicon.co.jp/products/ess/pdf/t5t6_torissetsu_v2h.pdf



V2H システム接続対応車種について

https://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html



ニチコンネットワークサービスについて

https://www.nichicon.co.jp/products/ess/pdf/network_service_manual.pdf

